



国立大学法人

東京海洋大学

Tokyo University of Marine Science and Technology

GUIDEBOOK 2027



国立大学法人
東京海洋大学長

井関 俊夫

東京海洋大学は、海洋に関する最先端の「科学」と「技術」(Marine Science and Technology)を身に付け、グローバルな視点で海洋の未来を切り拓く逞しい人材を育成しています。

本学では、「海を知り、海を守り、海を利用する」をモットーとして、各学部・学科および大学院の各専攻において充実した実学重視の教育カリキュラムを提供しています。学内の実験施設や、5つの水圏科学フィールド教育研究センター、そして3隻の大型練習船で行われる実験・実習では、実物を手で触って、自分の目で確かめ、自ら考えながら課題に取り組むことができます。教室で学んだ学術的概念や理論が、実験・実習で体得する知識と融合し、体系的に整理された知識として皆さんの体に蓄積されていきます。知識が増えていくにつれ、もっと知りたい、もっと理解したいという感情が湧き上がってきます。是非、知的好奇心の赴くまま、本学で多くのことを学んでください。

【グローバル教育】

全学生を対象とした国際交流協定締結校との「交換留学」、学部学生を対象とした「海外探検隊」、大学院生を中心とした「OCEANUS Plus プログラム」と「METIS プログラム」を実施しています。29か国・地域、91機関への短期派遣や単位互換を含む長期留学によって、地球規模の課題解決に向けたグローバル教育を実施しています。

【データサイエンス教育】

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の「リテラシーレベル」および「応用基礎レベル」の二つの学部教育プログラムを全学共通で開講しています。さらに、大学院生を対象とした「海洋AI・データサイエンス学位プログラム」では、国内外におけるインターンシップ等によって、海洋関連の専門知識とフィールドに関する豊富な経験を身につけ、AIやデータサイエンスを高度に活用した博士研究を行います。

【アントレプレナーシップ教育】

「海洋アントレプレナー養成プログラム」では、学部から大学院へとステップアップできる「海の起業論Ⅰ、Ⅱ」、「海洋アントレプレナー演習」、「海洋アントレプレナー特論」を正規科目として開講しています。自分の専門知識と自由な発想によって、海洋に関する身近な社会的課題にアプローチし、起業や企業内での新規プロジェクトの立ち上げに必要なノウハウを学ぶことができます。

【海洋高度専門人材を育む教育研究環境】

国内唯一の海洋系大学として、本学は世界をリードする最先端の研究に取り組んでいます。気候変動に対応する水産資源管理と水圏生物の生産効率化、次世代船舶の運用技術開発、自律型無人探査機のシステム開発と実証試験、洋上風力発電の要素技術開発など、地球規模の課題解決に直結する多数の研究プロジェクトが進行しています。皆さんが本学の学生となれば、こうした第一線の研究者と共に未知の研究領域に挑むことができます。

東京海洋大学は、充実した教育プログラムと最先端の研究環境を通じて、海洋の未来を切り拓く逞しい人材を育成しつづけています。

東京海洋大学の理念と目標等

大学の理念

人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行う。

大学の人材養成と目標

我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担っていくためには、国内唯一の海洋系大学である東京海洋大学が、「海を知り、海を守り、海を利用する」ための教育研究の中心拠点となって、その使命を果たす必要がある。このような基本的観点に立ち、本学は、研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的教育研究を行い、次の能力・素養を有する人材を養成する。

1. 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方策を提示し、実践する能力
2. 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力
3. 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力
4. 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力
5. 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養

大学像

海洋分野において国際的に活躍する産官学のリーダーを輩出する世界最高水準の卓越した大学。

海を知り、海を守り、 海を利用する

— Voices from the Ocean —

日本唯一の海洋系大学である東京海洋大学は、
都心にある2つのキャンパス（品川・越中島）に3つの学部を有しています。
豊かな自然に囲まれた5つのフィールド施設や、広大な海を巡る練習船を活用し、
実学重視の教育・研究を行っています。
本学では、充実した実験・実習環境や、少人数によるきめ細やかな指導などを通して、
海洋分野のスペシャリストとしての高度な専門性を身につけることができます。

先輩の声

東京海洋大学に
入学を決めた理由▶



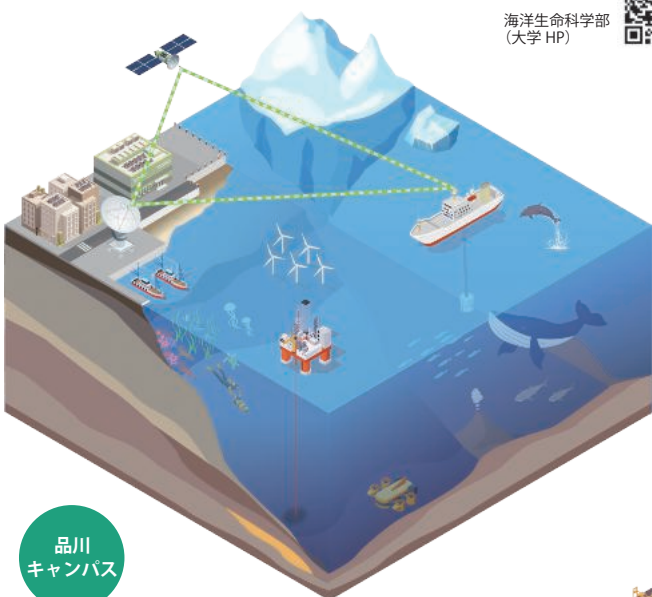
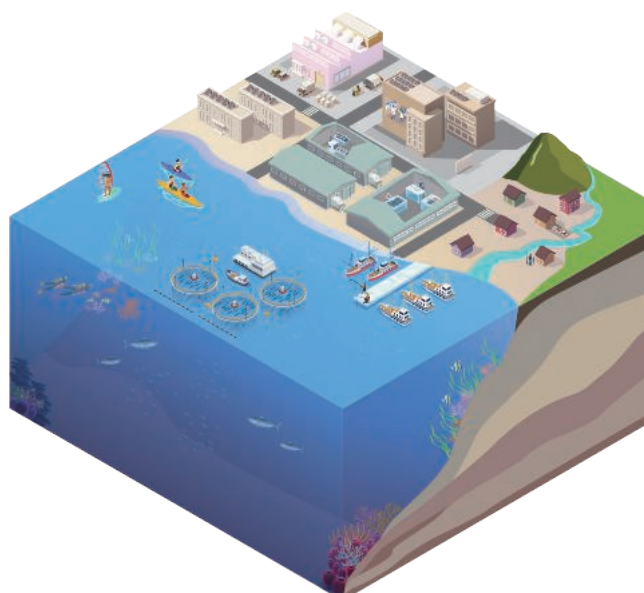
品川
キャンパス

海洋生命科学部

p.5 ~

- 海洋生物資源学科
- 食品生産科学科
- 海洋政策文化学科

海洋生命科学部
(大学HP)



品川
キャンパス

海洋資源環境学部

p.33 ~

- 海洋環境科学科
- 海洋資源エネルギー学科



海洋資源環境学部
(大学HP)

越中島
キャンパス

海洋工学部

p.19 ~

- 海事システム工学科
- 海洋電子機械工学科
- 流通情報工学科



海洋工学部
(大学HP)



INDEX

学長挨拶

学長 井関俊夫

東京海洋大学学部・学科早見表…………… 2

沿革…………… 4

海洋生命 科学部

p.5

海洋生物資源学科…………… 7

食品生産科学科…………… 11

海洋政策文化学科…………… 15

海洋 工学部

p.19

海事システム工学科…………… 21

海洋電子機械工学科…………… 25

流通情報工学科…………… 29

海洋資源 環境学部

p.33

海洋環境科学科…………… 35

海洋資源エネルギー学科…………… 39

卒業後の進路について…………… 43

専攻科・実習科…………… 43

大学院…………… 44

学生交流協定校への交換留学(短期派遣)…………… 45

国際交流体験…………… 46

海外との共同研究／学生交流…………… 47

練習船／水圏科学フィールド教育研究センター…………… 48

施設紹介…………… 49

キャンパスライフ…………… 50

学生生活サポート…………… 53

入試・入学・就職関連データ

入試概要／2027年度募集人員…………… 55

令和8年度入学者選抜データ…………… 56

令和8年度入試男女別入学状況…………… 58

令和8年度都道府県別志願者・入学者データ…………… 59

令和7年度卒業生の進路状況・就職状況…………… 59

キャンパスガイド…………… 60

東京海洋大学

品川キャンパス

海洋生命科学部

アドミッションポリシー

海洋生命科学部では、生命科学をはじめとする自然科学、人文・社会科学の深い理解を基盤に、人類社会の持続可能な発展に資するために、海洋を含む水圏に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、ディプロマポリシーにおいて掲げる専門的学識、自ら考え判断する能力、豊かな国際性と教養、および現場で適用する実践力を卒業時までまでに修得することができる素養、能力を有する人を求める。

海洋生物
資源学科

食品生産
科学科

海洋政策
文化学科

学べること

- 水生生物の生理
- 水生生物の生態
- 水生生物の保全
- 水生生物の飼育技術
- 生物多様性
- バイオテクノロジー
- ゲノム科学
- 生物資源動態
- 持続可能な漁業

- 食品の物性
- 食品流通
- 冷凍工学
- 微生物の利用
- 食の安全・安心
- 栄養と健康
- 未利用資源
- 食品加工
- 美味しさ

- 海洋政策
- 海洋法
- 海洋産業
- 水産経済
- 沿岸域・海洋管理
- 海洋保全
- 海洋文化
- マリンスポーツ
- 環境教育
- 生命・環境倫理

身につく知識・資格

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 技術士補(JABEE認定)^{※1}
- 三級海技士(航海)^{※2}
- 第一級海上特殊無線技士^{※3}
- 電子海図情報表示装置(ECDIS)講習の資格^{※3}

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 食品衛生監視員
- 食品衛生管理者
- 技術士補(JABEE認定)^{※1}
- 三級海技士(航海)^{※2}
- 第一級海上特殊無線技士^{※3}
- 電子海図情報表示装置(ECDIS)講習の資格^{※3}

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 技術士補(JABEE認定)^{※1}
- 三級海技士(航海)^{※2}
- 第一級海上特殊無線技士^{※3}
- 電子海図情報表示装置(ECDIS)講習の資格^{※3}

※1 卒業後、日本技術士会への登録が必要です。
 ※2 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。
 ※3 学部および海洋科学専攻科にて所定の単位の修得が必要です。

卒業後の進路

大学院 進学	83.3%	大学院 進学	78.5%	大学院 進学	38.2%
海洋科学 専攻科進学	3.0%	海洋科学 専攻科進学	0.0%	海洋科学 専攻科進学	5.9%
就職	12.1%	就職	21.5%	就職	50.0%
その他	1.5%	その他	0.0%	その他	5.9%

令和6年度卒業者のデータより

学部・学科 早見表

越中島キャンパス

海洋工学部

アドミッションポリシー

海洋工学部では、海上輸送に関連する海、船舶、省エネルギー技術、物流、情報システム等のグローバルな諸課題に関心を持ち、ディプロマポリシーで掲げている専門的知識を含む幅広い教養と豊かな人間性、課題の発見・理解力と解決力、国際的に活躍できる能力を卒業時までまでに修得することができる素養を有する人を求める。

海事
システム
工学科

海洋電子
機械工学科

流通情報
工学科

学べること

- 船舶運航
- 運航管理
- 船舶工学
- 情報・通信
- 海上交通システム
- システム工学
- 衛星測位工学
- 海洋気象学
- 海事法規
- 国際法
- 海事英語
- 海上危機管理
- エンジン
- ロボット
- 動力システム
- 制御システム
- 電気・電子機器
- 新材料
- 省エネ技術
- 環境対策技術
- 設計・製造技術
- ロジスティクス
- 国際物流
- 交通計画
- 交通経済
- 在庫管理
- 流通経営
- マーケティング
- 管理会計
- 数値情報
- プログラミング
- 機械学習
- データサイエンス

身につく知識・資格

- 高等学校教諭一種免許状（商船・工業）
- 第一級海上特殊無線技士
- 三級海技士（航海）^{※1}
- 船舶衛生管理者^{※3}
- 電子海図情報表示装置（ECDIS）講習の資格
- 高等学校教諭一種免許状（商船・工業）
- 三級海技士（機関）^{※2}
- 船舶衛生管理者^{※3}
- 高等学校教諭一種免許状（工業）
- 授業で関係する内容を学べる資格：情報処理技術者、通関士、中小企業診断士、ビジネス・キャリア検定（ロジスティクス管理、ロジスティクス・オペレーション）

※1 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、海事システム工学科を卒業後、乗船実習科（p.43）を修了すれば、筆記試験が免除されます。
 ※2 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、機関システム工学コースを卒業後、乗船実習科（p.43）を修了すれば、筆記試験が免除されます。
 ※3 海事システム工学科、海洋電子機械工学科機関システム工学コースのいずれかを卒業し、乗船実習科（p.43）を修了後、講習受講により取得できます。

卒業後の進路

大学院進学	17.8%	大学院進学	27.7%	大学院進学	14.3%
乗船実習科進学	40.0%	乗船実習科進学	40.4%	乗船実習科進学	—%
就職	40.0%	就職	29.8%	就職	85.7%
その他	2.2%	その他	2.1%	その他	0.0%

令和6年度卒業者のデータより

品川キャンパス

海洋資源環境学部

アドミッションポリシー

海洋資源環境学部では、海洋環境の保全、海洋の資源とエネルギーの持続的開発・利用に関心を持ち、ディプロマポリシーにおいて掲げる専門的学識、自ら考え判断する能力、豊かな国際性と幅広い教養、および現場で通用する実践力を卒業時までまでに修得することができる素養・能力を有する人を求める。

海洋環境
科学科

海洋資源
エネルギー
学科

学べること

- 気候変動
- 地球温暖化
- 環境保全
- 海流
- 波
- 混合・拡散
- 物質循環
- 海洋生物の分類と生理・生態・生化学
- 生物多様性
- 海洋生態系
- 海洋生物からの有用物質
- 海底資源開発・探査技術
- 海洋自然エネルギー
- 洋上風力発電
- 自動制御技術
- 国際海洋管理
- 地震活動・津波・海底地殻変動
- 超電導・電気電子デバイス
- 海洋・沿岸構造物
- 水中音響センシング・測位技術
- 環境保全技術
- 船舶・海上労働安全

身につく知識・資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（水産）
- 技術士補（JABEE認定）^{※1}
- 学芸員
- 三級海技士（航海）^{※2}
- 第一級海上特殊無線技士^{※3}
- 電子海図情報表示装置（ECDIS）講習の資格^{※3}
- 中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（水産）
- 技術士補（JABEE認定）^{※1}
- 学芸員
- 三級海技士（航海）^{※2}
- 第一級海上特殊無線技士^{※3}
- 電子海図情報表示装置（ECDIS）講習の資格^{※3}

※1 卒業後、日本技術士会への登録が必要です。
 ※2 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科（p.43）を修了すれば、筆記試験が免除されます。
 ※3 学部および海洋科学専攻科にて所定の単位の修得が必要です。

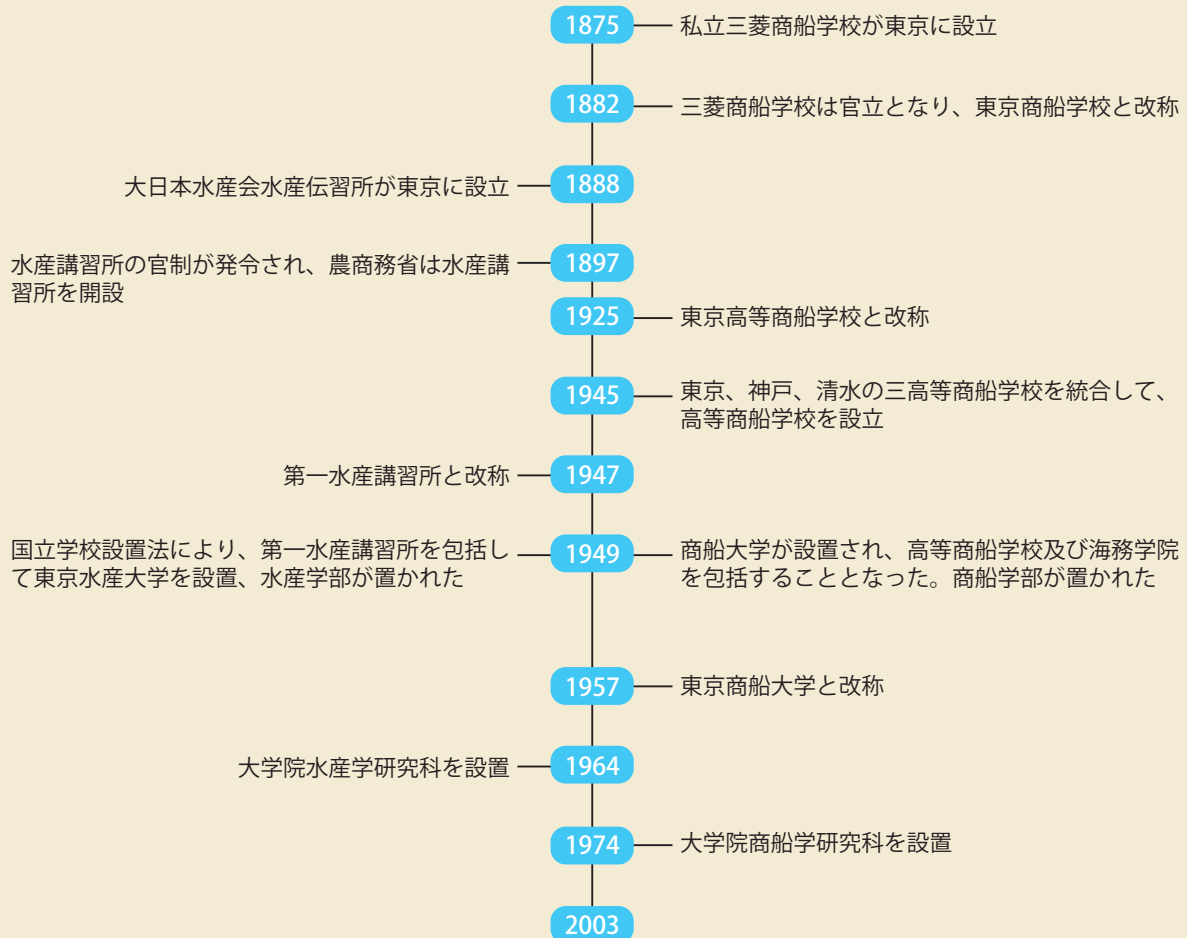
卒業後の進路

大学院進学	69.6%	大学院進学	40.9%
海洋科学専攻科進学	10.1%	海洋科学専攻科進学	22.7%
就職	14.5%	就職	31.8%
その他	5.8%	その他	4.5%

令和6年度卒業者のデータより

沿革

東京海洋大学は2003年10月に東京商船大学と東京水産大学が統合した大学です。両大学の前身はそれぞれ1875年と1888年に設立されており、本学は140年を超える歴史と伝統を誇っています。東京海洋大学は両大学の伝統と個性・特徴を継承すると共に、時代の要請に応じて、新たな教育研究分野への展開を図り、国内唯一の海洋系大学として、世界最高水準の卓越した教育研究拠点の形成を目指しています。



東京海洋大学
 大学院海洋科学技術研究科
 海洋科学部／海洋工学部

2017

海洋資源環境学部を設置
 海洋科学部を海洋生命科学部に改称

東京海洋大学ゆかりの著名人

<p>鈴木善幸 第70代内閣総理大臣 水産講習所卒業</p>	<p>高碓達之助 日中貿易(LT貿易)の開始 通商産業大臣 水産講習所卒業</p>	<p>岩崎彌太郎 三菱財閥創業者 三菱商船学校を設立</p>	<p>米窪満亮 初代労働大臣 商船学校卒業</p>
---	---	---	--



海洋生命科学部



TOPICS

グローバル人材育成支援プログラム

海洋生命科学部のグローバル教育※

● TOEIC 教育

本学部では、TOEIC600 点の獲得が 3 年次から 4 年次への進級要件とされています。TOEIC スコア向上のための必修科目及び集中講座や、英語学習アドバイザーによるカウンセリングなどの学習支援を通して、学生の基礎英語力の向上を丁寧にサポートしています。

● 海外派遣プログラム「海外探検隊」

アジアの大学や企業を訪問する約 1 ヶ月間の海外派遣キャリア演習や、海外大学の研究室インターンなどの海外渡航プログラムを展開しています。

● 詳細

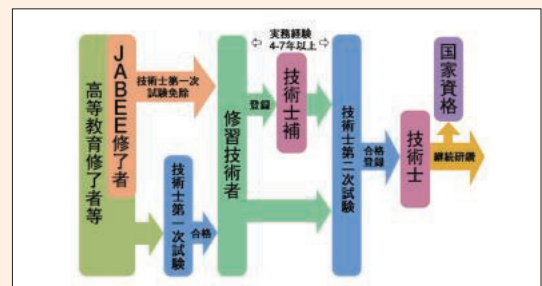
東京海洋大学グローバル教育研究推進機構 HP



JABEE 認定教育プログラム

世界水準の技術者教育プログラム

本学部の各学科は、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けており、本学部を卒業すると、国家資格である「技術士」の第一次試験が免除される「修習技術者」の資格を得ることができます。JABEE は、技術者教育認定機関の世界的枠組みであるワシントン協定に加盟しており、認定者には国際的に活躍する機会が広がっています。



※グローバル人材育成支援プログラムは、海洋生命科学部と海洋資源環境部の共通のプログラムです。

先輩が東京海洋大学に入学を決めた理由



海洋生命科学部



持続可能な海洋の利用と管理を目指す未来への貢献

海洋生命科学部長 小暮 修三

海洋生命科学部は、海洋生物資源学科、食品生産科学科、海洋政策文化学科の3学科で構成されています。これら3学科が強く連携を取りながら、人類社会の持続可能な発展に資するため、生命科学をはじめとする自然科学だけでなく人文・社会科学への深い理解を基に、海洋を含む水圏に関するグローバルな諸課題に取り組む学部になっています。

海洋生物資源学科では、海洋生物の安全かつ持続可能な利用に関する教育研究を進めており、多様な水生生物を総合的に理解するとともに、その保全と持続的活用の調和を図る方策について探究しています。

食品生産科学科では、食の安全・安心、そして美味しさに関する多岐にわたる教育研究を進めており、持続可能な食資源の確保を念

頭に、資源を余すことなく活用するための技術開発と研究を行っています。

海洋政策文化学科では、海と人との共生関係に基づく海洋産業・海洋文化の発展に資する教育研究を進めており、海洋に関する諸課題を構造的に把握し、「海・人・社会」の理想的な関係について探究しています。

現在、私たちの生きる世界は、気候変動や環境問題、食糧不足、地域紛争など、様々な課題を抱えています。海洋生命科学部は、これらグローバルな諸課題に対して、「持続可能な海洋の利用と管理」という理念のもと、より良き社会の実現に向けて取り組んでいます。このような取り組みを共に行い、明るい未来の実現に貢献する学生をお待ちしています。

品川キャンパス

入学定員総数

170名

海洋生物資源学科

71名

食品生産科学科

58名

海洋政策文化学科

41名



海洋生物資源学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



海だけでなく広く水の中に暮らす生き物(水生生物)を対象として「生命科学」と「資源生物学」を教育・研究しています。具体的には、これらの生き物について遺伝子のレベルから、細胞、個体、群れ、生態系のレベルまでそれぞれに学ぶことができる講義や、それぞれの生き物と環境との関係について学ぶことができる講義などがあります。また、学んだ内容をさらに深めるための実習や実験も充実しています。

このような講義や実習・実験を通して、水生生物を守りながら、これらを利用していくための方法と考え方を習得することができます。



教育内容の概要

海洋生命科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋生命科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、専門導入科目、専門科目等の授業及び実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び専門導入科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では水圏に棲息する生物を対象として、生態系のなかでの多様性を保全しつつ、持続的に利用するための「生命科学」と「資源生物学」に関する深い専門的知識・技術を修得します。さらに、海洋生命科学に関する諸課題を多面的に探求・分析・解決できる能力を修得できることを目標に講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等を体系的に編成し、組織的な教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
総合科目	<ul style="list-style-type: none"> 共通導入科目 文理学系科目 哲学・科学論系科目 社会科学系科目 健康・スポーツ系科目 外国語系科目 				
専門導入科目	<ul style="list-style-type: none"> ●物理学Ⅰ・Ⅱ* ●化学Ⅰ・Ⅱ* ●生物学Ⅰ・Ⅱ* ●地学Ⅰ・Ⅱ ●水産海洋概論Ⅰ* ●水産海洋概論Ⅱ* ●水産海洋概論Ⅲ* ●基礎微積分Ⅰ ●基礎微積分Ⅱ ●数理解析 ●線形代数 ●技術史 	<ul style="list-style-type: none"> ●統計学* ●情報処理概論 ●陸水学 ●地学実験 		●物理学実験	
関連科目 グローバル・キャリア	<ul style="list-style-type: none"> ●TOEIC 入門* ●グローバルキャリア入門 ●キャリア形成論Ⅰ ●海の起業論Ⅰ 		<ul style="list-style-type: none"> ●TOEIC 演習* ●海外派遣キャリア演習Ⅰ ●キャリア形成論Ⅱ ●海の起業論Ⅱ 	●海外派遣キャリア演習Ⅱ	
コア課程科目	<ul style="list-style-type: none"> ●有機化学* ●分子生物学* 	<ul style="list-style-type: none"> ●生物化学Ⅰ* ●微生物学* ●微生物学実験* 	●公衆衛生学*		
専門科目	基礎教育	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋動物学* ●海洋植物学* 	<ul style="list-style-type: none"> ●生物化学Ⅱ ●海洋動物植物学実習* ●水族生理学 ●動物発生学 ●動物組織学 ●遺伝子工学 ●動物生態学 ●集団生物学 ●漁具漁法学 ●応用統計学 	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋生物資源実務実習 ●水族生理学実験 ●職業指導 ●遺伝子工学実験 	
	アドバンスト課程科目 生命科学系			<ul style="list-style-type: none"> ●水族遺伝育種学 ●応用藻類学 ●応用藻類学実習 ●水族病理学 ●水族養殖学 ●水族養殖・育種学実習Ⅰ ●水族栄養学 ●栄養生物学化学実験 ●水族薬理学 ●応用微生物学 ●応用微生物学実験 	<ul style="list-style-type: none"> ●水族病理学実習 ●水族養殖・育種学実習Ⅱ
	生物資源系		<ul style="list-style-type: none"> ●漁業科学実習 ●鯨類資源論 	<ul style="list-style-type: none"> ●魚群行動学 ●生物資源モデリング ●集団生物学実習 ●漁業解析学 ●生産システム学 ●漁業科学演習 ●応用保全生物学 ●生物資源解析学 ●生物資源解析学演習 ●漁業科学実験 	
卒業研究科目				<ul style="list-style-type: none"> ●セミナー* ●卒業論文* 	

1 週間の時間割例

括弧付きの科目は、資格取得のための科目です。

[2 年次] 総合科目、専門導入科目中心、実験科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1		生物化学 I			
2				生物化学 I	水族生理学
3	(教育思想史)	水族生理学		(教育心理学)	動物生態学
4	(教育思想史)	微生物学	海洋動植物学実習		動物生態学
5		微生物学	海洋動植物学実習	(博物館教育論 I)	

[3 年次] 応用専門科目、実験科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1					魚群行動学
2	水族病理学	水族栄養学	漁業解析学	応用微生物学	応用微生物学
3	水族栄養学	水族病理学	漁業解析学		漁業科学実験
4	魚群行動学	生物資源モデリング	Intensive English I	(博物館学 IV)	漁業科学実験
5		生物資源モデリング	Intensive English I	(博物館学 IV)	漁業科学実験

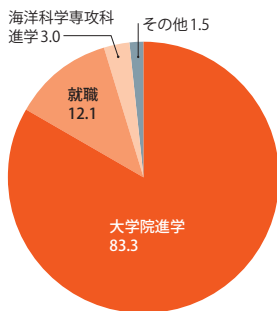
取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 技術士補 (JABEE 認定) ※ 1
- 三級海技士 (航海) ※ 2
- 第一級海上特殊無線技士 ※ 3
- 電子海図情報表示装置 (ECDIS) 講習の資格 ※ 3

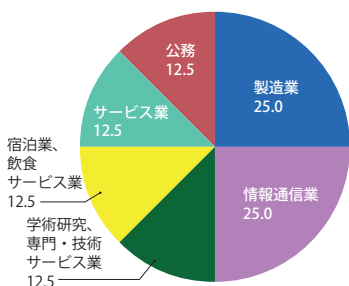
- ※ 1 卒業後、日本技術士会への登録が必要です。
- ※ 2 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科 (p.43) を修了すれば、筆記試験が免除されます。
- ※ 3 学部および海洋科学専攻科にて所定の単位の修得が必要です。

卒業後の進路

令和 6 年度卒業生 (%)



就職先業種



令和 6 年度卒業生産業別就職状況 (%)
 ※進学等を除く学部卒業者の実績
 ※大学院修了者の就職状況は p.44 参照

就職先

味の素、いであ、ANA フーズ、エスビー食品、オリエンタル酵母、海洋高校 (教員)、海遊館、カゴメ、葛西臨海水族園、キューピー、極洋、栗田工業、グローブライド、小林製薬、JF 共済、島津製作所、商船三井客船、水産庁、水産研究・教育機構、都道府県水産試験場、東京久栄、東洋水産、ニチモウ、ニチレイフーズ、日揮、日清オリオ、日清丸紅飼料、日本ハム、日本 IBM システムズ・エンジニアリング、日本食品分析センター、マルコメ、マルハニチロ、三井製糖、三菱商事ライフサイエンス、明治、モンベル、ヤクルト本社、ヤマサ醤油、山崎製パン、雪印メグミルク、横浜・八景島シーパラダイス、理研食品、理研ビタミン、ロッテ 等

学科担当教員の研究分野・内容

- 水族生理学
水生生物の発生と繁殖、保全についての研究
- 水族病理学
水生生物の病気と予防・治療についての研究
- 水族栄養学
水生生物の栄養代謝と持続可能な飼料開発に関する研究
- 水族養殖学
水生生物の遺伝形質と育種技術、養殖技術と飼育装置開発に関する研究
- 応用藻類学
海藻の生理・生態、遺伝・育種、養殖技術についての研究
- 集団生物学
資源生物の多様性と保全についての研究
- 増殖生態学
資源生物の増殖と生態・進化についての研究
- 資源解析学
資源生物の変動機構と制御についての研究
- 魚群制御学
資源生物の行動と制御技術についての研究
- 生産システム学
資源生物の採集技術の開発と評価についての研究
- ゲノム科学
水生生物のゲノム情報と遺伝子についての研究
- 先端魚類防疫学
水生生物の免疫機構解明とその応用、薬物動態および毒性に関する研究
- 応用微生物学
水中の有用微生物の探索とその応用についての研究



漁業科学実習



水族養殖育種学実習 I

研究紹介

■ 増殖生態学

水産資源と希少生物を保全する

変動する環境のなかで、水生生物はどのように影響を受けながら生活し、子孫を残しているのか。そして、水産資源や希少生物を維持・保全するためには、どのような方策が求められるのか。

私たちは、水生生物の保全・増殖を進めるための基礎として、人工繁殖技術の開発とともに、生活史初期の分散・回帰戦略、対捕食者戦略、および摂餌生態の解明に取り組んでいます。また、環境変動や地球温暖化が水生生物の繁殖や分散に及ぼす影響を予測・評価するための研究を行っています。



水槽内で人工繁殖させた頭足類、甲殻類、および貝類の卵と幼生



環境応答実験や行動実験に用いる甲殻類、頭足類、および貝類の成体と稚仔

■ 水族養殖学

養殖魚の耐病性メカニズムを解明する

養殖魚において、個体間の耐病性形質の違いをゲノム解析し、耐病性メカニズムの解明を行っています。

これまでに、個体の耐病性形質の有無を識別できる遺伝マーカーを開発し、その技術を使った“世界初”となる種苗を作出しました。このように、研究成果を活用し社会に還元・産業に利用するための研究を行っています。

今後は、耐病性責任遺伝子の探究から、野生集団の遺伝的多様性保全のための研究に展開したいと考えています。



世界初となる耐病性ヒラメ系統の作出



野生アユを用いた耐病性ゲノム研究

■ 生産システム学

絶滅危惧種のウミガメを守る

漁業において、対象としない生物種を誤って漁獲してしまうことを混獲（コンカク）と言います。私たちの研究室では、ウミガメや海鳥といった希少な生物の混獲を防ぐための手法の開発に取り組んでいます。

まぐろ延縄（ハエナワ）漁業では、ウミガメの混獲を防ぎながらマグロ類の漁獲を向上させる新しい漁具（中立ブイ・システム）の開発や、海鳥の混獲を防ぐために、釣針を早く沈められるような漁具の改良を行っています。

また、定置網漁業では、網に迷い込んで溺死してしまうウミガメを網の外へ逃がす手法（ウミガメ脱出支援システム）の開発を行うなど、絶滅危惧種の生物を守るために様々な混獲問題に取り組んでいます。



ウミガメ脱出支援システム



■ ゲノム科学

サメの力を利用する

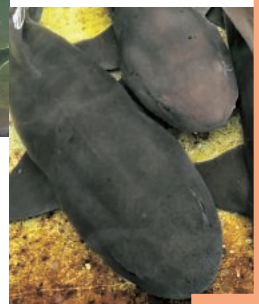
魚類が生息する水中は、生物の生存を脅かすような病原微生物も含んでいます。そのような環境で、魚類は脊椎動物の中で最も繁栄した動物となりましたが、その繁栄には病気にならないための仕組みが大事であったと考えられます。

我々は、サメやチョウザメなどの魚が、他の魚がもつ病気にならない仕組みとは違うことを明らかとしてきました。

現在はこのような仕組みを理解し、様々な分野に応用する方法を研究しています。



チョウザメ



ドチザメ

在学生の声

滋賀県
出身



海鷹祭で購入したズンコムシ

海洋生物資源学科 2年 (女子)
滋賀県立彦根東高等学校卒業

◆ どうして東京海洋大学を選んだの？

幼いころから生物が好きで、将来の夢のために海洋生物について学びたいと考えていました。大学について調べる中で、海洋大であれば自分の求めていることを学べるほか、自分と同じかそれ以上に生物に興味がある人とかかわることができると思ったからです。

◆ 入学してよかったと思ったのは、どんな時？

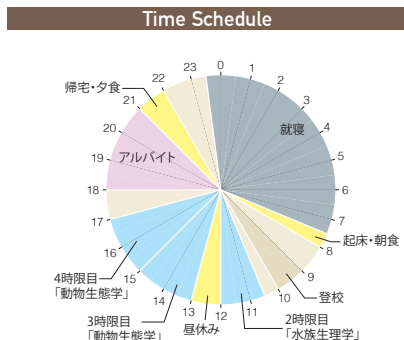
授業の余談で先生方が研究内容を教えてくださる時や、サークル活動で水族館を訪れたり採集に出かけたりして、実際に生物に触れる時です。

◆ 将来の夢、目標は？

水族館飼育員です。生物とかかわる仕事がしたいことに加え、生物の面白さを多くの人に伝えるとともに、飼育・繁殖方法の確立を通じて環境保全に貢献したいです。

◆ 受験生に向けて、ひとこと

海洋大に合格するには英語や数学が重要なので、もし苦手なら早めの対策が必要です。受験は辛く、周りの誘惑に流されそうになるかもしれませんが、合格後はそれ以上に充実した日々を過ごせるので、目の前の楽しみに惑わされずに頑張ってください。



千葉県
出身



採集した魚の写真を撮影する私

海洋生物資源学科 4年 (男子)
千葉県立千葉高等学校卒業

◆ 入学してよかったと思ったのは、どんな時？

水産生物研究会という魚を採集・飼育するサークルで、自分と同じような魚好きの人たちに出会うことができ、その仲間たちと一緒に八丈島や南西諸島に魚を採集しに行き、喜びや楽しさを分かち合えた時です。

◆ 学科の特長、ユニークなところは？

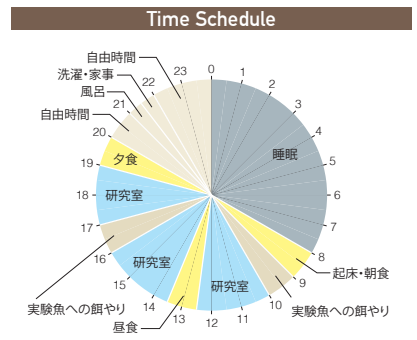
生き物好きな学生が多く、休み時間には魚や釣りの話をしていたり、釣り竿やクーラーボックス、タモ網を教室に持ち込む学生がいたりするところです。

◆ 実習の楽しさ、厳しさは？

実際にフィールドに出て生き物に触れながら実習ができることは、いい経験になるし楽しいです。しかし、限られた日程の中でやるべきことをこなし、期間内に成果をまとめることは大変でもあります。

◆ 受験生に向けて、ひとこと

海洋大に入れば、同じような趣味の人に必ず出会えます。受験勉強をしている間は大変だと思いますが、大学生活は自由でとても楽しいです！授業やアルバイトで忙しいこともあれば、サークル活動や長期休業期間では多くの経験をする事ができます。海洋大目指して、頑張ってください！



卒業生からのメッセージ

阿波 望さん

2021 (令和3) 年度 海洋生命科学部海洋生物資源学科卒業
2023 (令和5) 年度 大学院海洋科学技術研究科海洋生命資源科学専攻修了
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究センター 社会・生態系システム部

現在、水産資源の動向評価や沿岸域の生態系に関する研究開発に携わっています。様々な分野の研究者や県との関係者と協働しながら、好奇心を原動力に日々取り組んでいます。本学では、水産資源の持続的利用に向けた技術や社会課題を、授業に加え操業実習やラボ実験で実践的に学ぶことができます。大学院では、タコ類の摂餌生態の研究に取り組みました。好奇心を糧に研究を進めていく楽しさと研究成果が水産現場へ役立つ知見となる過程に魅力を感じ、それが進路を決める契機となりました。本学で得た知識と豊かな経験は今の私の礎となっています。皆さんも好奇心を大切に、本学での学びに一步踏み出してみてください。



食品生産科学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



安全で信頼性の高い食品を持続的に供給するため、食資源を余すことなく利用する技術について、主に化学、微生物学、物理学等の視点から教育・研究を行っています。また、栄養や美味しさ、さらには健康に役立つ機能を引き出し、アレルギーや食中毒などの危険のない安全な食品を生産するための理論と技術について教育・研究しています。水産生物資源の食品としての有効利用、食品の原料から消費に至るまでの安全性の確保・向上、食品の美味しさや栄養価の向上、食品の新しい機能開発などに興味と関心をもつ学生を求めています。



教育内容の概要

海洋生命科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋生命科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、専門導入科目、専門科目等の授業及び実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び専門導入科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では水圏生物を中心とした食資源の栄養、嗜好、健康に役立つ機能を余すことなく引き出しつつ、安全な食品を生産するための化学的、微生物学的、物理学的及び工学的な深い専門的知識・技術を修得します。さらに、海洋生命科学に関する諸課題を多面的に探求・分析・解決できる能力を修得できることを目標に講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等を体系的に編成し、組織的な教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

		1年次	2年次	3年次	4年次
総合科目	共通導入科目	● 共通導入科目			
	文理学系科目	● 文理学系科目			
総合科目	哲学・科学論系科目	● 哲学・科学論系科目			
	社会科学系科目	● 社会科学系科目			
総合科目	健康・スポーツ系科目	● 健康・スポーツ系科目			
	外国語系科目	● 外国語系科目			
専門導入科目	● 物理学Ⅰ・Ⅱ*	● 物理学Ⅰ・Ⅱ*	● 統計学*		
	● 化学Ⅰ・Ⅱ*	● 化学Ⅰ・Ⅱ*	● 物理学実験*		
専門導入科目	● 生物学Ⅰ・Ⅱ*	● 生物学Ⅰ・Ⅱ*	● 情報処理概論		
	● 地学Ⅰ・Ⅱ	● 地学Ⅰ・Ⅱ	● 陸水学		
専門導入科目	● 水産海洋概論Ⅰ*	● 水産海洋概論Ⅰ*	● 地学実験		
	● 水産海洋概論Ⅱ*	● 水産海洋概論Ⅱ*			
専門導入科目	● 水産海洋概論Ⅲ*	● 基礎微積分Ⅰ			
	● 基礎微積分Ⅱ	● 基礎微積分Ⅱ			
専門導入科目	● 数理解析	● 数理解析			
	● 線形代数	● 線形代数			
専門導入科目	● 技術史	● 技術史			
関連科目	● TOEIC 入門*		● TOEIC 演習*		● 海外派遣キャリア演習Ⅱ
	● グローバルキャリア入門		● 海外派遣キャリア演習Ⅰ		
関連科目	● キャリア形成論Ⅰ		● キャリア形成論Ⅱ		
	● 海の起業論Ⅰ		● 海の起業論Ⅱ		
コア課程科目	● 有機化学*	● 有機化学*	● 生物化学Ⅰ*	● 公衆衛生学*	
	● 分子生物学*	● 分子生物学*	● 微生物学*		
コア課程科目			● 微生物学実験*		
基礎教育	● 食品生産科学入門実験*	● 食品生産科学入門実験*	● 食品化学*		
	● 生産物理学*	● 生産物理学*	● 化学実験*		
基礎教育			● 食品工学*		
			● 生物化学Ⅱ		
基礎教育			● 物理化学		
実践教育	● 食品微生物学	● 食品微生物学	● 食品生産学実習*	● 資源利用化学	
	● 応用統計学	● 応用統計学	● 食品分析学	● 食品化学実験	
実践教育	● 食品生産システム調査	● 食品生産システム調査	● 食品化学基礎実験	● 食品微生物学実験	
			● 食品衛生学	● 食品流通安全管理論	
実践教育			● 衛生微生物学	● 食品包装論	
			● 食品加工学	● 食品殺菌工学	
実践教育			● 食品貯蔵学	● 食品工学演習Ⅰ	
			● 食品保全化学	● 食品工学演習Ⅱ	
実践教育			● 食品冷凍学	● 食品生産システム論	
			● 食品工学実験	● 食品物性学	
実践教育			● 食品機能学	● 職業指導	
卒業研究科目					● セミナー*
					● 卒業論文*

1 週間の時間割例

括弧付きの科目は、資格取得のための科目です。

オレンジ色の科目は、食品衛生コースの科目です。

[1年次] 総合科目、専門導入科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	Practical English II	分子生物学	分子生物学	海洋水産概論 II	
2		技術史	Basic English II	水中考古学	技術史
3	食品生産学 入門実験		海洋水産概論 III	数理解析	スポーツ II
4	食品生産学 入門実験		(教育原理)	数理解析	生産物理学
5	食品生産学 入門実験		生産物理学		現代倫理学

[3年次] 専門科目、応用科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1		食品物性学	食品分析学		食品分析学
2	食品生産システム論	食品物性学	食品衛生学	食品生産システム論	食品衛生学
3	食品流通 安全管理論	食品工学実験	資源利用化学		食品化学基礎実験
4	食品流通 安全管理論	食品工学実験	資源利用化学	(博物館学Ⅳ)	食品化学基礎実験
5	衛生微生物学	食品工学実験	衛生微生物学	(博物館学Ⅳ)	食品化学基礎実験

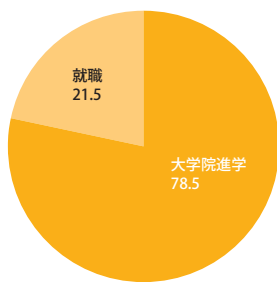
取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 食品衛生監視員
- 食品衛生管理者
- 技術士補 (JABEE 認定) ※ 1
- 三級海技士 (航海) ※ 2
- 第一級海上特殊無線技士 ※ 3
- 電子海図情報表示装置 (ECDIS) 講習の資格 ※ 3

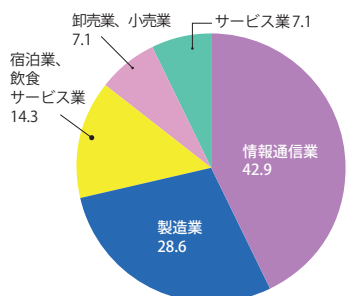
- ※ 1 卒業後、日本技術士会への登録が必要です。
- ※ 2 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科 (p.43) を修了すれば、筆記試験が免除されます。
- ※ 3 学部および海洋科学専攻科にて所定の単位の修得が必要です。

卒業後の進路

令和 6 年度卒業生 (%)



就職先業種



令和 6 年度卒業生産業別就職状況 (%)
 ※進学等を除く学部卒業者の実績
 ※大学院修了者の就職状況は p.44 参照

就職先

味の素、アヲハタ、イオン、伊藤ハム、エスピー食品、エバラ食品工業、カゴメ、カルピス、紀文、キューピー、ケンコーマヨネーズ、JT、資生堂、水産庁、スターゼン、大和製罐、地方自治体職員 (食品衛生監視員、教員)、東洋食品研究所、東洋水産、永谷園、なとり、ニチレイ、日清オイリオ、日清食品、日清製粉グループ本社、日本食品分析センター、ニッスイ、日本生活協同組合連合会、ニッポン、日本ハム、ハウス食品、はごろもフーズ、不二製油、プリマハム、ブルドックソース、宝幸、丸大食品、マルハニチロ、ミツカン、三菱商事ライフサイエンス、明治、森永製菓、森永乳業、山崎製パン、ヤマサ醤油、雪印メグミルク、ロッテ 等

学科担当教員の研究分野・内容

■食品微生物学

食品の安全性を守り、資源環境問題を意識し、微生物による腐敗や食中毒菌汚染などにより無駄に食資源が廃棄されないよう、食品に関連する微生物全般における研究を行う

■食品衛生化学

食物・薬物アレルギーの原因物質であるアレルゲンの新規検出系の開発や魚介類を中心とした食物アレルゲンの特性解析、その他、食品衛生に関連する生化学的・分子生物学的研究を行う

■食品栄養化学

食品または食品栄養成分に対する化学・生物化学的評価、ならびに食品がヒトの健康に寄与する機構解明を目的とした研究を行う

■食品保全化学

油脂の分析法の確立、酸化機構解明、抗酸化剤開発、生体内機能、代謝機構などに関して研究を行う

■生体物質化学

ヒトデなどの未利用生物、フグのような有毒動物、廃棄物となる魚貝類の不可食部に含まれる有用な成分や優れた機能を探索し、生化学・医薬資源として高度に利用することで地球環境の保全に役立てる研究を行う

■食品物性学

食感には甘い、辛いなど五味によるものと、歯ごたえ、色、形などによるものがある。食品物性学は後者に着目し、タンパク質や多糖類の性質に基づいて食品や食品素材の物理化学的性質を説明し、例えば、介護食や機能性食品の食品開発に役立つ研究を行う

■食品加工学

原料から消費に至るまでの品質や安全性に関わるプロセスの高精度な定量的解析、先端食品製造装置・システムの開発設計と操作特性、環境保全と一体化した素材の開発に関する原理と先端技術などについての総合的な研究を行う

■食品プロセス工学

食品製造機器の洗浄及び衛生管理に関わる事柄について、様々な視点 (基礎～応用) から研究を行う

■食品冷凍学

食品冷凍技術は多くの周辺要素技術の組み合わせであり、物理学・化学・生物学など様々な学問分野が関係する。これらの技術や知識を総動員して、食品の冷蔵・凍結保存を、美味しく、かつ持続可能とするための研究を行う

■食品熱操作工学

様々な加工や調理における熱の伝わりを理解し、食品素材の変化を予測・制御することを目指す。過不足のない適切な加熱を実現し、美味しさ&安全性を確保する。プロの料理人の技を実現できる高度な調理シミュレーターの開発など、食品産業への展開を視野に入れた研究を行う

■食品流通安全管理学

食品安全マネジメントシステム、HACCP、品質評価、トレーサビリティ、リスクコミュニケーションなど、食品安全、品質、経営の視点から、食品産業の発展に寄与する研究を行う

■食品流通安全制御学

安全・安心なフードシステムの構築を目標に、環境保全、食品の安全性確保と品質保持、食品中の危害物低減等に着目し、海から食卓までの供給管理技術の開発研究を行う

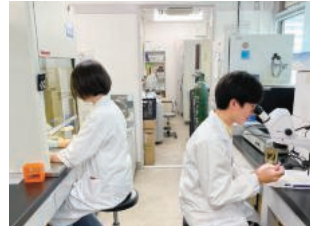
研究紹介

■ 食品衛生化学

食物アレルギーから考える食品の安全性

私たちの周りは様々な食品であふれていますが、毎日口にするものであるからこそ食品の安全性や品質に気を付けなければいけません。特に食物アレルギーは重篤な健康被害をもたらすこともあるため、その原因物質(アレルゲン)や作用機序についての研究は食品衛生上とても重要です。

私たちの研究室では、魚介類やその寄生虫(アニサキス)のアレルゲンの特定、食品原料・医薬品・化粧品に含まれる成分のアレルゲン性を予測する新たなシステムの開発、さらには、ヒト脳機能の改善を視野に入れたイカ由来の神経伝達物質や魚介類の食味向上などについての研究を行っています。安全で品質が良く人類の幸福につながるような食品を皆さんに提供できるように、最新技術を駆使して幅広い研究に取り組んでいます。



クリーンベンチや実体顕微鏡を使った研究風景



アレルゲン特定のための実験風景

■ 食品加工学

付加価値の高い水産食品加工技術に関する研究

一般的な食品加工の工程には、原料の採取、洗浄、混合、加熱、乾燥、包装、貯蔵などがあります。これらの製造プロセスの中で、食品素材のみならず、加工・貯蔵の技術およびそれに伴う成分変化は食品の品質に影響します。私たちの研究室では、化学的、物理的、あるいは生化学的な視点から、安全かつ付加価値の高い食品(主として水産食品)の製造プロセスを具体化するための食品設計技術の開発や製造プロセスにおける安全評価システムの確立を目指しています。具体的には、原料から消費に至るまでの安全性に関わるプロセスの高精度な定量的解析、水産食品低温利用技術の開発、未利用食料資源の有効利用、及び付加価値の高い水産食品加工技術の開発に関する総合的な研究に取り組んでいます。

未利用資源の有効活用の一例～サバの皮から生分解性フィルムの開発



サバの皮



可食性フィルム

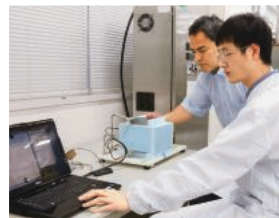


サンプル処理の様子

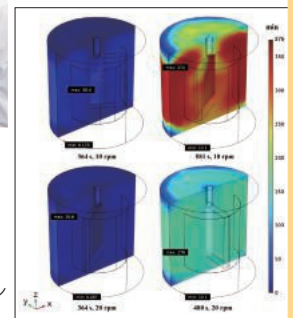
■ 食品熱操作工学

食品の熱処理の予測と制御

熱処理は、食品の貯蔵寿命を延ばすために最も広く使用されている技術の1つであり、微生物を死滅させるとともに、食品の風味、食感、外観、および消化率を改善させます。一方で、過度の加熱は、栄養成分の消失や好ましくない食感となって品質が低下する可能性があります。そのため、短時間で均一な温度分布が得られ、なおかつ環境負荷が少ない熱処理方法が望まれます。これを実現できる技術の1つが通電加熱です。通電加熱は食品に直接電流を流すことによって生じるジュール熱を利用したもので、様々な食品加工への適用が期待できます。さらにコンピューターシミュレーションを活用することで、熱処理における温度変化を予測し、微生物の死滅の程度や、品質変化などを計算し、最適な熱処理条件を導くことも重要です。



ジュール熱の発生に関わる電気伝導度を測定する様子



コンピューターシミュレーションによる殺菌値分布の予測

■ 食品保全化学

食品中の脂質および脂溶性化合物の健康機能や体の中での役割を調べる

脂質(油)には多種多様な種類があり、体の健康を維持するために重要な役割を担っています。私たちは脂質を“有機合成”という方法を用いて、新規の脂質や機能性が高い脂質を作り出し、マウスやラットなどの動物や細胞を用いてその健康機能を評価しています。健康機能だけでなく、脂質がどのように体内にとりこまれ、どのような機能が体内で発揮されているのかを追跡するような実験も行っています。このように食品中の脂質や脂溶性化合物を用いて人々の健康維持・増進につながるような研究に取り組んでいます。



有機合成の実験風景



実験動物の飼育風景

在学生の声



東京都
出身

一年生で行う実習で作る燻製の様子

食品生産科学科 3年 (男子)
東京都立墨田川高等学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

海や魚に関する教科ばかりかと思っていましたが、実際には心理学や芸術学など、個人的に興味のあった全く異なる分野の学問にも触れられる点です。

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

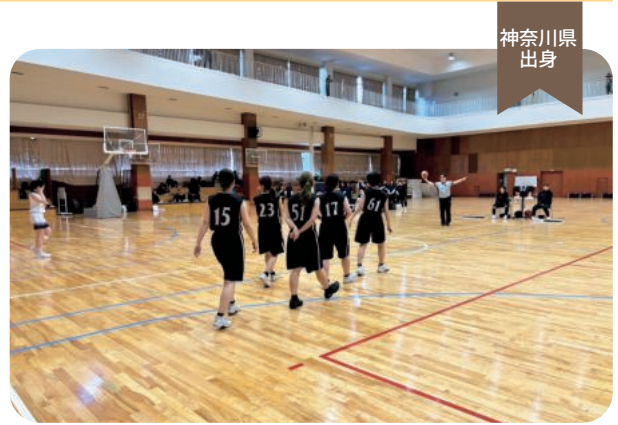
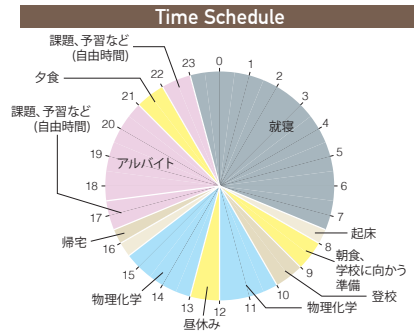
授業の所々で教授の研究内容や釣りの武勇伝などが聞けて、海洋大にいるなと感じる時です。

◆学科の特長、ユニークなところは？

食品に関するあらゆる知識を、実験や実習を通して学べるところが特徴だと思います。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

実習では、普段目にしない食品の作り方を体験できたり、作ったものを食べられたりして、食に興味がある人ならとても楽しい学科だと思います。



神奈川県
出身

バスケットボール部の大会の様子

食品生産科学科 4年 (女子)
神奈川県立希望ヶ丘高等学校卒業

◆どうして東京海洋大学を選んだの？

昔から食べることやスーパーの商品を眺めることが好きで、食品に関わる仕事に就きたいと考えていました。高校の先生が勧めてくれたことがきっかけで本学を知り、食品を科学的かつ多面的に学べるビッタリな場だと感じました。

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

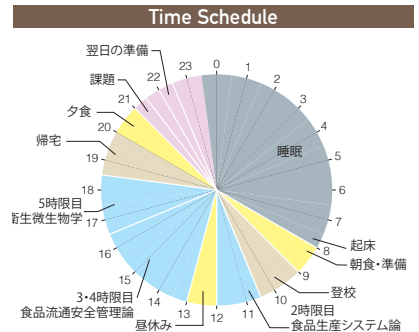
周囲のレベルの高さに刺激を受け、「自分も頑張ろう」と自然に前を向ける環境です。難しい課題に直面しても、一緒に悩み、考え抜いてくれる大切な友達に囲まれて切磋琢磨できる瞬間に、この大学に来てよかったと実感します。

◆学科の特長、ユニークなところは？

1、2年生では、食について科学的かつミクロな視点から幅広く学べる一方、実習や実験が充実しており、実践的な経験も得られます。3年生からは、より食品に直結し専門的な授業を選択でき、自分の興味のある分野をより深く学ぶことができます。

◆将来の夢、目標は？

大学で学んだ専門性を活かして、食品関連の仕事がしたいです。中でも、国内外に向けた食品開発に携わることが目標です。



卒業生からのメッセージ

前川 龍之介さん

2018 (平成 30) 年度 海洋科学部食品生産科学科卒業
2020 (令和 2) 年度 大学院海洋科学技術研究所食機能保全科学専攻修了
パナソニック株式会社 コールドチェーンソリューションズ社 コールドチェーン事業部

大学院では予冷が食品の凍結時間と氷結晶に及ぼす影響の研究を行いました。研究で得た知識を生かし食のインフラを支えたいと考え、現在コールドチェーン機器の開発を行っております。

本学科では原料～加工～流通～保存といった食品のほぼすべてを、工学・生物学・化学の幅広い視点から学ぶことができます。また実験や実習といった手を使って食品知識を深める機会も多くあり、ここで培った実践的な食品知識は今の仕事にも大きく役立っております。

食は人間が生きていくには欠かせないものです。しかし安全性や資源の持続性等の課題を未だ多く抱えております。皆さんも本学科にて食を学び、一緒に食の未来を作っていきませんか。



海洋政策文化学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



政策・産業・文化という3つの切り口から、国際的かつ学際的な視野をもって教育を行います。その対象は、法律、経済、人文学、海洋スポーツ、教育学など、多岐にわたります。こうした教育によって、広い知識を修得すると同時に、物事を理解し考えるための思考力を育てます。

具体的には、海や人をめぐって起きていることを講義から知り、調査や実習を通して現場の事実を体験的に学び、得られた知見を議論によってさらに深めていくことによって、海洋をめぐるさまざまな課題を政策的に解決する実践力を身につけます。

このように、本学科では、理系と文系を問わず総合的な立場から考える力と行動する力を兼ね備え、海と人と社会の望ましいつながりの実現に貢献できる人材を育成します。



教育内容の概要

海洋生命科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋生命科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、専門導入科目、専門科目等の授業及び実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び専門導入科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では海洋をめぐる社会科学的・人文科学的諸事象に関する基礎及び専門的知識を総合的に修得します。具体的には、「海・人・社会」の望ましいあり方を探究することを目的とした課題設定能力と解決能力を育成します。そのために、経済、法律、国際関係、社会、歴史、思想、文化、言語、文学、教育、海洋スポーツ等に関する幅広い授業科目を配し、組織的教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合科目	共通導入科目	<ul style="list-style-type: none"> 共通導入科目 文化学系科目 哲学・科学論系科目 社会科学系科目 健康・スポーツ系科目 外国語系科目 			
	専門導入科目	<ul style="list-style-type: none"> 水産海洋概論Ⅰ* 水産海洋概論Ⅱ* 水産海洋概論Ⅲ* 基礎微積分Ⅰ* 基礎微積分Ⅱ* 数理解析 線形代数 物理学Ⅰ・Ⅱ 化学Ⅰ・Ⅱ 生物学Ⅰ・Ⅱ* 地学Ⅰ・Ⅱ 技術史 	<ul style="list-style-type: none"> 統計学* 情報処理概論 陸学 地学実験 		<ul style="list-style-type: none"> 物理学実験
関連科目	グローバルキャリア	<ul style="list-style-type: none"> TOEIC 入門* グローバルキャリア入門 キャリア形成論Ⅰ 海の起業論Ⅰ 		<ul style="list-style-type: none"> TOEIC 演習* 海外派遣キャリア演習Ⅰ キャリア形成論Ⅱ 海の起業論Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 海外派遣キャリア演習Ⅱ
専門科目	コア課程科目	<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化入門Ⅰ・Ⅱ* 水産経営学 水圏環境教育学 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化研究法Ⅰ・Ⅱ* 水産経済学 国際海洋法 資源利用関係論 漁業管理論 環境と教育 ミクロ経済理論 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋性レクリエーション論 科学技術論 生命・環境倫理学 海洋文化学 多文化社会学 	
	共通系	<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化基礎演習 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化特別講義 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化インターンシップ 職業指導 	
	海洋政策系・海洋産業系	<ul style="list-style-type: none"> 食料経済論 日本経済論 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業経営論 海事法規 食品マーケティング論 水産調査 海洋環境政策論 	<ul style="list-style-type: none"> 水産物流通論 水産経済史 資源経済論 海洋管理制度論 水産政策論 沿岸域利用管理論 海洋政策実習 沿岸地域社会調査 漁村フィールドワーク実習 	
	海洋スポーツ系・水圏環境教育系	<ul style="list-style-type: none"> 応用人体生理学 	<ul style="list-style-type: none"> 海と健康 マリンスポーツ実習 水圏環境教育学実習 漁具漁法学 動物発生学 水族生理学 微生物学 動物組織学 資源生物学実験 集団生物学 	<ul style="list-style-type: none"> 健康・スポーツ科学演習 水圏環境コミュニケーション学実習 水族栄養学 魚群行動学 栄養生物化学実験 	
	国際・科学文化系	<ul style="list-style-type: none"> 魚食文化論 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係論 社会言語学 環境文学Ⅰ・Ⅱ 海洋文学Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋文化表象論 政治哲学 生命・環境倫理学の諸問題 科学技術論の諸問題 国際協力論 	
卒業研究科目			<ul style="list-style-type: none"> 海洋政策文化セミナーⅠ* 海洋政策文化セミナーⅡ* 	<ul style="list-style-type: none"> セミナー* 卒業論文* 	

1 週間の時間割例

括弧付きの科目は、資格取得のための科目です。

[1 年次] 総合科目、専門導入科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	Practical English I		文化人類学	日本語表現法	
2	化学 I	日本国憲法	Basic English I		
3	食料経済論	科学史	水産海洋概論 I	基礎微積分 I	哲学
4	食料経済論	海洋政策文化入門 I	データサイエンス入門 A	基礎微積分 I	スポーツ I
5		生物学 I			

上記科目の他に「海洋政策文化基礎演習」が1年次通年の演習科目（選択科目）として開講されます。

[3 年次] 専門科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1					
2	沿岸域利用管理論				
3	水産経済史		水産経済史		資源経済論
4	水産物流通論	沿岸域利用管理論	生命・環境倫理学の諸問題	(博物館学Ⅳ)	資源経済論
5	水産物流通論	海洋政策文化セミナー I	生命・環境倫理学の諸問題	(博物館学Ⅳ)	

上記科目の他に「沿岸地域社会調査」「漁村フィールドワーク実習」「水圏環境コミュニケーション学実習」「海洋政策実習」「海洋政策文化インターンシップ」が3年次通年の調査・実習科目（選択科目）として開講されます。

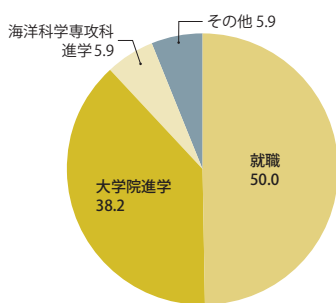
取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 技術士補 (JABEE 認定)※1
- 三級海技士 (航海)※2
- 第一級海上特殊無線技士※3
- 電子海図情報表示装置 (ECDIS) 講習の資格※3

※1 卒業後、日本技術士会への登録が必要です。
 ※2 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。
 ※3 学部および海洋科学専攻科にて所定の単位の修得が必要です。

卒業後の進路

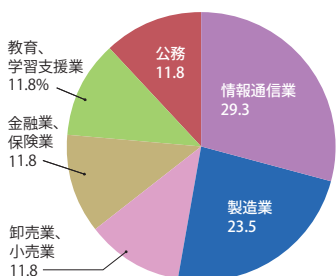
令和6年度卒業生(%)



就職先

国家公務員総合職・一般職等（農林水産省、水産庁、厚生労働省、水産総合研究センター、北海道開発局等）、地方公務員総合職・技術職・教員等（北海道、青森県、岩手県、山形県、福島県、東京都、神奈川県、富山県、滋賀県、山口県、徳島県、高知県、気仙沼市、新庄市等）、大学教職員（東京海洋大学、近畿大学、筑波大学等）、共水連、極洋、漁済連、国分、コロワイド、サントリー、商船三井客船、新京成電鉄、セブン・イレブン・ジャパン、JTB、全水加工連、全漁連、全日本空輸、全農、中央魚類、テーブルマーク、テレビ新潟、東洋製罐、東洋冷蔵、ニチモウ、ニチレイ、日本漁業保険組合、日本航空、ニッスイ、日本政策金融公庫、日本生命保険、野村証券、東日本旅客鉄道、マリンフーズ、マルハニチロ、三井住友海上保険、三菱 UFJ 銀行、明治、リクルート、理研ビタミン 等

就職先業種



令和6年度卒業生産業別就職状況(%)
 ※進学等を除く学部卒業生の実績
 ※大学院修了者の就職状況は p.44 参照

学科担当教員の研究分野・内容

国際海洋政策

捕鯨問題を含む国際的な漁業や海洋の問題、生物多様性の保全などの国際環境問題を研究する

国際開発・協力論

水産物をめぐる国際貿易や漁業の国際協力のあり方を研究する

海事法・海洋法

海洋の法制度と船舶の航行に関する法の研究

海洋環境政策論・海洋管理制度論

海洋資源に関する管理制度を主に環境経済的な視点から研究する

資源経済論

効率的な資源利用における市場経済の役割と政策の役割を研究する

水産経済政策論

経済学的視点から海洋、なかでもとくに水産政策のあり方を研究

水産経済・経営学

経済学的な視点から、資源管理、漁業管理、および地域創生のあり方について研究

流通・マーケティング論

生産と消費を適合させる仕組みや取り組みに関する研究

水産経済史

海を舞台とした経済活動の歴史を研究する

沿岸域資源論

沿岸域における資源=人と魚と水の関係について研究する

水圏環境教育学

身近な水産生物を活用した水圏環境教育プログラムの開発・実践・評価

環境教育論

環境と教育の関係について、理論的・歴史的・実践的な視点から研究する

スポーツ生理学、環境生理学

潜水や船酔いなどによって生じる人体の循環系変化に関する研究

海洋スポーツ、スポーツ方法学

海洋のスポーツと教育に関する研究、スポーツ(競技を含む)に関する研究

生命・環境倫理学

人間や動植物の生と死、地球環境などに関わる倫理的課題を考察する

科学技術史

科学技術をめぐる歴史的・社会的問題の考察

多文化社会学

多様な文化的属性(階級・民族・ジェンダー等)をめぐる社会的・環境的問題を考察する

社会言語学

言語使用と社会の相互影響についての研究

イギリス文学・文化

海洋・環境・人間の観点からイギリスの文学や文化を研究する

アメリカ文学・文化

海洋・環境・人間の観点からアメリカの文学や文化を研究する

研究紹介

■ 沿岸域資源論

「人と魚と水の関係」から資源について考える

沿岸域資源論は、資源を自然そのものとして捉えるのではなく「人と魚と水の関係」として捉えて、資源の持続的利用とそれによる沿岸地域社会の発展について考究しています。

漁業をはじめ、釣り、ダイビング、ホエール・ウォッチング、環境保護活動等に着眼し、それぞれの「人と魚と水の関係」を規定している生物の生態的特徴、人間の価値認識、そして自然－人間－社会の関係を統合的に把握することを重視しています。



研究室での現地調査の風景
(栃木県のミヤコタナゴ保護活動への参加)



実習風景
(沖縄県の赤土流出防止活動への参加)

■ 国際海洋政策

国際的な海洋問題に対処するための政策を学際的に研究

海洋をめぐる問題は、国際的な性質を有することが多く、国内外で大きな注目を集めています。例えば海洋生物資源の保存と管理、地球温暖化と海洋、海洋環境の汚染、生物多様性の保全などの問題が様々なメディアで取り上げられています。

授業では、これらの問題を多角的に分析し、その背景や原因を理解するとともに、問題の解決に向けて国際社会がどのように取り組むべきかについて考えます。このことは、持続可能な開発目標（SDGs）の14番目である「海の豊かさを守ろう」という国際目標を達成するために重要です。



国連持続可能な開発会議（2012年）での海洋をめぐる議論の現場

■ スポーツ生理学・環境生理学

海洋におけるヒトの活動を人体生理学から支える

素潜りで水深100m以上潜るエリートダイバーに、近赤外線センサーを装着して潜水中の血液の流れを計測したところ、脳に血液が集まってくる現象が観察されました。この現象は、これまでイルカ等で確認されていましたが、ヒトにおいては世界で初めての発見でした。

このような潜水に関する人体生理学を中心に、高齢化が進む海女の腰痛対策、水中での運動が脳の認知機能や自律神経系に与える影響などについて研究を行っています。



海女を対象とした実験の様子



■ 海洋文学・環境文学

環境と人との関係性を資源と その利用とは異なる文脈へと開く

当研究室では、文学作品に表れる海をはじめとする自然環境をめぐる言説や表象を分析し、人々の想像力の中で自然環境がどのように構築され、どのように時代と関わっているのかなどを研究しています。

海を含むより広い環境や生態系に着目する環境文学批評は、環境に関する政策の立案や提言を行う上で必要な「環境的想像力」の養成に不可欠な視点を与えてくれます。



イングランドの秘境、セルボーン村
(高台からの風景)



18世紀イングランドの温室の再現

在学生の声

東京都
出身



定置網漁見学、漁獲物選別作業

海洋政策文化学科 2年 (女子)
お茶の水女子大学附属高等学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

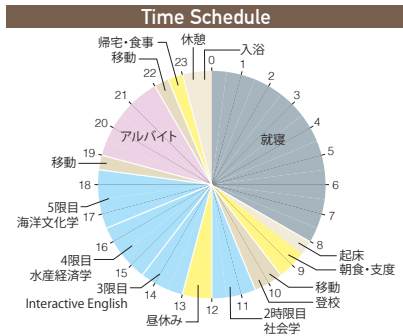
机の上で学ぶだけでなく、実習を通して実際の現場に触れられる機会が多いことです。教科書で知る知識だけでは見えてこない、現場で働く方々の工夫や苦労、生活を間近で感じることができ、想像以上に臨場感のある学びができると感じました。

◆学科の特長、ユニークなところは？

理論だけでなく、現場に近い視点から学べるところです。先生方にも実際の現場をよく知る方が多く、漁業や地域で働く方々の立場を意識しながら学べます。教室での学びと現場感のある学びの両方を行き来できるのが、この学部の大きな特長だと思います。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

実習の魅力は、普段とは全く違う生活や仕事のあり方を体験できることです。一方で、定置網漁の見学では朝3時に集合し、揺れる船で船酔いも経験するなど、体力的に厳しい面もありました。しかし、その経験を通して、自分とは異なる暮らしや価値観を理解し、広い視点で物事を考える大切さを実感しました。



愛媛県
出身



神奈川県にて刺網漁業の手伝い

海洋政策文化学科 3年 (男子)
愛媛県立松山東高等学校卒業

◆どうして東京海洋大学を選んだの？

日本の恵まれた海岸線を活かし、海を有効に活用する方法を学びたかったからです。海と人とのかかわりを深く学ぶことができると考え、選択しました。

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

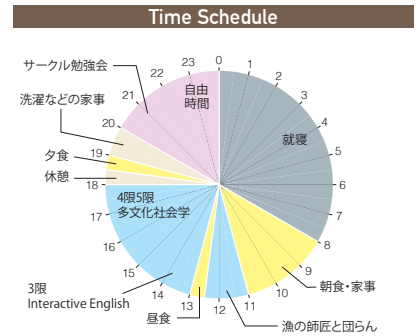
海に関するサークルが多い点です。私も水産業について勉強するサークルに入り、そこでの学びを現場や教室での勉強に活かしています。

◆学科の特長、ユニークなところは？

海と人とのつながりを学ぶことができる点です。目の前に広がる海が、漁場になり、教育現場になり、レジャーの場になる、自分の興味に応じて海と人の関係性にアプローチできます。

◆将来の夢、目標は？

日本の海には、可能性はまだあります。全長約3万5千キロメートルに及ぶ海岸線をフル活用して日本を沿岸から元気にしたい！



卒業生からのメッセージ

長嶋 功陽さん

2020 (令和2) 年度 海洋生命科学部海洋政策文化学科卒業
2022 (令和4) 年度 大学院海洋科学技術研究所海洋管理政策学専攻修士
水産庁漁政部漁政課

元々生物が好きだったのですが、漁師だった祖父との何気ない会話から、漁村や水産物を扱う人々の暮らしを良くしたいという気持ちが高まり、「海・人・社会」のつながりを探究するというフレーズに惹かれて本学科を目指しました。在学中の実習で多くの漁村を訪れ、現場の生の声を聞くことができたことは貴重な経験です。また、経済学や経営学、流通論等の理論から、水産業を理解する講義に、現場を見ただけでは分からなかった「どうして？」が理解できたときの興奮は今でも忘れられません。単なる「物知り」を目指すのではなく、現場で起こる不思議な現象を社会科学を中心としたサイエンスで解明する。他大ではあまりできない、そんなワクワク感を是非皆さんにも味わっていただきたいです。





海洋工学部

TOPIC

体験型学習による実践的な海事英語教育

海事・海洋英語教育の世界拠点を目指して

本学部では、現在まで確立してきた海事英語のデータベースや検定試験といった体験型学習プログラムを通して、実践的に海事英語を磨くことができます。

練習船（海鷹丸・汐路丸）航海での海事英語訓練や、海外から教員・学生を招聘した短期セミナーなどを毎年度実施しています。

本学部では、CEFR B1以上の獲得が3年次から4年次への進級要件とされています。学生の基礎英語力の向上を丁寧にサポートしており、B1を超えない学生に対しては特別に授業を実施しています。

● プログラムの詳細・報告書

<http://www2.kaiyodai.ac.jp/~takagi/mei/index.html>



海洋工学部



環境に配慮した海洋利用型技術の分野でリーダーとなる
創造力豊かな若者を求めています

海洋工学部長 久保 信明

海洋工学部は、母体となった商船学校から数えて150年を超える歴史と伝統を持ち、船舶の運航や管理、動力機関、海洋機器、海上輸送などに関連する教育研究を行ってきました。日本が高度経済成長を遂げた後は、環境保護や省エネルギーにも教育研究の対象を広げ、その時代における社会の要求に応えてきました。

教育の特色としては、現場、現物、現実を重視した少人数クラスでのきめ細かな修学指導を重視し、海事関連社会で活躍する優秀な人材を育成しています。近年では、大学改革の一環として、海洋開発及び環境エネルギー分野に関する「高度海洋技術者専門コース」を開設し、海洋基本計画等で求められる海洋人材を輩出しています。さらに、流通情報工学科では、2020年度から統計学や人工知能をベースとしたAI・データサイエンス系科

目群をカリキュラムに新設し、大学におけるSDGsと共に、デジタルグリーン社会を見据えた次世代を担う人材育成を行います。グローバル教育に関しても、学部の特性に応じた海外インターンシップを実施するとともに、練習船、各種シミュレータなどをフルに活用した海事英語教育を行っています。

船舶・海事分野を取り巻く社会情勢として、地球温暖化対策や少子高齢化対応のため、省エネや再生可能エネルギー、自動運転・AI技術が進展する中、船舶分野でもCO₂削減や自動運航技術が求められています。しかし、技術の限界やサイバーリスク、新燃料への対応には人間の関与が必要であり、新たな人材育成も課題です。2025年には、次世代船舶運用技術開発センター（仮）を設立し、技術開発と人材育成を通じて社会貢献を目指しています。

越中島キャンパス

入学定員総数

160名

海事システム工学科

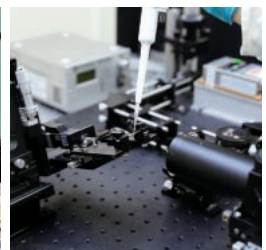
59名

海洋電子機械工学科

59名

流通情報工学科

42名



海事システム工学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



安全で効率の良い船舶運航の実現を目指して、明治の頃より連綿と積み重ねられた経験と知識、そして最新の先進的技術、その両方を融合して駆使する特徴ある分野です。海事システム工学科では、航海（ナビゲーション）技術や情報処理技術のほか、語学や法律などを幅広く学びます。

私たちは、皆さんが将来「専門的な職業人になる」または「学究的な挑戦をする」機会を準備しています。



教育内容の概要

実学を重視した講義、実験、演習を中心に、1年次から専門科目を基礎から応用に向けて学習するようにカリキュラムが組まれています。海事技術者としての幅広い視野と豊かな人間性を育てるために、4年間を通じて文化学系、哲学・科学論系、社会科学系、健康・スポーツ系、外国語系科目からなる総合科目を学びます。1年次から2年次前期までは、専門科目の基礎となる数学、物理、情報系科目からなる基礎教育科目を学びます。短艇実習、海洋実習や海技教育機構の大型練習船による乗船実習(1年次1ヶ月)を通して、リーダーシップや協調性を修得します。2年次からは、船舶管理または海事工学の教育プログラムを選択し、専門科目を学びます。

1. 船舶管理教育プログラムでは、船舶の運航管理や保守管理ができる技術者を育成するための知識や技術を学びます。
2. 海事工学教育プログラムでは、運航者の視点でものづくりができる技術者を育成するための知識や技術を学びます。
3. 海技士資格の取得を目指す学生は、船舶管理または海事工学の教育プログラムだけでなく海技士科目を学び、世界の海技士を教育し、リーダーシップを発揮できるための知識や技術を学びます。3年次(2ヶ月)及び4年次(3ヶ月)の乗船実習、卒業後に乗船実習科(6ヶ月)に進学することで三級海技士(航海)免許の取得が可能です。

4年間で学ぶ授業例

		1年次	2年次	3年次	4年次	
総合科目	共通導入科目	<ul style="list-style-type: none"> 文化学系 哲学・科学論系 社会科学系 健康・スポーツ系 外国語系 				
	専門導入科目	<ul style="list-style-type: none"> 数学系 物理・化学系 外国語 計算機科学 	<ul style="list-style-type: none"> 数学系 マリンスポーツ GLI 演習 英語 	<ul style="list-style-type: none"> 英語 	<ul style="list-style-type: none"> 英語 	
専門科目	海事工学系		<ul style="list-style-type: none"> 船体構造論 計測工学Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋IoT 認知モデリング工学 航海システムⅡ 航海システムⅢ 船舶制御 浮体運動論 船用工業実務論 	<ul style="list-style-type: none"> マリナースファクターと安全運航 	
	船舶管理系		<ul style="list-style-type: none"> 海運経営論 海洋環境学 船舶運航論 	<ul style="list-style-type: none"> 海法Ⅰ 組織管理論 保険法 輸送管理 海運実務論 	<ul style="list-style-type: none"> 海上危機管理論 海法Ⅱ 	
	海技士		<ul style="list-style-type: none"> 海事法規 海上無線法規 	<ul style="list-style-type: none"> 航海英語Ⅰ・Ⅱ 船舶実習Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 船舶医学 海事システム工学実験演習Ⅴ 船舶実習Ⅲ 	
	演習・実習	<ul style="list-style-type: none"> 短艇実習 水泳実習 船舶実習Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> 船舶実験Ⅰ(汐路丸) 船舶実験Ⅱ(汐路丸) 海事システム工学実験演習Ⅰ・Ⅱ 海事システム工学ゼミナールⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> 海事システム工学実験演習Ⅲ・Ⅳ 海事システム工学ゼミナールⅡ 海事システム工学ゼミナールⅢ 船舶実験Ⅲ(汐路丸) 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究 	
	共通基礎専門系	<ul style="list-style-type: none"> 電気工学 航海システム概論 電子機械工学入門 大気環境学 情報処理基礎論 契約法 	<ul style="list-style-type: none"> 船舶基礎力学 電子通信工学 信号情報処理 アルゴリズム 	<ul style="list-style-type: none"> 安全性と信頼性 計測工学Ⅰ 抵抗推進論 航海システムⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> 運航管理 船体管理 制御工学 通信ネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 機関システム工学概論
	基礎数理系		<ul style="list-style-type: none"> ラプラス・フーリエ解析 最適化数学 確率論 振動と波動 複素解析 	<ul style="list-style-type: none"> 数値解析 		

1 週間の時間割例

[3 年次 (前学期)] 海事工学系 海技士を目指す場合

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	運航管理	海法 I	海洋 IoT	船体管理	制御工学
2		海法 I	航海システム II	浮体運動論	海事システム工学 ゼミナール II
3	海事システム工学 実験演習	海事システム工学 実験演習			航海英語 I
4	海事システム工学 実験演習	海事システム工学 実験演習			
5	海事システム工学 実験演習	海事システム工学 実験演習			

[3 年次 (後学期)] 船舶管理系 海技士を目指す場合

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1					
2	組織管理論	輸送管理			航海システム III
3			保険法		
4	航海英語 II		海運実務論		海運実務論
5					

赤字：必修科目 黄色：海技科目 青：工学系海技科目外 緑：管理系海技科目外

※ 2024 年度入学生より 4 学期制 (クォーター制) を導入しているため、授業科目の内容が変更になる場合があります。

取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状 (商船・工業)
- 第一級海上特殊無線技士
- 三級海技士 (航海) ※ 1
- 船舶衛生管理者 ※ 2
- 電子海図情報表示装置 (ECDIS) 講習の資格 ※ 3

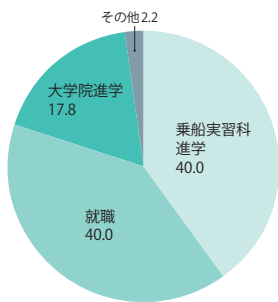
※ 1 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び乗船実習科 (p.43) を修了すれば、筆記試験が免除されます。

※ 2 乗船実習科 (p.43) を修了後、講習受講により取得できます。

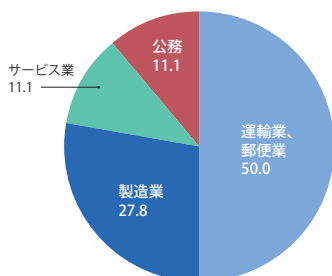
※ 3 三級海技士に合格することで、電子海図情報表示装置 (ECDIS) 搭載船舶に乗船できる資格を取得できます。

卒業後の進路

令和 6 年度卒業生 (%)



就職先業種



令和 6 年度卒業生産業別就職状況 (%)
※ 進学等を除く学部卒業生の実績
※ 大学院修了者の就職状況は p.44 参照

就職先

飯野海運、出光タンカー、NS ユナイテッド海運、NTT コミュニケーションズ、NTT データ、NTT データウェア、NTT データフィナンシャルテクノロジー、NTT ワールドエンジニアリングマリン、海技教育機構、海上保安庁、鹿児島海運、川崎汽船、川崎近海汽船、共栄タンカー、警視庁、光電製作所、航空自衛隊、国土交通省、山九、ENEOS オーシャン、JFE システムズ、ジャパンマリンユナイテッド、商船三井、商船三井客船、商船三井システムズ、新来島どつく、新日本海フェリー、全日本空輸、ダイトコーポレーション、東京電力ホールディングス、東洋エンジニアリング、東洋信号通信社、田淵海運、中央システム、日本海事協会、日本海事検定協会、日本海難防止協会、日本海洋掘削、日本製鋼所、日本テレビ、日本郵船、日立情報通信エンジニアリング、三井 E & S ホールディングス、ロジスティード、ピューロベリタス (フランス船級協会)、ユニバーサルコンピューターシステム 等

学科担当教員の研究分野・内容

■ 知能システム

水中・水上の自律型ロボットに関する研究

■ 航行システム工学

航海および航行支援のための装置やシステムに関する研究

■ 航海システム論

情報通信技術等を利用した運航支援および支援システムに関する研究

■ 最適航路計画論

気象海象を予測して船舶の運航性能を推定し、最適な航路計画を行う研究

■ 制御理論、信頼性・安全性工学

制御システム、特に制御ロジックの安全性解析・設計に関する研究

■ 電子情報工学

ソフトウェア・ハードウェアを通じた画像処理技術の研究

■ 誘導制御論

船舶を中心とした各種ビークルの運動解析・予測・制御に関する研究

■ 海洋気象学

大気と海洋の運動や相互作用に関する物理学的研究

■ 船舶工学

船舶の構造と安定性、船体の運動における抵抗と推進に関する研究

■ 人間機械系工学

船舶運航者の情報処理と行動特性に適した船舶運航環境の構築に関する研究

■ 衛星測位工学

高精度位置決定に関する研究

■ 民法法学

保険法、海商法、民法の研究

■ 言語情報学

自然言語の音声・統語・意味構造の科学的解明と英語教育への応用

■ 数値流体力学

流体や浮体の運動をコンピュータ上で再現し、物理現象の解明を行う研究

■ 海洋空間利用学

海洋構造物・建築物の工学的研究、工学史・建築史の研究、海洋災害の防災の研究

■ 浮体運動論

船舶等の平水中での操縦性能や波浪中での動揺に関する研究

研究紹介

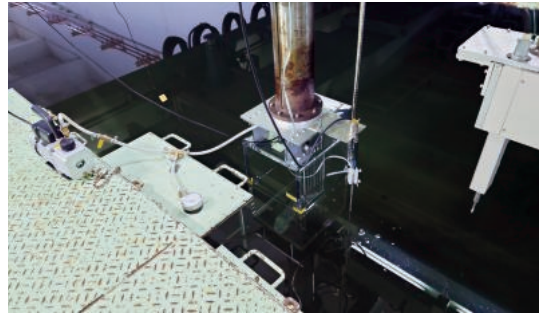
■ 数値流体力学

粒子法を用いた

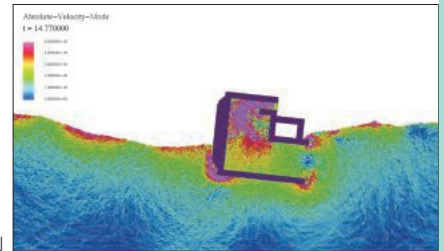
波力発電装置の性能解析に関する研究

海洋再生可能エネルギーの一つである波を利用する波力発電装置は、発電効率が低く設置・製造コストも高いため、普及できていません。本研究では、波力発電装置の実用化に貢献するため、高効率な装置形状の開発や荒天時の安全性評価を行うための性能解析手法の確立を目指しています。このとき注意するのは、荒天時の状況は想像しやすしいものの、波を高効率で吸収する装置は普段の波でも大きく揺れることです。そのため、装置や波が激しく動く現象を精度よく推定できる数値計算手法を選ぶことが重要になります。

本研究では、普段の波や荒天時の波、そして浮体の大きな運動を容易に再現可能な粒子法と呼ばれる数値シミュレーション手法に着目し、計算精度の向上、波力発電装置を再現するためのモデルの開発、そして開発したモデルの妥当性を確認するための実験などを行っています。



基礎的な検証のための水槽実験



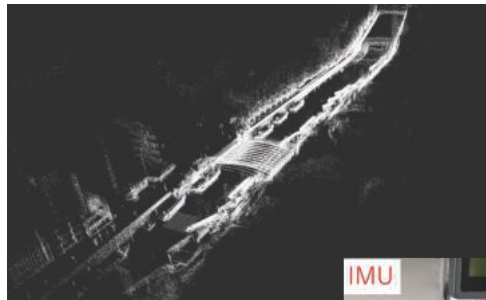
粒子法による数値シミュレーション例

■ 自己位置 推定

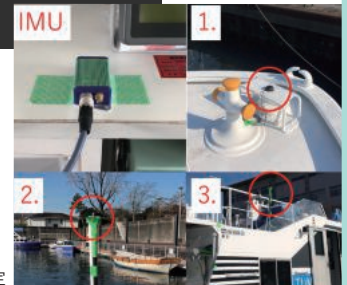
ロバストな位置推定に関する研究

将来の自動操船支援に必要なロバストな自己位置推定に関する研究開発を行っています。GNSSは世界中でメートル級の位置を取得できる便利なものですが、干渉等に弱く屋外の開けた場所が前提となります。自動操船では信頼性へのハードルが高いため、GNSSのみに頼らない自己位置推定方法を幅広く研究しています。廉価なIMUとGNSSの統合やカメラやLidarを利用したものです。屋外の開けた場所であればGNSSでcm級の位置及び速度推定が可能であり、IMUやドップラソナーを併用することで着船時に操船者への負担を減らすための研究及び実験を行っています。また、河川を含めた自動操船を鑑みて、高架下等でもロバストな位置推定を行うためにLidarやカメラによる精密地図生成や自己位置推定の研究及び実験を行っています。

複数の研究室の得意な領域を持ち寄り、より堅牢なアルゴリズムを開発しています。



GNSS/IMUを利用した自動着船支援実験



Lidar等による精密地図生成と位置推定

■ 航海システム論

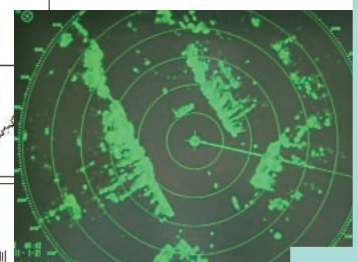
船舶航行データを運航支援に関する研究

運航支援システムの目的の一つが船舶の衝突リスクを小さくすることです。操縦性能・大きさが異なる様々な船舶が航行する東京湾では、航行規則による船舶交通流の整流や航行管理により大型船同士が近づくことを避けさせることで衝突の発生回数を減らしています。しかし経済活動や気象海象の変化、海洋土木工事による航行海域の制限や工事に関わる特殊な船の航行隻数増加により船舶の交通流が変化することで潜在的な危険が新たに発生しているかもしれません。一方、情報通信技術の発達による新しいシステムが開発・装備されることにより船舶同士もしくは陸上の監視局でも船舶動静を把握しやすくなったことから様々な海域にて長期間の船舶航行データの蓄積が可能となりました。

ここでは蓄積される情報を基に海上交通の特性を理解し新しいシステムの利点を活用した衝突リスクの減少、効率的な運航支援に関する研究を進めています。

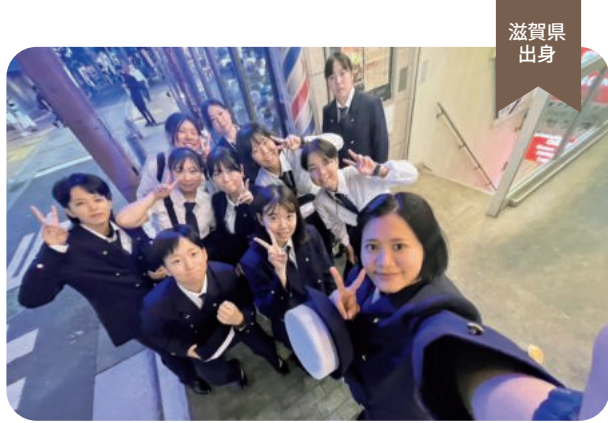


東京湾内を航行するAIS搭載船舶の航跡



レーダによる船舶動静の計測

在学生の声



下船時に女子みんなで

海事システム工学科 2年 (女子)
滋賀県立膳所高等学校卒業

◆ どうして東京海洋大学を選んだの？

1年生から1ヶ月間の乗船実習があるところが、とても魅力的だったからです。実習を通して、座学で学んだ知識を実践的に活かしながら身につけられる環境に惹かれました。

◆ 学科の特長、ユニークなところは？

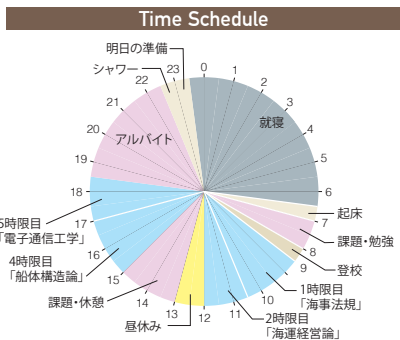
端艇実習や水泳実習、乗船実習などの実践的な授業が多いところです。

◆ 実習の楽しさ、厳しさは？

士官の方々は、こちらが積極的に学ぼうとすると、いつも快く教えてください。巡検に同行させていただいた際には、全員参加の実習では触れられない内容や、船に関する豆知識まで丁寧に教えていただきました。一方で、船は常に危険と隣り合わせであるため、集合時の人数確認を疎かにしてしまったときには厳しくご指導いただきました。学ぶ姿勢には温かく、ルールには厳しくというメリハリのあるご指導のおかげで、実習を通して成長できたと感じています。

◆ 将来の夢、目標は？

外航船の航海士になることです。



ネットボール部の普段の練習

海事システム工学科 3年 (男子)
高松中央高等学校卒業

◆ どうして東京海洋大学を選んだの？

航海士を目指す大学であり、海事について専門性の高い内容を学べるからです。

◆ 入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

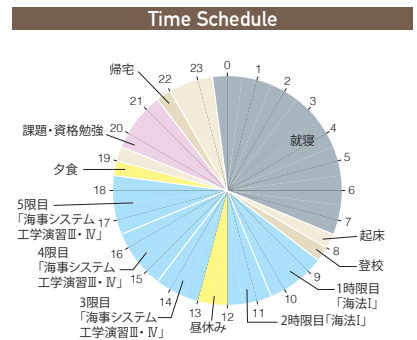
生徒同士で協力する機会が多く、みんな仲が良いところです。

◆ 実習の楽しさ、厳しさは？

大変なこともみんなと一緒に乗り越えることで気持ちを共有でき、それが楽しみの一つになっています。

◆ 受験生に向けて、ひとこと

大学に入ると、自分の興味のあることをより詳しく学ぶことができたり、部活などを通していろいろな人と出会うことができます。大変なことも多いけれど充実した日々を送ることができます。海洋大でお会いできるのを楽しみにしています。頑張ってください。



卒業生からのメッセージ

野田 武杜さん

2022 (令和4) 年度 海洋工学部海事システム工学科卒業
2024 (令和6) 年度 大学院海洋科学技術研究科海運ロジスティクス専攻修了
大学院海洋科学技術研究科応用環境システム学専攻

海事システム工学科は船を構成する技術や海洋気象、法律、船舶の運航に必要な技能などの幅広い内容を学ぶことができる学科です。学内の施設や練習船での実習により、実体験から学ぶことができます。乗船実習では仲間と協力して取り組むため学生同士の交流が深いことも特徴の一つだと思います。また船や海に関連した研究を行っている教員が多く、卒業研究などを通じて最新の研究に触れることができます。私は海で活躍する自律型水中ロボットの研究に興味を持ち、大学院に進学し研究を続けています。学科で学んだ海に関する知識や実習などを通じて身につけたコミュニケーション能力は今の研究に役立っていると感じています。



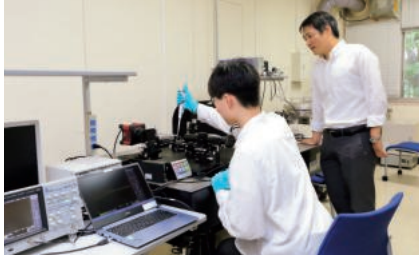
海洋電子機械工学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



船舶に使用されている先進技術を結集した高効率推進システムや船内の住環境を確保するための各種インフラ機器、様々な機械要素を組み合わせたシステムやロボット等を教材として、機械、電気、制御等の工学の基礎から応用までを幅広く学びます。

バラエティーに富んだ講義科目と実験・実習・ゼミナールや大型練習船での洋上実習を通じて、船舶・海洋関連機器、各種プラント設備、省エネ・環境対策機器などのオペレーション、設計・製造・研究開発に指導的な役割を果たすことができる高度専門技術者を養成します。



教育内容の概要

ものを「つくる」だけでなく、低環境負荷および高効率で安全に「運用する」技術を含めた総合工学を基礎から応用に向けて学習するカリキュラムが組まれています。

1 年次より国際的、総合的な視野を養うよう社会科学系や外国語系等の総合科目や専門科目と関連の深い基礎教育科目とともに専門科目を開講します。

2 年次に1ヶ月の海技教育機構の大型練習船による乗船実習を実施します。講義による理論と実験、実習、演習とさらには実際の船舶による実習を通して、総合的に電子・機械工学などを教育します。

3 年次以降は、機関システム工学コースと制御システム工学コースの2つのコースに分かれます。

1. 機関システム工学コースでは、基礎となる機械・電気・電子などの工学系科目に加え、主に船舶運航に関する工学について教育を行います。卒業までに最長で5ヶ月間の大型練習船による乗船実習が組み込まれており、船舶運航技術者として必要な教育を行います。また、所定の要件を満たすことにより三級海技士（機関）の取得が可能となります。
2. 制御システム工学コースでは、講義に加え実験や演習を通して、様々な機器、システムやプラントの設計・製造および管理の技術者として必要な機械、電気・電子、制御に関する工学について広く教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

(機)の付く科目は機関システム工学コースを対象に開講。

(制)の付く科目は制御システム工学コースを対象に開講。

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専攻科目	総合科目	共通導入科目 文理学系科目 哲学・科学論系科目 社会科学系科目 健康・スポーツ系科目 外国語系科目				
	専門導入科目	●微分積分Ⅰ・Ⅱ* ●線形代数Ⅰ・Ⅱ* ●物理学* ●数学演習 ●力学* ●外国語科目 ●天文学 A・B ●物理学実験 ●化学熱力学 A・B ●統計学 ●計算機科学 ●基礎ゼミナール	●常微分方程式 ●電磁気学 ●物質科学 ●化学実験 ●GLI 演習Ⅰ*、GLI 演習Ⅱ ●Effective EnglishⅠ・Ⅱ ●Interactive EnglishⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ●Intensive EnglishⅠ・Ⅱ ●外国語科目			
	専門科目	機関系	●機関システム工学入門*	●ターボ動力工学Ⅰ* ●内燃機関工学Ⅰ* ●補助機械工学* ●電気工学*	●ターボ動力工学Ⅱ ●内燃機関工学Ⅱ ●エネルギー工学* ●原子力機関工学 ●冷凍空調工学 ●電気機器学 ●機関システム管理工学	
		機械系	●機械加工学	●材料力学* ●機械力学* ●金属材料学* ●環境材料学 ●工業熱力学 A・B* ●伝熱工学 ●流体工学* ●機械設計製図Ⅰ*	●トライボロジー ●材料物理学 ●計算物理学	
		電子・制御系	●情報処理基礎論	●制御工学Ⅰ* ●基礎電子工学* ●振動と波動	●ロボット工学Ⅰ* ●ロボット工学Ⅱ ●ソフトウェア工学 ●制御工学Ⅱ・Ⅲ ●計測工学 ●電子回路論 ●半導体工学(制は必修) ●化学エネルギー変換工学	
その他	A	●契約法 ●航海システム概論	●船舶工学 A・B・C	●機関英語Ⅰ・Ⅱ ●機関英語Ⅲ(機) ●海運経営論 A・B ●海運実務論	●船舶医学 A・B ●海事法概論	
	B		●安全性と信頼性 ●ラプラス・フーリエ ●解析 ●確率論 ●最適化数学 ●複素解析 ●データ構造とアルゴリズム ●海洋開発環境 ●エネルギー概論	●信号情報処理 A・B ●機械学習 ●数値解析 ●船用工業実務論 ●海洋開発環境 ●エネルギー概論		
実験・実習等		●水泳実習 ●短艇実習* ●電子機械工学入門 ●海の起業論Ⅰ	●電子機械工学実験・実習Ⅰ* ●キャリア形成論 ●船舶実習Ⅰ*	●電子機械工学実験・実習Ⅱ* ●制御システム工学演習Ⅰ・Ⅱ*(制) ●材料・機械力学演習* ●熱流体工学演習* ●電子機械工学ゼミナール* ●学外実習 ●船舶実習Ⅱ*(機) ●海の起業論Ⅱ	●船舶実験(夕路丸)*(機) ●船舶実習Ⅲ(機) ●卒業研究* ●職業指導 ●機関実務実習(機)	

1 週間の時間割例

[2 年次] 総合科目、専門導入科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	制御工学 I	船舶工学 C	GLI 演習 I	Interactive English II	補助機械工学
2	複素解析	振動と波動	GLI 演習 II	Interactive English IV	ターボ動力工学 I
3	機械力学	機械設計製図 I	伝熱工学	内燃機関工学 I	ヨーロッパ思想
4	環境材料学		確率論	政治学 (4Q)	
5					
集中 (10 月) / 船舶実習 I (2 年次)					

[3 年次] 専門科目、応用科目中心

[機関] …機関システム工学コースの科目
[制御] …制御システム工学コースの科目

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	制御工学 II	歴史学	ソフトウェア工学	ロボット工学 I	機関英語 I
2	信号情報処理 A	エネルギー工学	ソフトウェア工学	ロボット工学 I	海運経営論 A
3	冷凍空調工学	電子機械工学 実験・実習 II [機関]	エネルギー工学 [機関]		電子機械工学 実験・実習 II [制御]
4	半導体工学	電子機械工学 実験・実習 II [機関] 機械設計製図 II [制御]	冷凍空調工学 [機関]		機関設計製図 II [機関] 電子機械工学 実験・実習 II [制御]
5		電子機械工学 実験・実習 II [機関] 機械設計製図 II [制御]	半導体工学		機関設計製図 II [機関] 電子機械工学 実験・実習 II [制御]

※ 2024 年度入学生より 4 学期制 (クォーター制) を導入しているため、授業科目の内容が変更になる場合があります。

取得可能資格

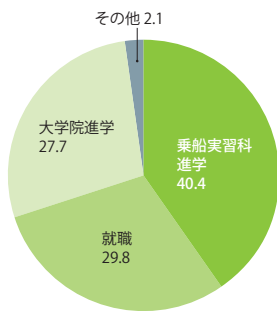
- 高等学校教諭一種免許状 (商船・工業)
- 三級海技士 (機関) ※ 1
- 船舶衛生管理者 ※ 2

※ 1 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、機関システム工学コース及び乗船実習科 (p.43) を修了すれば、筆記試験が免除されます。

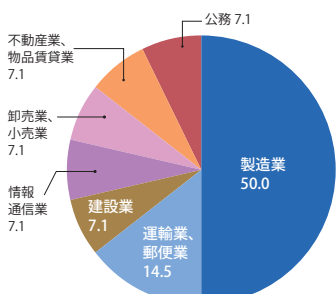
※ 2 機関システム工学コース及び乗船実習科 (p.43) を修了後、講習受講により取得できます。

卒業後の進路

令和 6 年度卒業生 (%)



就職先業種



令和 6 年度卒業生産業別就職状況 (%)
※ 進学等を除く学部卒業者の実績
※ 大学院修了者の就職状況は p.44 参照

学科担当教員の研究分野・内容

■ 内燃機関

船用ディーゼル機関の燃焼および排ガス浄化に関する研究

■ ターボ動力

蒸気およびガスタービンシステムに関する研究

■ 機械設備

冷凍・空調に関連するシステムなどのエネルギー有効利用に関する研究

■ 動力エネルギー

船用ボイラや原子炉等の伝熱流動特性の改善や安全性の向上に関する研究

■ 電気動力

パワーエレクトロニクスに基づく電力変換技術と船舶省エネに関する研究

■ トライボロジー

材料、設計、潤滑のアプローチから機械の摩擦・摩耗特性を向上する研究

■ エネルギー変換

家庭・産業用の冷凍空調機器・ヒートポンプ・熱交換器の省エネ・システム高性能化に関する研究

■ 機械材料

新再生可能エネルギー用材料とインフラ構造物高寿命化 (腐食・金属疲労) に関する研究開発

■ 機械設計

小型機械から大型機械まで、可動部の摩擦潤滑に関する研究

■ システム物理

シミュレーション等への物理学の応用研究

■ 電子デバイス

分子デバイス・バイオセンシング素子の開発等、これまでにない機能を持つ新規デバイスの研究

■ ロボット

水中ロボットや水上ロボット (船舶も含む)、ロボットに搭載される機器を含めた海洋機器本体及び関連要素技術に関する研究

■ オートマティクス

制御システムの設計法とその船舶、ロボット、プラントなどへの応用についての研究

■ 機関管理

船舶の機関室全体の最適管理に関する研究

■ 情報通信

ソフトウェア、ハードウェアを通じた情報通信技術と応用に関する研究

■ 電子制御

産業機器、交通・輸送機器等の電子制御、コンピュータ制御に関する研究

■ 大気環境物理

地球大気、雲、エアロゾル等が地球環境へ与える影響に関する研究及び大気レーザーリモートセンシング手法の研究

■ 物質科学

新規磁気機能開拓のための物質合成と物性評価に関する研究

研究紹介

■電気動力

電気エネルギーの船舶・水中機器応用

発電機や電動機（モータ）に代表される電気機器は、船内における電気エネルギーの生成、プロペラを回転させる動力源などに利用されていますが、年々厳しくなる排ガス規制や燃費改善の観点から、効率の良い運用が求められています。

本研究室では、本学の大型練習船を含む各種の船舶運航データの実測および解析を行うことで、より良い船内電機システムを検討しています。また、水中探査機向けのワイヤレス給電装置の開発にも取り組んでいます。



練習船の運航データの計測作業



ワイヤレス給電装置

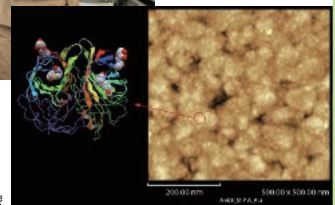
■電子デバイス

生体機能を取り入れた新しい機能デバイスの開発

CPUなどの半導体デバイスでは、電子や光などの電磁気的な相互作用による機能に一極集中しています。

一方、生体系では免疫反応、たんぱく質合成、遺伝システムといった多様な機能を利用しています。

本研究室では、大きく性質が異なる無機系と生体系を融合したハイブリッドな素子構造を構築し、これらの機能を融合した新デバイスの開発を行っています。現在、微細加工技術を駆使したバイオセンサの開発を進めています。多様性保全のための研究に展開したいと考えています。



センサ表面の原子間力顕微鏡像

■電子制御

海洋ロボット (ROV) の開発

海洋は人類にとって未知の領域です。海洋を探索するロボットに ROV (Remotely Operated Vehicle) があります。我々は電子回路と制御の技術を使って ROV の研究開発を行っています。ROV はマイコンや DSP (Digital Signal Processor) といった電子部品の塊です。これらの複数の電子回路を組み合わせ水中で動作可能なロボット制御システムを作りあげます。また、電子回路だけでなく制御ソフトウェアや Deep Learning に代表される AI を使った画像認識技術も重要です。これらの技術を応用し、磯焼けの原因となっているウニを駆除する ROV 研究をしています。

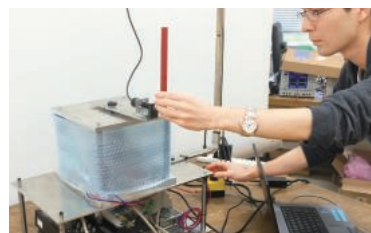


■オートマティクス

本質を見極め、意のままに操る !!!

船舶や飛行機、電車などの我々の身の回りの物は固有の動特性（ダイナミクス）を有しており、様々な動きをします。これらの対象を意のままに動かすためには、その動きを支配する本質的な要素（運動方程式や伝達関数）を見極め、適切な制御手法を用いる必要があります。

この技術を探求しているのが「制御工学」です。我々とともに、より良い制御手法を研究しませんか？



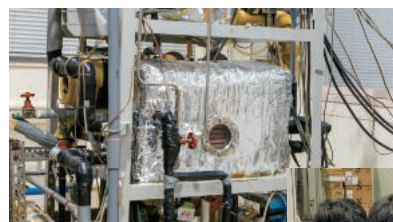
回転型倒立振り実験装置



■機械設備

冷凍・空調システムのエネルギー有効利用、環境調和技術の実現

冷凍・空調の分野では、作動媒体やエネルギーの使用による環境負荷を低減するための技術が求められています。熱駆動型の吸収冷凍機の利用もその対応策のひとつで、自然界に存在する水などを作動媒体とし、太陽熱や未利用熱を利用することができます。このような熱駆動型の冷凍機を主な対象に、エネルギーの有効利用を図り自然環境に調和する機器やシステムをどのように実現していくかという問題に取り組んでいます。

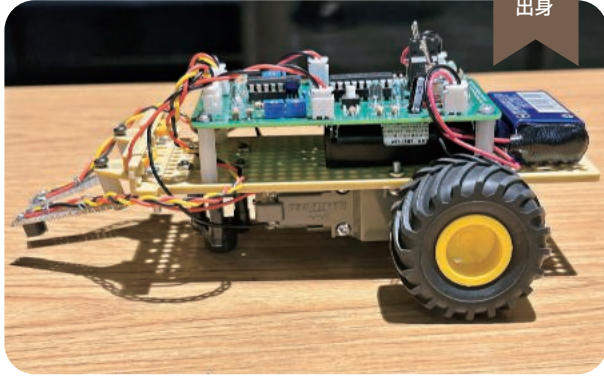


実験用吸収冷凍装置



在学生の声

神奈川県
出身



ロボット工作の授業

海洋電子機械工学科 4年（女子）
昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校卒業

◆入学科の特長、ユニークなところは？

短艇実習と乗船実習があることです。他の大学では経験できないと思います。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

乗船実習では、講義の知識が船上でどのように利用しているかを肌で感じることができました。厳しさとしては船酔いでしたが、同級生や教員に支えられました。

◆受験生に向けて、ひとこと

受験では、基礎を固めることが合格への近道です。また心をリフレッシュさせることも、大切だと思いました。

埼玉県
出身



1年の実習で乗船した海王丸

海洋電子機械工学科 4年（男子）
栄東高等学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

船員養成のための教育が充実していますが、自動車、電力会社、建設会社など、船会社以外にも就職先があることです。

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

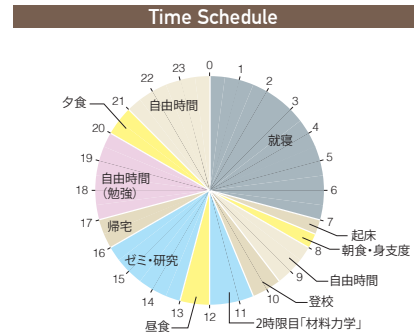
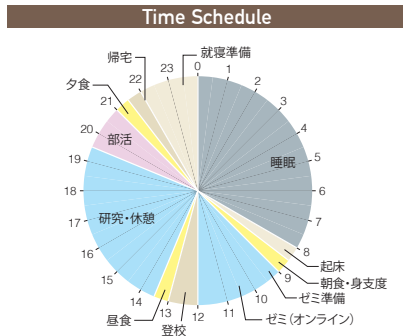
乗船実習です。約1ヶ月間、船上で同級生とともに学びながら、生活することが初めての経験でした。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

楽しかったのは3年後期の制御システム工学演習で、ライトレースロボットを自作したことです。厳しさとしては時間厳守です。社会人としての心構えを身につけることができました。

◆受験生に向けて、ひとこと

入学後には乗船実習や最先端の実験・実習など、貴重な体験を通じて大きく成長できると思います。



卒業生からのメッセージ

村井 奨さん

2024（令和6）年度 海洋工学部海洋電子機械工学科卒業
東亜建設工業株式会社 土木本部 機電部 電気グループ

現在私は海洋土木業において、作業船や施工現場のニーズをもとにシステムを設計・開発し、導入から運用までを支援する仕事に携わっています。本学科では、電気・機械・制御といった一般的な工学部の専門科目に加え、乗船実習などこの大学ならではの学びがあります。実際の船や機器に触れながら、海や船のリアルな知識や経験を身につけ、ものづくりの基礎から応用まで学べる環境は非常に貴重です。こうした経験は社会に出てから大きな強みとなり、将来の選択肢を広げてくれました。海や船に興味がある方はもちろん、自分の興味や可能性を見つけない方にもお勧めしたい学科です。是非、本学科で充実した学生生活を送ってみてはいかがでしょうか。



流通情報工学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



商品を効率よく生産・輸送・保管するために、物と情報の流れを計画・管理することをロジスティクスといいます。ロジスティクスにおいては、輸送・保管の技術・方法はもちろん、企業・経済の仕組み、商品の発注や品質の維持のための情報システム、環境問題、関連する公共政策などについての知識が必要となります。流通情報工学科では、工学系（流通工学）・社会科学系（流通経営学）・情報系（数理情報）の3つのカリキュラムを融合させ、幅広い知識を習得し、ロジスティクスについて体系的に学びます。また、理論と実践のバランスのとれた文理融合のカリキュラムと少人数教育を通じ、丁寧で質の高い指導を実現し、広い視野と高い問題解決の能力を有する学生を育成します。



教育内容の概要

- 1、2年次に国際交流の基盤となる、幅広い視野と豊かな人間性の育成を目指すために、主として哲学・科学論系、社会科学系、外国語系等からなる総合科目と数学や情報科目等からなる専門導入科目を開講します。
- 3、4年次に現代社会の大規模かつ複雑な諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力、課題解決能力、コミュニケーション能力を養うために、ゼミナール及び卒業研究を開講します。
- また、4年間を通じて論理的思考能力や適切な判断力を養うために、少人数体制による理論と実践を共に重視した授業を実施するとともに、ロジスティクスのスペシャリストとしての幅広い教養、深い専門的知識による問題解決能力を養うために、工学系（ロジスティクス・交通計画・物流システム）、情報系（数理情報・データサイエンス・システム工学・プログラミング）、社会科学系（経済学・商学・経営学）の3分野の科目をバランスよく開講します。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

	1年次	2年次	3年次	4年次
総合科目	<ul style="list-style-type: none"> 文化学系、哲学・科学論系、社会科学系、健康 ● Practical English I・II * ● Basic English I・II * ● データサイエンス入門 A・B ● 日本語表現法* 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ系、第二外国語など ● 社会学 ● 政治学 		
専門導入科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 微分積分 I・II * ● 線形代数 I・II * ● 物理学* ● 基礎ゼミナール ● 統計学 ● 計算機科学 	<ul style="list-style-type: none"> ● Effective English I・II ● Interactive English I・II ● Intensive English I・II ● GLI 演習 I・II 		
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラミング演習* ● 情報処理基礎論 A・B * 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最適化数学 ● 確率論 ● 流通情報システム ● データサイエンス AI 実践* ● データ構造とアルゴリズム* ● ラプラス・フーリエ解析 ● 複素解析 ● データベース工学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 機械学習 ● 数値解析 ● 通信ネットワーク ● データサイエンス 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流施設計画学 ● 国際物流論 A・B * ● ロジスティクス概論 A・B * 	<ul style="list-style-type: none"> ● 流通情報工学実験* ● 流通基盤計画学* ● 流通最適化学* 	<ul style="list-style-type: none"> ● 流通オペレーションズ・リサーチ ● 通関実務論 A・B ● 交通計画学 ● 作業管理工学 ● 衛星測位工学 A・B ● 安全性と信頼性 A・B ● 流通情報工学演習* ● ロジスティクス実務論 	● 卒業研究*
	<ul style="list-style-type: none"> ● 契約法 ● 海の起業論 I 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際経済論 ● 交通経済論 A・B ● 管理会計 A・B ● 流通と産業の経済理論 ● ミクロ経済理論 ● 公共政策とビジネスのための経済理論 ● 海の起業論 I ● キャリア形成論 	<ul style="list-style-type: none"> ● マーケティング論 ● マーケットデザイン論 ● 保険法 ● 国際交通論 A・B ● 海の起業論 II ● 船用工業実務論 	

1 週間の時間割例

[1 年次] 総合科目、専門導入科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	微分積分 I	化学熱力学 A	ドイツ語 I	Basic English I	
2	微分積分 I		Practical English I		
3	天文学 A	物理学			哲学
4	ロジスティクス概論 A	統計学		データサイエンス入門 A	スポーツ I
5				計算機科学	

[3 年次] 専門科目、応用科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	安全性と信頼性 A				
2				データサイエンス	
3	データサイエンス	国際交通論 A	作業管理工学		流通情報工学ゼミナール I
4	衛星測位工学 A	交通計画学	作業管理工学		交通計画学
5	流通情報工学演習			通関実務論 A	

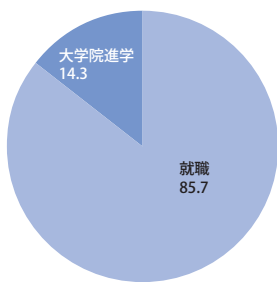
※ 2024 年度入学生より 4 学期制（クォーター制）を導入しているため、授業科目の内容が変更になる場合があります。

取得可能資格

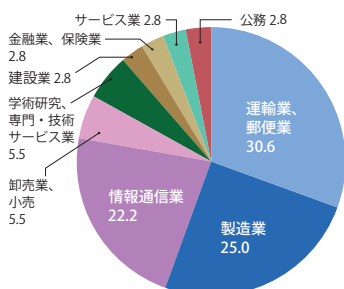
- 高等学校教諭一種免許状（工業）
- 授業で関係する内容を学べる資格：情報処理技術者、通関士、中小企業診断士、ビジネス・キャリア検定（ロジスティクス管理、ロジスティクス・オペレーション）

卒業後の進路

令和 6 年度卒業生 (%)



就職先業種



令和 6 年度卒業生産業別就職状況 (%)
 ※進学等を除く学部卒業生の実績
 ※大学院修了者の就職状況は p.44 参照

学科担当教員の研究分野・内容

■ 地域計画

地域・都市を支える交通など基盤施設の計画とその工学的研究

■ 貨物交通計画

貨物流・貨物交通、及び、関連施策に関する研究

■ 物流システム工学

空間情報工学・自動認識技術の活用による物流の安全・効率性

■ 作業管理

物流センター内業務の改善及び物流の環境負荷低減

■ 流通情報システム

情報通信技術による流通システムの高度化

■ サプライ・チェーン最適化

サプライ・チェーンにおける様々な最適化モデルとアルゴリズム

■ 数理物理学

自然や社会・経済、情報、人工知能等における数理構造の解明と応用

■ 非線形解析

応用数学における最適化問題、非線形問題の理論的研究

■ 数値解析

流体や弾塑性体などの運動を記述する偏微分方程式の数値解法の開発と数学解析

■ 談話分析・日本語教育学

日本語母語話者・非母語話者の会話や文章表現の研究および日本語教育への応用

■ 比較教育学

タイ教育の研究、ASEAN 諸国の教育研究

■ 産業経済

グローバル化とイノベーションに伴う産業構造の変化と企業の対応

■ 国際経営

企業の海外進出行動・戦略の多様化と経済的影響

■ マーケット・デザイン

効率的な市場の設計の研究

■ 統計科学

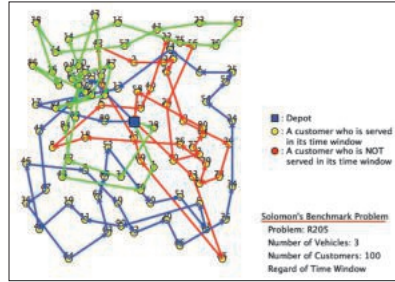
データを用いた実証研究とリスク管理に関する統計理論の研究

研究紹介

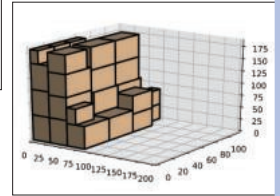
■最適化アルゴリズム

コンピュータで最適な答えを探す

様々な条件を満たしながら最も良いものを選択する問題は最適化問題と呼ばれます。例えば、トラックで客に荷物を運ぶ問題は配送計画問題と呼ばれ研究されていますが、これはトラックの順路を求める最適化問題です。順路の数は有限個なのでそれら全てを探索すれば最適な答えが見つかりますが、数が多すぎてコンピュータでも全てを探索することはできません。そこで最適な答えを上手に探す計算方法(アルゴリズム)が必要になります。世の中の多くの問題は最適化問題として表現できますが、それらに対して効率的な最適化アルゴリズムを研究しています。



時間枠付き配送計画問題

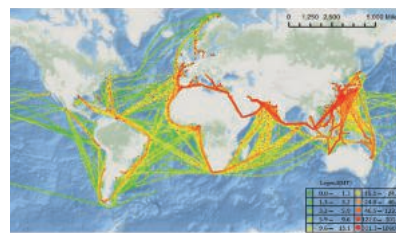


3次元直方体配置問題

■物流システム工学

地球環境と調和した持続可能な国際物流の実現

海に囲まれた日本にとって、国際物流は生活を支える重要なインフラであり、地球環境への影響は地球全体の問題として考えることが重要です。近年、地理情報システム(GIS: Geographic Information System)を用いることで、位置に関する情報を持ったデータ(地理空間データ)を含む大量のデータ(ビッグデータ)の解析が効率的に行えるようになりました。GISは地理空間データを総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にします。国際物流における船舶運航に関するビッグデータを用いて、航行中のエネルギー消費に基づいて温室効果ガスの排出量を計算し、GISを用いて環境影響を評価する研究を行っています。



船舶からの温室効果ガスの排出量の分布

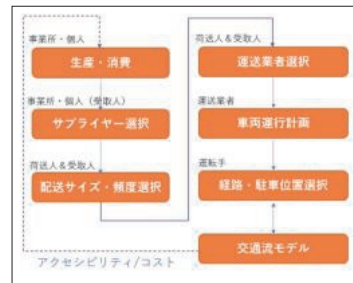
GISに関する研究指導の様子



■貨物交通計画

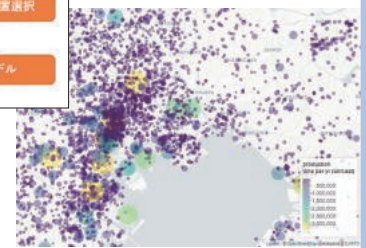
都市圏貨物交通シミュレーション

交通・物流や情報技術の進化、また、経済・社会情勢の変化に伴い、都市における貨物交通の課題は変化を続けています。例えば、人々がオンラインショッピングをより頻繁に利用することによって生じるモノの流れの変化や、宅配の需要に対して、どのような対策が効果的か、評価をする必要があります。本研究では、共同配送、夜間配送、クラウド配送などのスキームや、宅配自転車、宅配ロボット、ドローン等の新しい交通手段を用いた輸送等の影響を評価するために、個人や企業がどのようにモノの流れに関わる意思決定をし、それが交通手段によってどのようにして実現されるかをシミュレートするためのモデルの開発や、施策の影響分析を行います。



都市貨物交通モデルのフロー

シミュレーションの出力例



■マーケットデザイン

公平で効率的な分配のための仕組みづくり

医療や教育などの一部の大変重要なモノは、通常のモノと異なりマーケットメカニズムを通じた分配が必ずしも適切とは言えません。例えば、大学教育や保育所のサービスを受けられる人が一部の豊かな人に限られてしまうと、さらに貧富の差が拡大してしまう恐れがあります。また、豊かな人だけが優先的にワクチン接種などができ、命が助かるような仕組みは適切とは言えないでしょう。そのようなモノの分配について、様々な要因を考慮に入れながら議論するのがマーケットデザインとよばれる分野です。

本研究では、特に未就学児の保育所への割当や、入試制度などについて、それぞれの持つ背景を考慮しながら、望ましい仕組みを議論していきます。

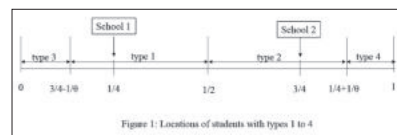
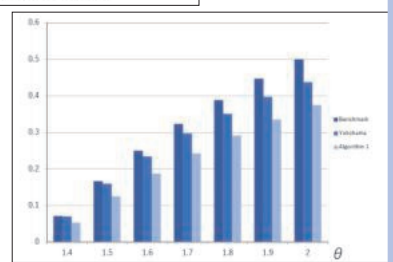


Figure 1: Locations of students with types 1 to 4

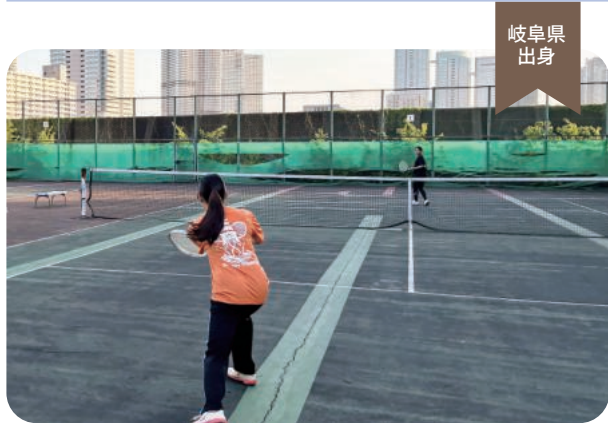
シミュレーションの結果 (どちらも Okumura, Y. (2019), School Choice with General Constraints: A Market Design Approach for the Nursery School Waiting List Problem in Japan. Japanese Economic Review 2019 70(4), 497-516 より転載)

「保育所への割当の仕組みを変更したことによる待機児童数への影響のシミュレーション」



シミュレーションの概要

在学生の声



岐阜県出身

部活の練習の様子

流通情報工学科 2年 (女子)
恵那高等学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

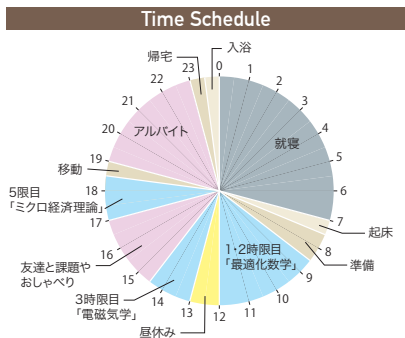
「流通＝トラックや倉庫」というイメージでしたが、実はプログラミングやAIを駆使して「どうすれば一番効率よくモノを運べるか」を論理的に考える、とてもクリエイティブな分野だったことです。文系・理系の枠を超えて、社会の仕組みを丸ごと学べるのがこの学科の意外な面白さです。

◆学科の特長、ユニークなところは？

「工学部なのに、経済や経営まで学べる欲張りな環境」です。エンジニアのようなITスキルと、ビジネスの視点の両方が身につく学科は全国的にも珍しく、将来の選択肢が大きく広がります。

◆受験生に向けて、ひとこと

流通を学ぶと、いつものネットショッピングや街中の景色がガラッと変わって見えて、毎日が新しい発見の連続になります。勉強はもちろん、東京での自由な時間を全力で楽しむ最高の環境がここにはあります。皆さんとキャンパスや寮で会えるのを楽しみにしています！



群馬県出身

門前仲町の桜

流通情報工学科 4年 (女子)
前橋女子高等学校卒業

◆どうして東京海洋大学を選んだの？

ここにしかない経験ができると感じたからです。乗船の体験をはじめ、マリンスポーツや流通にかかわる授業など、海洋大でしか経験できないことが多くあると感じます。

◆学科の特長、ユニークなところは？

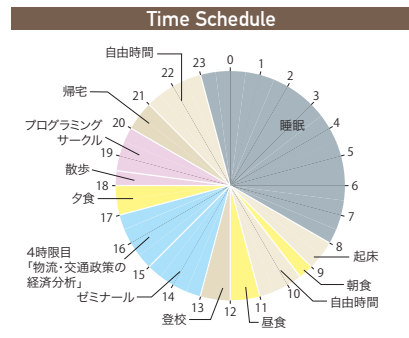
流通情報工学科は、幅広い分野を横断して学べる点が特徴だと考えます。流通の基礎知識やケースを学ぶだけでなく、データ分析の手法やリスク工学、国際経済についても学ぶことができるので、広い分野に興味がある人におすすめです。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

流通情報工学科では3年時に1泊2日の乗船を伴う演習があります。実際に船を操縦したり、泊まったりといった経験はなかなかできないため、印象的な学びになると思います。

◆将来の夢、目標は？

情報技術を用いて課題解決に携わる職に就きたいと考えています。



卒業生からのメッセージ

藤田 信輔さん

2018 (平成 30) 年度 海洋工学部流通情報工学科卒業卒業
日本信号株式会社

私は現在、鉄道の安全を支える信号システム(連動装置)の設計に携わっています。流通情報工学科に入学した決め手は、物流や交通を専門的に学べる特色のあるカリキュラムでした。学生時代に培った知識は、現在の設計業務において、各鉄道会社様の背景や事情を理解する場面や、製品の調達・輸送計画を検討する場面です。3年後期から所属した研究室では、先生から手厚いご指導をいただき、自分が選んだテーマで学会発表を行い、総務省消防庁から表彰をいただくことができました。海洋分野に特化した大学ということもあり、サークル活動でも他では得られない経験を数多く積むことができました。NHK教育テレビでの手旗信号の監修、国産最古のプラネタリウムの修理、人力と風力のみでの伊豆大島への航海、海や船に関わるイベントの企画など、卒業から7年を経た今でも鮮明に思い出せる体験ばかりです。私にとって、大学で過ごした4年間の濃密な経験は、現在仕事に取り組むうえで大きな自信と支えになっています。ぜひ本大学・本学科の特徴ある恵まれた環境を生かして、充実した学生生活を送ってください。





海洋資源環境学部

TOPICS

グローバル人材育成支援プログラム

海洋資源環境学部のグローバル教育※

● TOEIC 教育

本学部では、TOEIC600 点の獲得が3 年次から4 年次への進級要件とされています。TOEIC スコア向上のための必修科目及び集中講座や、英語学習アドバイザーによるカウンセリングなどの学習支援を通して、学生の基礎英語力の向上を丁寧にサポートしています。

● 海外派遣プログラム「海外探検隊」

アジアの大学や企業を訪問する約1ヶ月間の海外派遣キャリア演習や、海外大学の研究室インターンなどの海外渡航プログラムを展開しています。

● 詳細

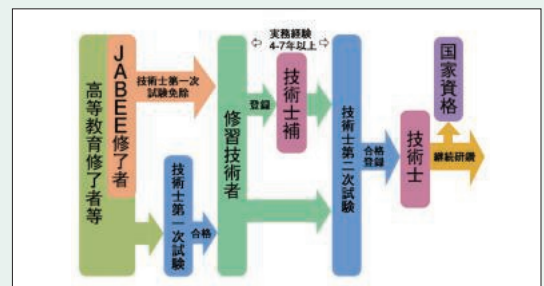
東京海洋大学グローバル教育研究推進機構 HP



JABEE 認定教育プログラム

世界水準の技術者教育プログラム

本学部の各学科は、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けており、本学部を卒業すると、国家資格である「技術士」の第一次試験が免除される「修習技術者」の資格を得ることができます。JABEE は、技術者教育認定機関の世界的枠組みであるワシントン協定に加盟しており、認定者には国際的に活躍する機会が広がっています。

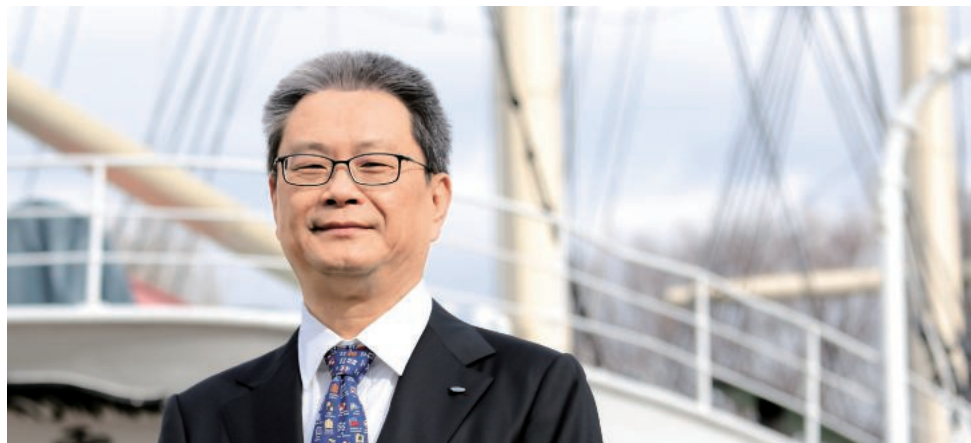


※グローバル人材育成支援プログラムは、海洋生命科学部と海洋資源環境学部の共通のプログラムです。

先輩が東京海洋大学に入学を決めた理由



海洋資源環境学部



海の資源開発と環境保全のスペシャリストを目指しませんか

海洋資源環境学部長 宮本 佳則

海洋資源環境学部は、海面及びその上を覆う大気から海底、海底下までの総合的な海洋科学・海洋生物学に関する理解を基盤に、再生可能エネルギー・海底資源の利用、海洋環境の保全・修復等の分野を教育・研究する、海洋環境科学科と海洋資源エネルギー学科で構成されています。

本学部では、海洋環境保全と海洋資源利用の両立、海的环境保全と資源・エネルギー探査・開発・利用についての教育・研究を進めています。また、海の現場で活躍するための実地訓練・安全教育、実験、実習を重視しています。これらの特色ある教育・研究から、海の平和的かつ積極的な開発・利用と環境保

全の調和を図り「新たな海洋国家」の実現に貢献でき、かつ国際的にも活躍できる人の育成を行っています。さらにSDGsの一つである「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」ことを実践し、国内外でリーダーとして活躍できる人を育てるために「質保証」を伴う統合的で実践的なカリキュラムを備えています。

グローバルな課題へ挑戦し、先進的な研究に取り組んでいる海洋資源環境学部で共に学び、研究をすることで海のスペシャリストを目指す皆さんを待っています。

品川キャンパス

入学定員総数

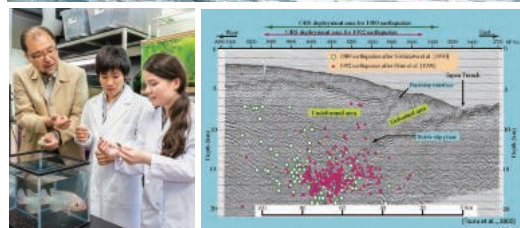
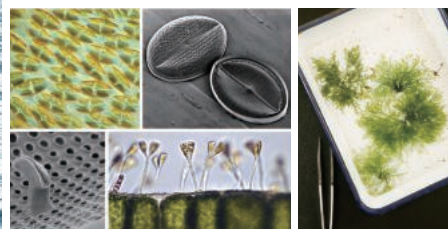
105名

海洋環境科学科

62名

海洋資源エネルギー学科

43名



海洋環境科学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



大気や海底を含む海洋に関する科学的な基礎及び多様な海洋生物と環境との相互作用を総合的に理解し、洋上での海洋観測・探査、海洋生物の種・生態・生活史などの調査、海洋生物の理解や海洋生物がもつ有用分子の利用のための化学・生化学的解析、人間活動の環境への影響の予測などに必要な科学と技術を学び、これらについて研究します。

本学科には、大気から海底を含む海洋を包括した基盤的な学問分野である「海洋科学」、多様な海洋生物と環境との相互作用に関する学問分野である「海洋生物学」、およびこれらの境界領域を総合的に学べるカリキュラムがあります。海洋における諸現象と海洋生物との関係について測定・解析・理解・予測・利用を実行する能力及び国際的な対応力を身につけ、海洋研究、生物資源調査、環境影響評価、環境管理・保全、海洋開発などの実務に関連する研究機関、教育機関、国・自治体機関及び企業で活躍できる人材を育成します。



教育内容の概要

大気や海底を含む海洋並びに多様な海洋生物と環境との相互作用に関する基礎及び専門的な知識と技術を修得させ、これらの分野における課題の設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、専門導入科目、専門科目等の授業及び実験・実習等で組織的教育を行います。

総合科目及び専門導入科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養い、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できるように講義・演習等を通して学びます。

専門科目では、水圏における物理学的、化学的、生物学的、地学的事象の原理とその相互作用について基礎を幅広く学び、海洋全体を包括する基盤的な「海洋科学」、又は多様な海洋生物と環境との相互作用に関する「海洋生物学」、およびこれらの境界領域を総合的に学ぶとともに専門的な技術を修得します。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合科目	<ul style="list-style-type: none"> 共通導入科目 文化学系科目 哲学・科学論系科目 社会科学系科目 健康・スポーツ系科目 外国語系科目 			
専門導入科目	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎微積分Ⅰ* ●基礎微積分Ⅱ* ●物理学Ⅰ* ●物理学Ⅱ* ●化学Ⅰ* ●化学Ⅱ* ●生物学Ⅰ* ●生物学Ⅱ* ●地学Ⅰ* ●地学Ⅱ* ●数理解析 ●線形代数 ●技術史 	<ul style="list-style-type: none"> ●数理学 ●物理学 ●統計学 ●情報処理論 ●物理学実験 ●化学実験 ●生物学実験 ●地学実験 		
関連科目 グローバル・キャリア	<ul style="list-style-type: none"> ●TOEIC 入門* ●グローバルキャリア入門 ●キャリア形成論Ⅰ ●海の起業論Ⅰ 		<ul style="list-style-type: none"> ●TOEIC 演習* ●海外派遣キャリア演習Ⅰ ●キャリア形成論Ⅱ ●海の起業論Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外派遣キャリア演習Ⅱ
基礎専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ●物理学概論Ⅰ ●化学概論Ⅰ ●化学概論Ⅱ ●生物学概論 ●地球科学概論Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ●Natural Sciences * ●物理学概論Ⅱ ●化学概論Ⅲ ●化学概論Ⅳ ●地球科学概論Ⅱ ●基礎海洋学 ●理科教育法Ⅰ ●理科教育法Ⅱ ●理科教育法Ⅲ ●理科教育法Ⅳ 	<ul style="list-style-type: none"> ●データサイエンス ●応用数学 ●職業指導 ●水産科教育法Ⅰ ●水産科教育法Ⅱ ●水産科教育法Ⅲ ●理科教育法Ⅴ ●理科教育法Ⅵ 	
専門科目 海洋科学関連科目 海洋生物学関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ●水産海洋概論Ⅰ ●水産海洋概論Ⅱ ●水産海洋概論Ⅲ 	<ul style="list-style-type: none"> ●物理海洋学Ⅰ ●海底科学Ⅰ ●乗船実習Ⅰ ●環境情報解析学Ⅰ ●環境情報解析学Ⅱ ●陸水・沿岸海洋学 ●環境動態学Ⅰ ●General Oceanography* ●海洋学実習Ⅰ ●海洋生物学Ⅰ ●海洋生物学Ⅱ ●海洋生物学Ⅲ 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境動態学Ⅱ ●海洋環境リスク工学 ●海域連携利用論 ●数値モデリング ●海洋資源環境 ●キャリア実習 ●乗船実習Ⅱ ●物理海洋学Ⅱ ●化学海洋学 ●環境生命化学Ⅰ ●環境生命化学Ⅱ ●Aquatic Biology * ●臨海生物学実習 ●海底科学Ⅱ ●海洋学実習Ⅱ ●海洋科学実験 ●海底科学実験 ●海洋生物学Ⅳ ●海洋生物学Ⅴ ●海洋生態学Ⅰ ●海洋生態学Ⅱ ●海洋生物学実験Ⅰ ●海洋生物学実験Ⅱ ●海洋生物学実験Ⅲ ●海洋生物学実験Ⅳ 	<ul style="list-style-type: none"> ●乗船演習Ⅲ ●乗船演習Ⅳ
卒業研究科目				<ul style="list-style-type: none"> ●卒業論文* ●セミナー*

1 週間の時間割例

[2 年次] 基礎専門科目を中心に実験などを選択

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	生涯学習指導論／ 生涯学習社会論			環境動態学 I	
2	Effective English I	物理学概論 II	地球科学概論 II	化学概論 III 環境動態学 I	物理学概論 II 環境情報解析学 (I, II)
3	陸水・沿岸海洋学	General Oceanography 生物学実験 地学実験	情報処理論 Interactive English I	水産科教育法 II	化学概論 IV 陸水・沿岸海洋学 General Oceanography
4	基礎海洋学	生物学実験 地学実験	情報処理論		地球科学概論 II 基礎海洋学
5	Natural Sciences 電気電子工学	海底科学 I 生物学実験 地学実験	電気電子工学		Natural Sciences 海底科学 I

[3 年次] 専門科目が開講され、専門分野を自由に選択

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1				データサイエンス	
2	環境生命化学 I	海洋生物学 IV 沿岸海洋学 II	環境生命化学 I 沿岸海洋学 II		海洋生物学 IV 数値モデリング
3	物理海洋学 II 環境生命化学 II	海底科学 II 環境動態学 II	物理海洋学 II 環境生命化学 II 海底科学実験		海底科学 II 環境動態学 II 海洋生物学実験 I
4	海洋生態学 I	応用数学	海洋生態学 I 海底科学実験		海洋生物学実験 I 応用数学
5	化学海洋学		化学海洋学 海底科学実験		海洋生物学実験 I

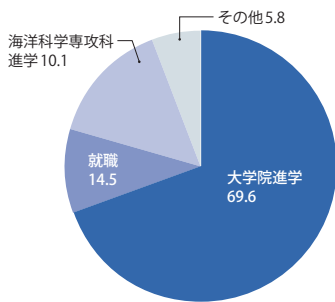
取得可能資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状(理科)
- 三級海技士(航海)※ 2
- 高等学校教諭一種免許状(水産)
- 第一級海上特殊無線技士※ 3
- 技術士補(JABEE 認定)※ 1
- 電子海図情報表示装置(ECDIS)講習の資格※ 3
- 学芸員

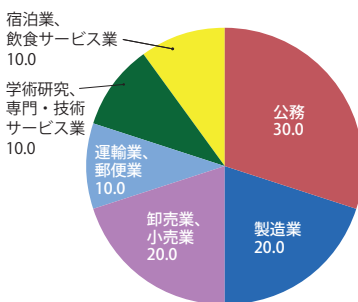
※ 1 卒業後、日本技術士会への登録が必要です。
 ※ 2 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。
 ※ 3 学部および海洋科学専攻科にて所定の単位の修得が必要です。

卒業後の進路

令和 6 年度卒業生 (%)



就職先業種



令和 6 年度卒業生産業別就職状況 (%)
 ※進学等を除く学部卒業者の実績
 ※大学院修了者の就職状況は p.44 参照

学科担当教員の研究分野・内容

■ 物理海洋学

海洋における物理現象の探求と変動予測、黒潮、親潮、極域、海洋風成大循環、深層循環、海洋中の微細混合

■ 化学海洋学

海洋における化学物質の循環について研究

■ 生物海洋学

水圏生物の生産と環境要因との関係を研究

■ 地球流体力学

大気海洋循環力学、海洋波動、潮汐、沿岸流、渦力学、回転水槽実験

■ 気候変動力学

大気海洋相互作用と気候変動、極域海洋海水変動

■ 資源情報解析学

生物資源の生態と環境要因(場の環境)との関係

■ 衛星計測学

衛星リモートセンシングによる海洋環境変動要因の解明

■ 資源環境動態学

海洋の物理過程と生物生産の動態との関係の究明

■ 環境測定学

海洋の光および濁り環境の動態

■ 環境数理解析学

数値モデルを用いて科学の諸現象のメカニズムを探求

■ 生元素循環学

海洋生物群集が駆動する生元素循環について研究

■ 海洋無機化学

水圏における元素の溶存状態の解析やその分布などの分析

■ 海底生物地球化学

海底における生物代謝および地球化学のプロセスの研究

■ 海底物質科学

海底における金属元素の動態や分布に関する鉱物学的・地球化学的研究

■ 藻類学

海藻、淡水藻、珪藻等の分類、形態、生活史、生態等

■ 無脊椎動物学

水域の無脊椎動物の分類、形態、生活史、生態等

■ 魚類学

魚類(仔稚魚)の形態、摂餌生態、群集生態等

■ 浮遊生物学

浮遊生物の分類、生理、生態、生活史

■ 鯨類学

鯨類(クジラ・イルカ等)の生態、形態や適応戦略等

■ 個体群生態学

水圏生物個体群の生態や個体数密度等の定量的研究

■ 海洋生化学

有用な環境微生物・酵素・遺伝子の探索、解析、改良、応用

■ 水圏生態化学

海洋生物由来の医薬品候補物質や毒素の化学構造と作用

■ 生体機能利用学

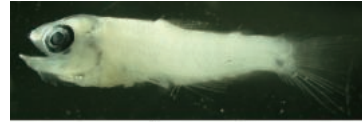
海洋と環境に関わる生体化学機能の解明とその有効利用

研究紹介

■ 魚類学

近くて遠い海の中 ～海洋生物の多様な暮らしに迫る～

人類が宇宙に行くようになって久しいですが、海に暮らす生物については、我々はまだまだ知らないことばかりです。東京湾は、その周辺に3,000万人が暮らす大都市を控えた環境負荷の高い海です。湾口部には深い海が広がりますが、この私たちの目の前の海にハダカイワシ類（代表的な深海魚のひとつ）の仔魚（しぎょ）がたくさん出現します。私たちはハダカイワシを食料として利用するわけではありませんが、世界の深い海に膨大な生物量が存在することが知られ、彼らは地球全体の物質循環において大きな役割を持ちます。私たちは日本近海に出現するハダカイワシなどの中深層性魚類の多様性と彼らの生活・生態を明らかにすることで、地球システムの理解に貢献したいと考えています。



ハダカイワシの仔魚とスケッチ
DNAバーコーディングという方法で種同定したあと、形態を詳しく調べます。

海鷹丸での魚類採集
大学の練習船を利用し世界の海に出かけます。



■ 水圏生態化学

化学の視点で海洋生物の生態に迫る

海洋生態系内には化合物を介した様々な生物間相互作用が存在します。そこには海洋生物に特徴的な生理活性物質が使われています。生物間相互作用のメカニズムを理解することは地球規模の環境問題が生態系へ与える影響を考えるために必要なことです。

本研究室では海洋生物間の化学物質を介した相互作用について、そのメカニズムを解析する研究を行っています。海洋生物が産生する有毒物質や防御物質、配偶行動をコントロールするフェロモンなど、様々な生理活性物質を分析し、生物試験することで、海洋生態系内の多彩な生物間相互作用のメカニズムを明らかにしていきます。また、これらの生物間相互作用物質を、環境の保全や医学・工学・水産学的に利用するための研究も行っています。



フェロモンに反応するクリガニの雄（左）とカミクラゲ（右）

海洋生物が持つ物質の大型機器を用いた分析



■ 海洋物理学・衛星計測学

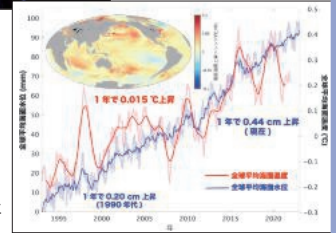
衛星地球観測による地球環境変動研究

刻一刻と変動する地球環境は、地球環境観測衛星により常に監視されています。これは衛星地球観測と呼ばれ、地球環境の診断や変動の理解において強力な観測手段です。たとえば海面温度上昇、海面水位上昇、海氷減少などが示されています。一方で、衛星地球観測を利用した社会経済活動への意思決定や、気候変動適応のための方策検討を念頭に、衛星観測ビッグデータを応用した新たな価値創出を担う人材育成が社会から要請されています。海洋物理学分野では、衛星観測に基づくビッグデータ解析、センシング技術のさらなる高精度化、海洋環境変動の指標となる新規ビッグデータの創出を行い、北極海、日本周辺海域、南極海における海洋環境変動メカニズムの解明にかかわる研究を推進しています。



衛星地球観測がもたらすビッグデータ

衛星地球観測が示す海洋温暖化と海面水位上昇



■ 環境測定学

海的环境・汚染の計測手法の開発

人為的な活動により、海に様々な物質が流入し、海中に分布し環境を変化させています。海洋マイクロプラスチック（以下MPs）はその一例です。5mm以下のプラスチックがMPsと定義されています。MPsは世界中の海域に分布しており、様々な生物へ影響を及ぼしています。しかし、MPsの採取ネットのサイズより小さなMPsの濃度分布についてあまり解明が進んでいません。当研究室では、小さなMPsの測定手法の開発に取り組んでいます。またMPsの影響は多岐にわたることから、他の研究室とも共同して研究を進めています。



ニューストンネットによるマイクロプラスチックの採取

ニューストンネットで採取されたマイクロプラスチック。赤外分光分析でプラスチックの種類を調べる



在学生の声

群馬県
出身



オーケストラ部の定期演奏会の様子

海洋環境科学科 3年（女子）
前橋女子高等学校卒業

◆ どうして東京海洋大学を選んだの？

幼いころから生き物や自然が好きで、フィールドワークに取り組みたいと思っていました。海洋大では実習や乗船の機会が多く、海洋や海洋生物について身をもって学ぶことができるところに魅力を感じ、この大学を選びました。

◆ 入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

先生方や学生が、それぞれの専門分野や学びたいことに熱意を持って向き合っており、想定していた大学像以上に活気に溢れていたところです。

◆ 実習の楽しさ、厳しさは？

特に乗船型の実習では、普段なかなかできない船内での生活を体験でき、船内の機器を操作したり海の景色を見たりするのが楽しいです。一方で、船内での活動には慎重さや真剣さが求められます。

◆ 受験生に向けて、ひとこと

海洋大では、自分が学びたいことに対する興味や意欲が強ければ強いほど、充実した大学生活を送ることができると思います。自分の夢ややりたいことを具体化し、その熱意を支えにして頑張ってください。

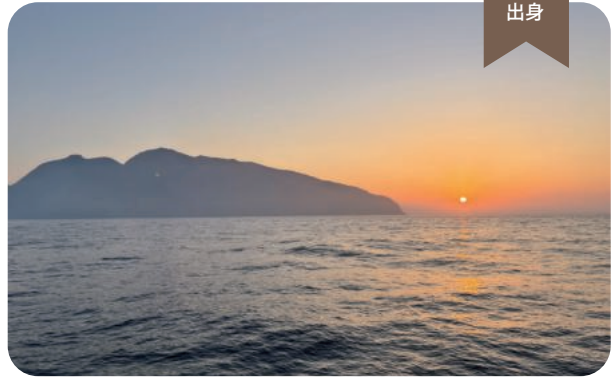
卒業生からのメッセージ

木下 堇さん

2021（令和3）年度 海洋資源環境学部海洋環境科学科卒業
2023（令和5）年度 大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻修了
国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター 底魚資源部

現在の職場では研究員としてデータ収集・解析を行い、ハタハタなどの資源状態を評価する業務に携わっています。大学では水産研究に必要な科目を基礎から応用まで学ぶことができ、現在の業務で大きく役立っていると感じています。何より本学科は物理海洋学や生物学などの授業が豊富で、その上乘船実習なども行っています。私は大学での経験を通して水産はもとより海洋全般の視野が大きく広がりました。環境変動をはじめとする様々な課題を知り、水産資源を持続的に利用し守れる仕事をしたいと思い、現在の職に就きました。他の大学に比べ本学科は非常に個性的で、海洋環境や海洋生物に関心のある皆さんに強く進学を勧めたいです。

千葉県
出身



海洋学実習Ⅱで撮影した御蔵島

海洋環境科学科 4年（女子）
千葉県立柏高等学校卒業

◆ どうして東京海洋大学を選んだの？

実践的なフィールドワークが充実しており、現場での経験を通して学びを深められる環境に魅力を感じました。また、海技士の資格取得を目指す点や、自分が興味のあるマイクロプラスチックに関する研究に取り組める点にも惹かれました。

◆ 入学してよかったと思ったのは、どんな時？

乗船実習で貴重な経験ができたときです。航海当直で実践的な力を身に着け、鹿児島（寄港地）の知覧特攻平和会館では平和について考えました。さらに、沖ノ鳥島を実際に見たことや、屋久島と種子島の間を航行中にデッキから満天の星空を眺めたことは深く心に残っています。

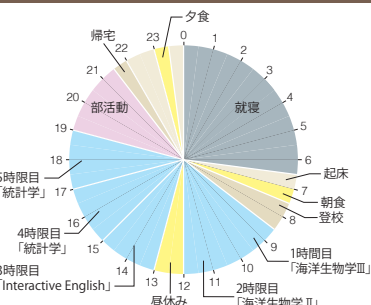
◆ 学科の特長、ユニークなところは？

海洋環境科学科では、1年次に物理・化学・生物・地学といった理科4科目を幅広く学びます。その後の実験や実習、授業ではこれらの知識を組み合わせ多角的に考えていきます。このように分野を横断しながら海を捉える力を養える点がこの学科の大きな特長であると感じています。

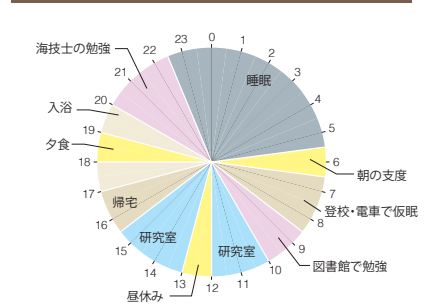
◆ 将来の夢、目標は？

外航船の航海士になることです。

Time Schedule



Time Schedule



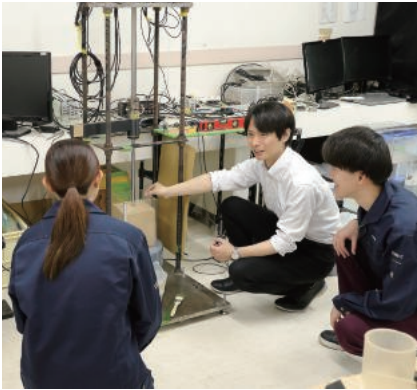
海洋資源エネルギー学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



洋上風力や潮力、太陽光など温室効果ガスを排出しない海洋自然エネルギーの利用、我が国の産業の発展に欠かせない海底鉱物資源、水産資源などの探査・生産、環境負荷を最小限に抑えた資源・エネルギーの安全な開発、海洋環境の調査、海洋ごみなど海洋汚染への対処などを学び、それらに関する研究をします。

環境保全を前提とした海洋開発現場で国際的に対応できる資質を備え、海洋の利用や資源・エネルギーに関連する企業、国・自治体機関での実務分野（設計・施工・維持管理、環境影響評価、コンサルティングなど）、基礎研究分野、行政分野で活躍できる人材を育成します。



教育内容の概要

海洋・海底資源、再生可能エネルギー、環境保全、海上・海中・海底での活動に関する基礎及び専門的な知識と技術を修得させ、これらの分野における課題の設定能力及解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、専門導入科目、専門科目等の授業及び実験・実習等で組織的教育を行います。

総合科目及び専門導入科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養い、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できるように講義・演習等を通して学びます。専門科目では、洋上風力や潮力、太陽光など温室効果ガスを排出しない海洋自然エネルギーの利用、我が国の産業の発展に欠かせない海底鉱物資源、水産資源などの探査・生産、環境負荷を最小限に抑えた資源・エネルギーの安全な開発、海洋環境の調査、海洋ごみなど海洋汚染への対処などを学ぶとともに、専門的な技術を修得します。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

	1年次	2年次	3年次	4年次
総合科目	<ul style="list-style-type: none"> 共通導入科目 文化学系科目 哲学・科学論系科目 社会科学系科目 健康・スポーツ系科目 外国語系科目 			
専門導入科目	<ul style="list-style-type: none"> 基礎微積分Ⅰ・Ⅱ* 物理学Ⅰ・Ⅱ* 化学Ⅰ・Ⅱ* 生物学Ⅰ・Ⅱ* 地学Ⅰ・Ⅱ* 数理解析 線形代数 技術史 	<ul style="list-style-type: none"> 化学実験 生物学実験 地学実験 数理科学 物理数学 統計学 情報処理論 物理学実験 		
関連科目 グローバル・キャリア	<ul style="list-style-type: none"> TOEIC 入門* グローバルキャリア入門 キャリア形成論Ⅰ 海の起業論Ⅰ 		<ul style="list-style-type: none"> TOEIC 演習* 海外派遣キャリア演習Ⅰ キャリア形成論Ⅱ 海の起業論Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 海外派遣キャリア演習Ⅱ
基礎専門科目	<ul style="list-style-type: none"> 物理学概論Ⅰ* 化学概論Ⅰ・Ⅱ 生物学概論 地球科学概論Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> Natural Sciences* 物理学概論Ⅱ* 基礎工学Ⅰ・Ⅱ* General Engineering* 理科教育法Ⅰ～Ⅳ 化学概論Ⅲ・Ⅳ 地球科学概論Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎工学Ⅲ 電気電子工学 職業指導 応用数学 水産科教育法Ⅰ～Ⅲ 理科教育法Ⅴ・Ⅵ 	
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> 水産海洋概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 	<ul style="list-style-type: none"> 海底科学Ⅰ 海洋資源エネルギー学実習Ⅰ 乗船実習Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> Marine Resource and Energy* 海底科学Ⅱ 海洋環境リスク工学 海域連携利用論 海洋資源環境キャリア実習 海洋資源エネルギー学実習Ⅱ 海洋自然エネルギー学 海洋エネルギー工学Ⅰ・Ⅱ 乗船実習Ⅱ 海洋資源地球化学 海洋地盤工学 海洋資源工学 海洋開発学実験 海洋資源エネルギー学研究の最前線 海洋計測学 海上安全工学 海洋音響学 応用情報学 応用海洋工学実験 沿岸工学 数値モデリング 	<ul style="list-style-type: none"> 乗船実習Ⅲ 乗船実習Ⅳ
卒業研究科目				<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文* セミナー*

1 週間の時間割例

[2 年次] 基礎専門科目を中心に実験・実習などを選択

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1			Interactive English I		
2	分析化学				物理数学
3		生物学実験 / 地学実験	Natural Sciences	General Engineering	化学概論 II
4		生物学実験 / 地学実験	ロシア語 III		物理学概論 II
5	General Engineering	生物学実験 / 地学実験	英米表象文化入門		

[3 年次] 注) 主に 3 年次以降は 4 学期制となり、週 2 回講義がある。物理学、化学、生物、地学、情報解析学系の専門科目が開講され、専門分野を自由に選択できる。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1		海事法規			
2	海洋エネルギー工学 I	沿岸工学	海洋エネルギー工学 I		沿岸工学
3	海洋資源工学	科学史	海洋資源工学	海洋地盤工学	海事法規
4	海洋自然エネルギー学	海洋資源地球化学	海洋自然エネルギー学	海洋地盤工学	海洋資源地球化学
5	電気電子工学		電気電子工学		

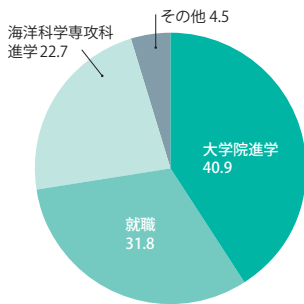
取得可能資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状(理科)
- 三級海技士(航海)※2
- 高等学校教諭一種免許状(水産)
- 第一級海上特殊無線技士※3
- 技術士補(JABEE 認定)※1
- 電子海図情報表示装置(ECDIS)講習の資格※3
- 学芸員

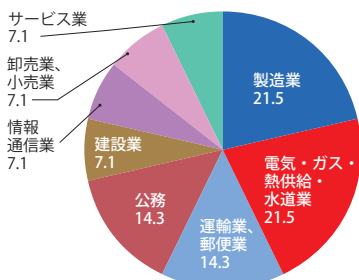
- ※1 卒業後、日本技術士会への登録が必要です。
- ※2 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。
- ※3 学部および海洋科学専攻科にて所定の単位の修得が必要です。

卒業後の進路

令和 6 年度卒業生 (%)



就職先業種



令和 6 年度卒業生産業別就職状況 (%)
 ※進学等を除く学部卒業者の実績
 ※大学院修了者の就職状況は p.44 参照

学科担当教員の研究分野・内容

■ デバイス工学

海洋エネルギー・資源利用のための超電導・電気電子デバイスや機器の開発

■ 海洋地球化学

地球化学的・地質学的手法による海底資源に関する海洋物質循環・海洋環境の研究

■ 海洋地盤工学

洋上風力発電設備や岸壁、防波堤などの構造物の基礎地盤に関する研究、海底鉱物資源の開発

■ 海域地震学

海域地震観測による地球内部構造・地震活動の研究

■ 海洋地質堆積学

地質学的手法による海洋底における資源・環境・災害の評価とプロセスの解明に関する研究

■ 海底探査・地下モニタリング

地震学的手法による海陸の地下構造探査と地下環境変化の 4 次元モニタリングの研究

■ 海洋気象学

海洋の気象現象把握と気象情報を活用した再生可能エネルギーへの応用研究

■ 応用情報学

水面下の生物等の行動を解明するためのシステム開発と実践

■ 沿岸域工学

沿岸での波浪や海浜変形、海洋構造物周辺の諸現象、沿岸防災などの研究

■ 海洋数理工学

海洋における諸現象に対して非線形力学系・複雑系の観点から数理モデルを構築し数値解析を行う

■ 海洋音響計測学

生物等を対象とした音波による水中センシング技術の開発と応用

■ 海洋生物音響学

海洋生物の音に関する研究、音を用いた行動・生態研究

■ 海洋システム制御工学

海洋クレーン、水中ビークルなど海洋機械システムの自動制御手法

■ 海洋環境化学工学

鉱物資源開発の環境影響抑制技術、海水を用いた鉱物分離技術、廃水処理技術

■ 海洋光化学

太陽光エネルギーを用いた海洋資源開発・環境浄化・資源循環法の開発

■ 海洋底岩石鉱物学

岩石学・構造地質学的手法を用いた海洋底テクトニクスの研究

研究紹介

■ デバイス工学

海洋エネルギー機器の高性能化を実現する超電導回転機の開発

島国の日本において海洋資源の魅力は計り知れません。海は他の再生可能エネルギーと比べてエネルギー密度が高く、天候の変化による出力変動の少ない有望なエネルギー資源です。

私たちは、海洋エネルギー資源を無駄なく利用して持続可能社会の実現へ貢献するため、小型・軽量・高出力・高効率な超電導発電機/モータの設計・試作と、そのために必要な極限環境技術やセンシング技術などについて「ものづくり」を通じた開発を行っています。



超電導回転機の発電試験



■ 環境化学工学

環境に配慮した海底鉱物資源開発技術・鉱物処理技術の検討

金属資源の安定的な供給を目指し、環境に配慮した金属資源開発技術に関する研究を行っています。例えば、海底鉱物資源開発に伴って発生する金属含有廃水や尾鉱の適切な処理方法を検討しています。天然の熱水鉱石試料を用いた不溶化試験を行い、鉱物分析や地球化学モデリングによる解析を活用することで、処理に適した化学反応条件を検討します。また、微生物-鉱物反応に注目した研究にも取り組み、海底熱水鉱床の成因における海洋微生物活動の寄与や、海洋微生物を用いた新たな有用鉱物分離技術の開発を行っています。



微生物を用いた鉱物分離実験の様子



金属廃水処理実験の様子

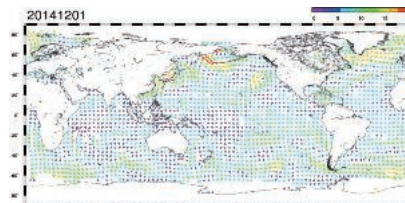
■ 海洋気象学

洋上気象現象の把握

大気と海洋は相互作用により現象を作り出しており、海洋も含めた気象現象を統一的に研究する必要があります。

しかし、洋上で時空間的に連続した海洋気象観測は容易ではありません。

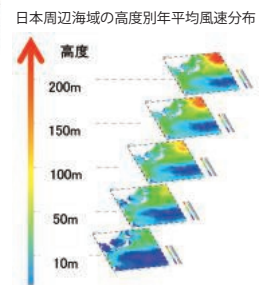
当研究室ではフィールドの観測に加えて人工衛星データや気象シミュレーションによる洋上の気象現象の把握に取り組んでいます。特に洋上風力発電に必要な海上風に関する研究を継続しており、中長期のデータ解析による建設適地の選定に貢献しています。



人工衛星搭載マイクロ波散乱計による世界の海上風観測



大規模洋上風力発電所の風車後流



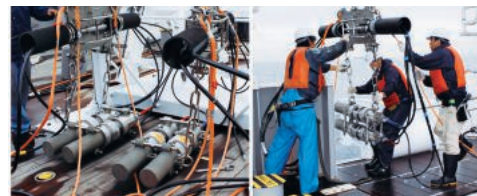
日本周辺海域の高度別年平均風速分布

■ 海底探査・地下モニタリング研究

地震波で地下を探る・診る

海洋や陸の地下には地震を発生させるプレート境界や断層、火山噴火を起こすマグマ溜、石油や鉱物などの天然資源が集まる鉱床等があります。

これらの場所では地震や噴火などの自然現象や人類による資源開発によって地下の状態が時間と共に変化し、地球環境や我々の生活にも影響を及ぼします。そこで東京海洋大学では人工地震波をつかって地下構造を探ったり、地下の状態変化を診たりするための技術開発や研究をおこなっています。



エアガン音源システムによる地震探査観測作業風景



在学生の声



千葉県
出身

海鷹丸 船内の様子

海洋資源エネルギー学科 3年 (男子)
University-Hill Secondary School 卒業

◆どうして東京海洋大学を選んだの？

実際に船に乗って行う実習や、海底資源の利用に関連する科学技術について重点的に学べるカリキュラムに魅力を感じたからです。

◆学科の特長、ユニークなところは？

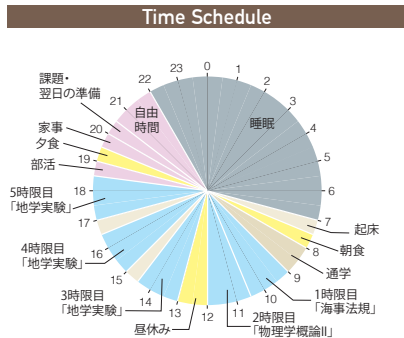
海洋資源エネルギー学科は実習が多く、全体の人数も少ないので、他の学生と親しくなりやすいです。また、海技士を目指しやすい学科なので、船とエネルギーの両方のエキスパートを目指すこともできます。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

フレッシュマンセミナーでは、水質調査や小型船への乗船、着衣泳などの様々な実習があります。普段は座学での学習が基本なので、実習に慣れていない人にとっては大変かも知れませんが、他ではできない貴重な経験になりました。

◆将来の夢、目標は？

将来は海底熱水鉱床の研究に携わりたいです。技術的課題の解決策を模索し、日本経済を資源開発により大きく発展させることが目標です。



北海道
出身

みんなで食べる最後の夜ご飯@乗船実習Ⅱ

海洋資源エネルギー学科 4年 (女子)
北海道北見北斗高等学校卒業

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

たくさんの素敵な友達に出会えたことです。学科内はもちろん、実習や部活動などを通して他学部の学生とも多く交流する機会があり、とても楽しいです。

◆学科の特長、ユニークなところは？

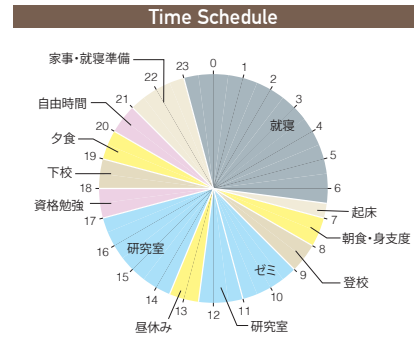
1年次に理科学科の基礎から応用まで幅広い範囲で学ぶことができるため、2・3年次の専門的な講義も楽しく受けることができました。また、海洋資源エネルギー学実習などの乗船実習を通して、授業での学びをより深めることができます。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

私は3年次に、乗船実習Ⅱと海洋資源環境キャリア実習に参加しました。乗船実習Ⅱでは初めての経験が多く、大変な毎日でしたが、1か月間の仲間との共同生活や司厨部さんの美味しいご飯のおかげで今でも素敵な思い出です。

◆受験生に向けて、ひとこと

大学生は高校生の頃よりも自分自身で選択する機会が格段に多いと思います。そのため、興味のある分野に挑戦したり学んだりすることができますし、たくさんの人と知り合うことができとても楽しいです。



卒業生からのメッセージ

加持 恵達さん

2024 (令和6) 年度 海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学科 卒業
海上保安庁 海洋情報部

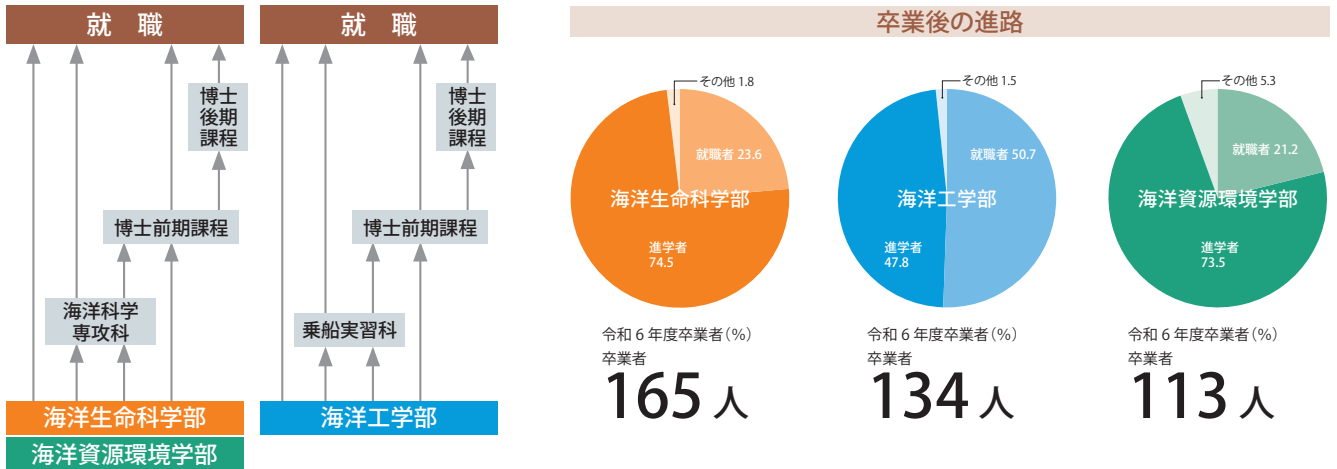
私は海底から泥や砂あるいは岩石を採取したり、地震波を用いたりして、海底下の地質構造を調べる仕事をしています。このような科学的資料の収集は、我が国の海洋における領域を管理し保全するという国家プロジェクトの一部であり、科学で日本の海を守ることにつながっています。本学科では海洋を対象として、乗船しての実習も含めてさまざまな視点から幅広く学習することができます。海洋の調査では多様な分野の知見が必要となるため、この基礎知識は重要な土台となっています。加えて専門の異なる教員が多く在籍しているため、興味を持った事柄については質問したり卒業研究で取り組んだり、学びを深める機会もあります。



©海上保安庁 海洋情報部

卒業後の進路について

本学では、キャリア支援センターと就職担当教員が就職支援をしています。就職ガイダンスや学内企業セミナーなどを実施し、最新の企業情報を提供しています。さらに、船舶の運航に関する高度な知識と技術を得るための海洋科学専攻科や乗船実習科、あるいは学部の専門基礎教育に立脚した高度専門職業人や先端領域を切り拓く研究者を育成する大学院海洋科学技術研究科博士前期・後期課程への進学指導も行っています。



専攻科・実習科

海洋科学専攻科

本学の海洋生命科学部及び海洋資源環境学部、長崎大学水産学部、鹿児島大学水産学部の卒業生に対して、1年間の課程で海洋科学専攻科を置いています。

本専攻科は、海洋・水産分野における船舶の運航に関する高度な知識と技術を持った海洋人材を育てるために設置されています。

海鷹丸での航海実習や漁業実習、海洋観測実習、ならびに寄港地での学術交流等によって国際的な視野をもった優れた船舶職員の養成を図っています。

上記の学部及び本専攻科は、三級海技士（航海）の第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び本専攻科の課程を修了した者は、三級海技士（航海）の国家試験のうち筆記試験が免除されます。

修了後は、調査・研究船や官公庁船、外航船など各種船舶の航海士をはじめ、海洋に係る多様な分野で活躍しています。



乗船実習科

海洋工学部では、海事システム工学科及び海洋電子機械工学科・機関システム工学コースの卒業生に対して、6か月間の課程で乗船実習科を置いています。

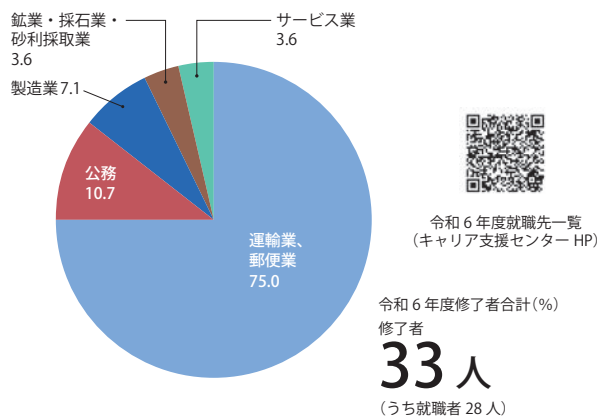
乗船実習は、海技教育機構の帆船や汽船練習船または船社のコンテナ船、LNG船等で実習を行い、大型船の船舶職員として必要な様々な知識・技術を得ます。

また、各寄港地では現地の人達との交流を通じ、国際人としての基本を身につけます。海洋工学部は、三級海技士（航海・機関）の第一種養成施設として国の登録を受けており、乗船実習科を修了した者は、三級海技士（航海）または三級海技士（機関）の国家試験のうち筆記試験が免除されます。

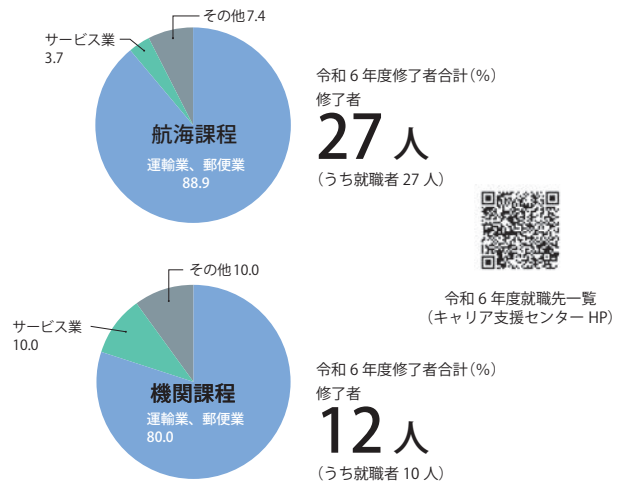
修了後は、世界の物流を支える各種船舶の航海士や機関士をはじめ、海事産業分野で多くが活躍しています。



就職先業種



就職先業種



大学院

大学院海洋科学技術研究科

求める 学生像

時代や社会に機動的に対応でき、地球規模での海洋に関わる諸問題の解決に創造的に立ち向かい、かつ、海洋とその関連産業分野における先端領域を切り拓く意欲と能力を持つ学生

大学院では、各学部における研究内容をさらに専門的に探求し、問題提起と解決を試みます。また、複雑に融合した学際領域についても新しい教育研究分野として創生し、新発見、証明、応用を目指して探求します。

本研究科は、博士前期課程と博士後期課程の2区分制となっており、博士前期課程は、「海洋生命資源科学」「食機能保全科学」「海洋資源環境学」「海洋管理政策学」「海洋システム工学」「海運ロジスティクス」「食品流通安全管理」の7専攻で構成し、学部の専門基礎教育に立脚した高度専門職業人を養成します。博士後期課程では「応用生命科学」「応用環境システム学」の2専攻で構成し、先端領域を切り拓く自立した高度専門職業人を養成します。

課程	専攻名	入学定員	専攻分野名
博士前期課程 (修士課程) 総定員 228名	海洋生命資源科学専攻	50	水圏生物学、生物資源学、海洋生物学
	食機能保全科学専攻	32	食品保全機能学、食品品質設計学
	海洋資源環境学専攻	65	海洋環境科学、海洋資源エネルギー学
	海洋管理政策学専攻	22	海洋政策学、海洋利用管理学、海洋環境文化学、水産サステナビリティ
	海洋システム工学専攻	19	動力システム工学、海洋機械工学、海洋サイバネティクス、海洋探査・利用工学
	海運ロジスティクス専攻	32	情報システム工学、環境システム工学、海洋テクノロジー学、海上安全テクノロジー、流通システム工学、流通経営学
	食品流通安全管理専攻	8	食品流通安全管理学
博士後期課程 (博士課程) 総定員 40名	応用生命科学専攻	19	応用生物学、食品機能利用学、応用生物学
	応用環境システム学専攻	21	海洋環境学、環境保全システム学、海洋利用システム学、海上安全テクノロジー、ロジスティクス、海洋機械システム学、産業政策文化学、海洋探査・利用工学

修学支援制度

在学期間短縮制度：

優れた業績を上げた学生が標準修業年限を短縮して早期に修了できます。

長期履修制度：

職業を有している等の事情により標準修業年限（博士前期課程は2年、博士後期課程は3年）を超えて一定の期間にわたって計画的に教育課程を履修することができます。

リカレント教育の取組み

職業実践力育成プログラム（文部科学大臣認定）：

食品流通安全管理専攻では、社会的実践を学ぶケースメソッド授業等で食のリスク管理のプロフェッショナルを養成しています。

学位プログラム

海洋 AI・データサイエンス学位プログラム：

ビッグデータ解析や AI と本学が有する海洋の知見を融合し、海洋分野における AI 等の社会実装を主導する人材の育成を目的とした博士課程5年一貫プログラム「海洋 AI・データサイエンス学位プログラム」を開設しています。プログラム参加者は多様な授業・インターンシップの他、各種支援を受けることができます。詳細はプログラム Web サイトを参照ください。



国際教育研究プログラム

共同学位プログラム：

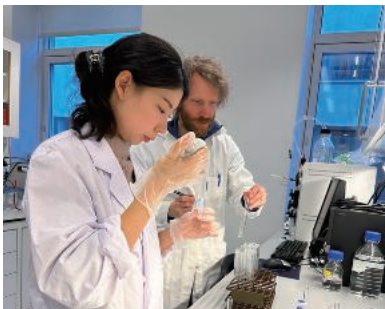
海外大学との共同学位プログラム（ダブルディグリー）を積極的に進めています。

OCEANOUS Plus プログラム：

日本・中国・韓国・タイ・マレーシア・インドネシアの6か国・7大学にて、海洋の持続的開発と利用に関わる分野において相互理解を深め、課題解決の高度な専門能力を付与するための質的保証を伴った共同学位・単位互換プログラムを実施しています。

METIS プログラム：

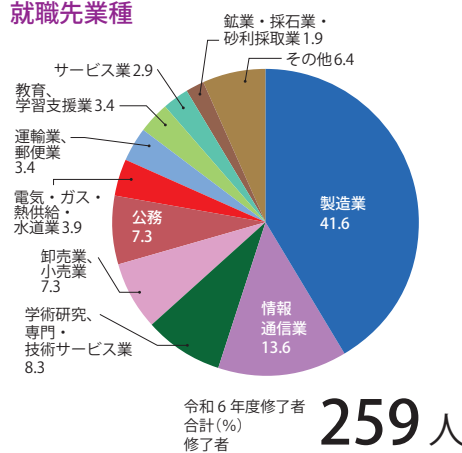
北欧の6大学（ノルウェー北極大学、ノード大学、ノルウェー科学技術大学、スタバングル大学、南デンマーク大学、デンマーク工科大学）と本学が連携し、海洋産業の生産性向上と活性化、海洋をめぐる地球規模の諸課題解決に先導的に取り組むことが出来る高度専門技術者の育成を目的とした留学プログラムを実施しています。



主な就職先

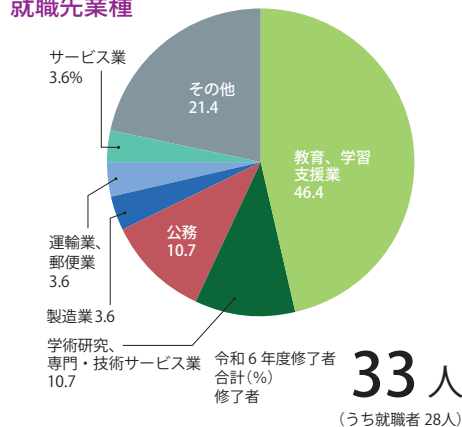
大学院 博士前期課程

就職先業種



大学院 博士後期課程

就職先業種

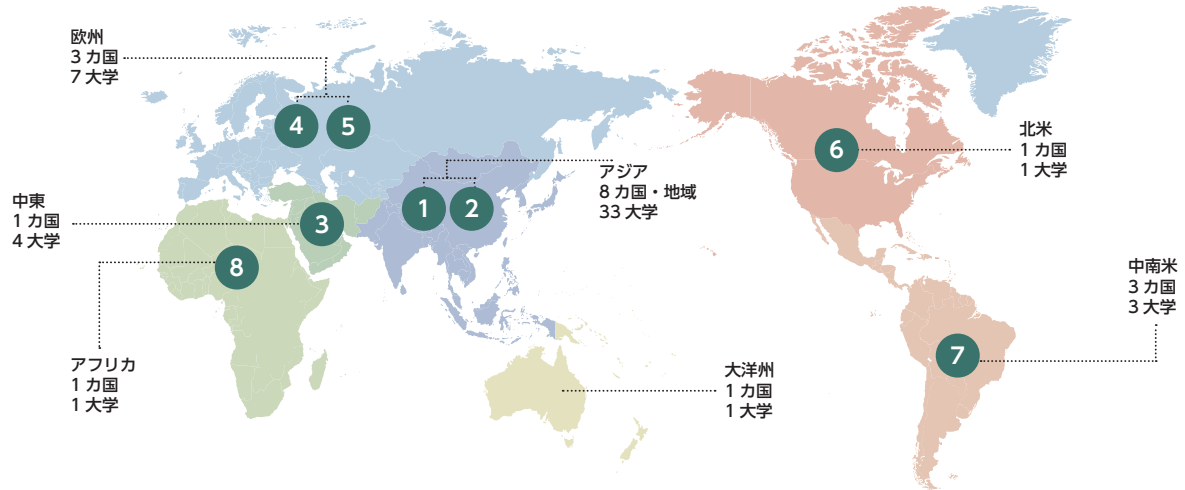


学生交流協定校への交換留学(短期派遣)

奨学金の受給があり最長1年間の留学ができる制度

世界各国の大学と短期交換留学という形で学生交流に関する協定を結んでいます。交換留学には、滞り期間中「受け入れ大学は入学料、授業料を徴収しない」「履修した科目の単位を認定できるようにする」「生活面、教育面での指導や、適当な宿舎を探せるよう受け入れ側で援助する」などいくつかのメリットがあります(本学への授業料を納入する必要がありますが、海外の大学の授業料は日本より高額なので有利です)。

学生交流協定校への学生の派遣については、いくつかの奨学金制度があり、学内での選考により受給者を決定いたします。奨学金を受給するためには、成績、語学力はもとより留学目的についての意識や留学先での学習計画について十分な準備が要求されます。



アジア(中国)
上海海事大学



アジア(タイ)
カセサート大学



中東(トルコ)
イスタンブール大学



欧州(アイスランド)
アイスランド大学



欧州(ノルウェー)
ノルウェー科学技術大学



北米(カナダ)
ヴィクトリア大学



中南米(ブラジル)
サンパウロ大学



アフリカ(ナミビア)
ナミビア大学

留学可能な協定大学一覧(18カ国・地域 50大学)

アジア	中国	中国海洋大学
		大連海事大学
		ハルビン商業大学
		上海海事大学
		大連海洋大学
		上海海洋大学
		広東海洋大学
		浙江海洋大学
		華東理工大学
		集美大学
	華東師範大学	
	台湾	台湾海洋大学
	国立高雄科技大学	
	台湾大学理学院	
	インドネシア	ボゴール農科大学
	ディボネゴロ大学	
	ハサヌディン大学	
	韓国	釜慶大学校
全南大学校		
韓国海洋大学校		
木浦海洋大学校		
釜山大学校		
江原大学校		
仁川大学校		
フィリピン	サンカルロス大学	
ベトナム	カントー大学	
ハノイ工科大学		
タイ	カセサート大学	
	チュラロンコン大学	
	プリンスオブソンクラ大学	
	プラハ大学	
	ワライラック大学	
マレーシア	マレーシアサバ大学	
中東	トルコ	エーゲ大学
	イスタンブール大学	
大洋州	オーストラリア	タスマニア大学
	アイスランド	アイスランド大学
欧州	アイスランド	アクレイリ大学
	デンマーク	南デンマーク大学理学部生物学科
	ノルウェー	スタバンゲル大学
		ノルウェー科学技術大学
		ノルウェー北極大学
	ノード大学	
北米	カナダ	ヴィクトリア大学
	ペルー	ラ・モリーナ国立農業大学
中南米	ブラジル	サンパウロ大学
	アルゼンチン	サンマルティン大学
アフリカ	ナミビア	ナミビア大学

留学先

スタヴァンゲル大学 (ノルウェー)

森岡 蒼太さん
海洋資源環境学部
海洋資源エネルギー学科4年(派遣時)

私は、2025年8月から12月にかけてノルウェーのスタヴァンゲル大学に交換留学しました。大学生活や日常生活は英語のみで問題なく過ごすことができ、留学生が多い国際色豊かな環境の中で、英語で開講される授業も充実していました。

4年次での留学であったため研究留学ではありませんでしたが、教授と1対1のPBL型授業を履修し、自身の研究と関連づけながら学びを深めました。また、グローバルな交流を目的としてグループワーク形式の授業にも参加し、さまざまな国籍や年齢の学生と議論する経験ができたことが印象に残っています。

授業以外の時間では、友人とのランチや旅行に出かけるだけでなく、大学主催の留学生向けイベントや交流プログラムにも積極的に

参加し、交友関係を広げました。異なる専攻の学生ともつながることで、多様な価値観に触れることができました。当初は英語に苦手意識がありましたが、自ら話す姿勢を大切にすることで徐々に慣れていきました。

スタヴァンゲル大学は、自ら行動する学生に多くの機会を提供してくれる環境であると感じました。主体的に動くことが求められる一方で、その姿勢に応じて職員や教授の方々がとても親身にサポートしてくださるため、さまざまなことに挑戦しやすい環境が整っています。新しい環境に飛び込むことには不安もありますが、その分得られる経験は非常に大きいと感じました。留学に興味がある方は、ぜひ挑戦してみてください。



留学先

カセサート大学 (タイ)

小堤 宥武さん
海洋工学部
流通情報工学科4年(派遣時)

私は2025年8月から12月までの約5か月間、タイのバンコクにあるカセサート大学へ交換留学をしました。経済学部へ所属し、交通経済学やサプライチェーンマネジメント、デジタル経済学等を中心に学びました。授業は全て英語で行われ、プレゼンテーションやグループワークも多く、自ら考え発言することが求められました。最初は英語で自分の意見を伝えることが難しく、悔しい思いをすることもありました。授業後に友人や教授へ積極的に質問し、会話を重ねることで、徐々に自信を持って話せるようになりました。また、留学生向けのタイ語授業も受講し、現地での生活や交流をより楽しめるようになりました。

カセサート大学には欧米やアジア等、世界各国から多くの留学生が集まっており、多様な価値観に触れたことも大きな刺激になりました。休日にはアユタヤやチェンマイなどを訪れ、タイの歴史や文化を体験しました。さらに、タイ最大級の港であるレムチャバン港を見学し、授業で学んだ物流や貿易の仕組みを実際の現場で学ぶことができました。

留学生活では大変なこともありました。多様な文化の中で生活した経験を通じて、語学力だけでなく、自分から挑戦する姿勢や柔軟に行動する力を身につけることができました。少しでも興味がある方は、ぜひ交換留学に挑戦してみてください。



留学先

アイスランド大学 (アイスランド)

岡田 春風さん
海洋生命科学部
食品生産科学科3年(派遣時)

私は2025年の8月から9か月間、アイスランド大学へ交換留学をしました。留学中は食品科学の授業をはじめ、展示会・イベントへの参加を通じて、学生だけでなく企業の方とも交流することができました。この大学の授業は少人数で柔軟性が高く、グループワークやプレゼンなど学生主体の実践的なスタイルが魅力です。

高校生の時から長期留学を視野に入れて大学を選びました。海洋大は専門分野に特化した大学と提携しているため留学先は絞られますが、だからこそ専門が活かせる環境に飛び込めるという強みがあります。留学を考えている人には、自分の専門分野を深められる場所を選ぶことをお勧めします。前期を終えた頃、生活や言語に慣れ、ここに来た意味や目

標を見失いそうになる時期もありましたが、それが自分と将来を見つめ直す大切なきっかけになりました。何に興味があって何をしたいのかを改めて整理し、挑戦し続けようという気持ちを新たにすることができました。専門分野という軸があったからこそ、迷いながらも前へ進み続けられたのだと思います。なぜ留学したいのか曖昧のまま海外へ踏み出す人が多いのではないのでしょうか。それでも大丈夫です。漠然とした期待やワクワク感を大切に、まず一歩を踏み出してみてください。その先でしか得られない発見がきっとあります。海洋大には専門性を持ちながら世界へ飛び出せる制度があります。興味があればぜひ挑戦してみてください。



気候変動によるエビ類ウイルス病の増殖ダイナミクス予測と病原性ウイルスに対する治療法の開発

世界の人口増加や気候変動により、食料不足が心配されています。動物性のタンパク質をより多く作るために、魚介類の養殖に注目が集まっています。魚介類の生産量のうち、養殖による割合は2014年に50%を超え、現在では漁業による生産量よりも多くなっています。

なかでも、クルマエビ類の養殖は、年々規模が大きくなっています。しかし、クルマエビ類の養殖では、細菌やウイルスによる病気で大きな被害が出ています。病気の正確な検査方法を確立し、治療法を見つけることが必要です。

東京海洋大学は、フィリピン・サントトマス大学とタイ・チュラロンコン大学と共同で、クルマエビ類に病気を引き起こすウイルスに対

して気候変動がどのような影響を与えるかを調べています。異なる国で発生しているウイルスの遺伝子の違いや、その違いによる病気の強さの違いについて詳しく調べています。

この研究を進めることで、病気を発見するための検査方法を向上したり、治療法を開発することができます。得られる成果は、クルマエビ類の養殖をより拡大し、安定した食料供給につながると期待しています。

(なお、本プロジェクトはJST(科学技術振興機構)の国際共同研究事業「SICORP」の支援を受け、日本・フィリピン・タイが連携して推進しています。)



エビ養殖のバイオサーベイランスを実現する、優良細菌叢の設計図構築

世界中のエビ養殖現場では、同じ条件で育てても池ごとに成長が大きくバラつくという課題があります。成功の鍵は、熟練者の経験則「水づくり」、つまり池の中に最適な微生物環境を整えることにあると考えられています。

本研究ではタイの養殖現場を「生きた実験室」とし、エビの成長が良い池と悪い池の科学的解明に挑みます。DNA解析で優良な池に特有の「コア微生物」を特定し、さらに日本独自の「微小液滴技術」を用いて細胞一つひとつの機能を緻密に解析します。最終的には、これら有益な微生物群をまるごと凍結保存して再利用する、革新的な技術の確立を目指します。

この研究の醍醐味は、生命科学の知見を基盤に、高度な分析装置を駆使する「工学」、膨大なゲノムデータを読み解く「情報科学(データサイエンス)」の3つを融合させている点です。日本の技術力とタイの現場知を掛け合わせ、食料問題という難問の解決に取り組んでいます。既存の枠組みを超え、理論と実践の両面から社会課題の克服を目指す研究を推進しています。

(なお、本プロジェクトはJST(科学技術振興機構)の国際共同研究事業「NEXUS」の支援を受け、日本とタイが連携して推進しています。)



学生交流

OQEANOUS Plus プログラム (オケアヌス プラス プログラム)

日中韓(東京海洋大学、上海海洋大学、韓国海洋大学校)とASEAN諸国(チュラロンコン大学、カセサート大学、マラヤ大学、ボゴール農科大学)が一体となり、持続可能な海洋開発・利用の分野において相互理解を深め、課題解決の高度な専門能力を付与するための大学院レベルでの質的保証を伴った単位互換制度を有する、7大学間の教育交流プログラムを実施しています。

本プログラムのIJP(国際協働教育プログラム:4ヵ月程度、6単位以上取得)及びSTP(ショートタームプログラム:2週間程度、2単位取得)は、学部4年生でも参加することができます。また、本プログラムで取得した単位は、大学院先行履修制度により、大学院に進学した際の博士前期課程選択科目に含めることができます。

METIS プログラム (メティス プログラム)

北欧6大学(ノルウェー北極大学、ノード大学、ノルウェー科学技術大学、スタバングル大学、南デンマーク大学、デンマーク工科大学)と実施する、ラーニングアグリーメント方式のECTSとの単位互換を伴う大学院レベルの留学プログラムであり、令和6年度「大学の世界展開力強化事業」に採択されました。本プログラムでは、アクティブラーニングによる分野横断型オンライン合同授業(ALC(アルク):1週間程度・1単位)にて、オンラインで北欧の学生との協働学習を経験した上で、分野横断型・単位互換を伴う交換留学(CTEX(シーテックス):5ヵ月程度・30ECTS)にて実留学することにより、留学効果をより高めることを狙いとしています(学部4年生、博士前期課程学生が対象)。また、博士前期・後期課程学生を対象とした研究インターンシップ(31日以上3ヵ月未満:単位なし)も実施しています。



練習船



うみたかまる
海鷹丸
[1,886 トン]

多数の航海計器、観測機器を搭載し、南極海を含む世界中の海を行動範囲として、航海技術のみならず、水産・海洋に対する高度な知識と海上技術を身につけた学生の養成を行っています。

また、漁業実習・海洋観測やマイクロプラスチックなど漂流物の観測を通して、環境の保全や、地球環境の変動など人類を含む地球上の生物に影響を与える事象の調査・研究に従事しています。



しんりゅうまる
神鷹丸
[986 トン]

日本周辺から太平洋赤道海域までを航海し、水産・海洋に関する実習、海技教育などに取り組み、高度な海上技術者を養成しています。海中はもちろんのこと海底下までも調査できる最新鋭の観測装置を搭載しています。近年ではプラスチックゴミ等の海洋汚染の実態調査・研究にも従事しています。



しおじまる
汐路丸
[775 トン]

本学の全ての学部学生、大学院生等を乗船対象者として運航するために様々な工夫を施し、2021年10月13日に就航しました。先代汐路丸と青鷹丸が行ってきた船舶職員の養成、海技必修科目の実習、海洋環境観測等を引き継ぎ、最新の海洋環境観測設備類を装備して、海事産業の人材育成や研究機能を併せ持つ、海洋系総合大学の練習船として大いに活躍する練習船です。

水圏科学フィールド教育研究センター



館山ステーション(千葉)

海洋環境、海洋生物に関する実習と、養殖技術、海洋生物の研究を行っています。館山湾奥には支所があり、水泳・漕艇・操船・漁業・環境観測に関する実習を行う他、練習船の停泊地としても機能しています。



大泉ステーション (山梨)

八ヶ岳山麓の敷地内にある大湧水の豊富な水を使い、ニジマス、ヤマメ、イワナ等の冷水性淡水魚類を飼育しています。生物生産や生物保全、さらに食品科学に関連した基礎から応用までの幅広い実験・実習を行っています。



清水ステーション (静岡)

一万平方メートルを越える占有海面は取水・排水権を有し、研究者が自由に海面を使用できる施設となっています。船舶や海洋構造物の防食・防汚性に関する研究、バラスト水処理装置の実海試験、海洋微生物電池の開発研究等を行っています。



富浦ステーション (千葉)

操船や水泳、水圏環境に関する実習、新入生のオリエンテーション、フレッシュマンセミナー、クラブ活動の合宿等に使用されています。



吉田ステーション (静岡)

ウナギ・アユ・コイ・金魚等の温水性淡水魚を中心に飼育しています。水族病理学や水族養殖・育種学、食品生産学などに関連した基礎から応用までの幅広い実習と研究を行っています。

施設紹介

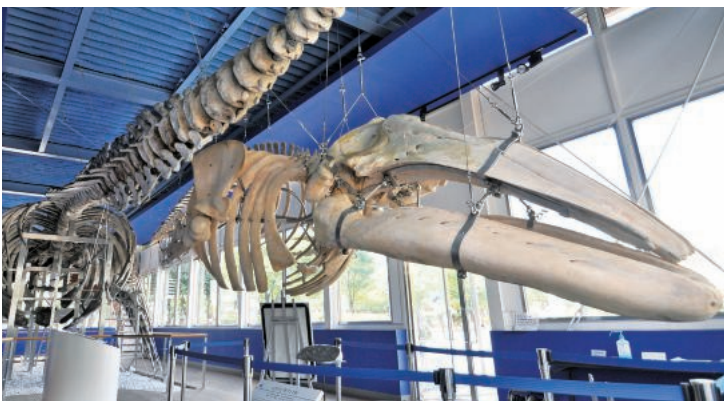
グローバル教育研究推進機構（グローバルコモン）



本学では、一定の英語能力を学部4年次への進級要件として課しています（海洋生命科学部・海洋資源環境学部：TOEIC L&R スコア 600点、海洋工学部：CEFR B1レベル）。

品川キャンパスに設置されたグローバルコモンには、英語学習のための各種教材を揃えとともに、自習スペース（個人ブース20席、スピーキング練習用防音ブース3室）を設け、個人のレベルに合わせた学習環境を提供しています。また、英語学習アドバイザーによるサポートを行うとともに、海外派遣キャリア演習及び長期学外実習（海外）に関する情報も提供しています。

マリンサイエンスミュージアム（品川キャンパス）



明治35年、旧東京水産大学の前身である農商務省水産講習所にできた標本室に始まりま

す。本館は平成28年1月に改修し、海の生き物の標本や漁具などの展示を通じて、海洋生物や海と人との関わりを紹介しています。また、別館にセミクジラなど大型鯨類の骨格標本を展示している「鯨ギャラリー」があります。

明治丸海事ミュージアム（越中島キャンパス）



国の重要文化財「明治丸」と百周年記念資料館、明治丸記念館及び現存する日本最古の2つの天文台（第一、第二観測台（登録有形文化財））等から構成され、「海洋立国日本」の歴史と文化を学ぶ場としての役割を担うとともに、越中島キャンパスに接する水辺やキャンパス内の緑が織り成す豊かな自然環境と融合して、地域に開かれた多様な文化交流の場の創出を目指しています。

附属図書館（両キャンパス）

旧東京商船大学と旧東京水産大学の附属図書館の蔵書を継承し、海洋に関する古今東西の専門書を豊富に所蔵しています。また、電子ジャーナル等の電子的コンテンツやツールの導入・維持にも積極的に取り組み、本学における学習支援及び研究活動に即した支援等、学術情報基盤の整備を継続して行っています。

保健管理センター（両キャンパス）

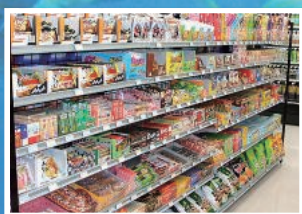
医師、看護師等のスタッフが中心となって、学生と教職員の健康診断や健康相談、メンタルヘルスのためのカウンセリング、簡単な疾病の治療、けがの応急処置、病院の紹介を行っています。大学の感染対策や実習に参加する学生の健康管理にも取り組んでいます。

総合情報基盤センター（両キャンパス）

ネットワーク・サーバの管理、コンピューターを利用する教育・研究の支援を行っています。SINET（学術情報ネットワーク）を通じ外部と接続し、学内外との電子情報交換窓口としての役割を果たしています。

キャンパスライフ Campus Life

学食・生協



海王祭実行委員会

越中島キャンパスの学園祭「海王祭」の企画運営を行う委員会です。

海洋工学部学生会

越中島キャンパスに所属する各団体が十分な活動を行うための支援をしています。

海鷹祭実行委員会

品川キャンパスの学園祭「海鷹祭」の企画運営を行う委員会です。

品川キャンパス自治委員会

品川キャンパスに通う学部学生がサークル活動や海鷹祭をより有意義なものにできるよう支援しています。



大学祭

学生が主体となって運営する大学祭は、越中島キャンパスと品川キャンパスでそれぞれ開催されます。

越中島 キャンパス



海王祭

5月 開催

プラネタリウム公開、模擬店、ステージ企画、写真展、茶会、ビンゴ大会、調査研究船「やよい」試乗会を行うとともに海洋工学部の一般公開を兼ねて、研究室、実験室、重要文化財「明治丸」、百周年記念資料館を公開しています。

品川 キャンパス



海鷹祭

11月上旬 開催

マグロの解体、切り身の即売、ウミガメの標本の展示、ニジマスの薫製作成実演等、海と「さかな」に関するものが盛り沢山です。各サークルによる研究活動の発表、バンドライブなどのイベントもにぎやかです。また、マリンサイエンスミュージアムでは学芸員を目指す学生が展示品の説明をします。

年間スケジュール

4月

5月

6月

7月

8月

入学式
オリエンテーション
定期健康診断

大学祭(越中島
キャンパス海王祭)

「海の日」記念行事

夏季休業

クラブ・サークル

一般的なクラブのほかには海洋に関するユニークなものもあります。

海王祭実行委員会

海王祭で青春してみませんか？！



品川水産カッター部

未経験者ばかりです！一緒に船漕ぎませんか？



越中島写真部

一緒に写真を撮りませんか？初心者大歓迎です！



水産生物研究会

素潜りなどで採集した生物の飼育や研究を行っています！



品川硬式庭球部

初心者から経験者まで幅広く所属しています



硬式野球部

大会で野球しませんか？



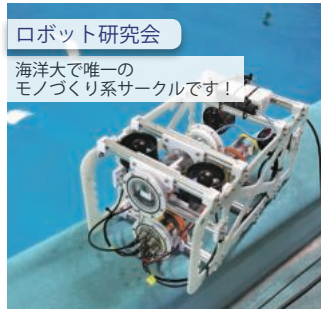
潜水部

創立71年の歴史ある部活で安全潜水を第一に活動しています！



ロボット研究会

海洋大で唯一のモノづくり系サークルです！



卓球部

初心者大歓迎！！みんな卓球しましょう！



ダンス部

EXSEADで一生の思い出を沢山作りましょう！



釣り研究同好会

初心者も大歓迎！いろいろな釣りに挑戦！！



柔道部

ド根性！！



9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

9月期学位記・修了証書授与式

10月期入学式

大学祭
(品川キャンパス海鷹祭)

冬季休業

学位記・修了証書授与式
春季休業



女子バレーボール部

部員同士仲良く和やかにバレーしています！！



ボードセーリング部

海で過ごす最後の青春を！！



男子バレーボール部

リーグ昇格を目指して頑張っています！！

海洋大の大学生活、水泳を楽しんでみませんか？



水泳部



木曜会

ブリング、帆走、自炊訓練等をしています！



越中島硬式テニス部

大学生活を楽しみたいなら是非テニス部へ！



山岳部

高みを目指しましょう



陸上競技部

陸上部で楽しく心身を健康に保ちませんか？



料理研究部

みんなで楽しく作って食べましょう！

学生自治団体

- 品川キャンパス自治委員会
- 海洋工学部学生会
- 海洋工学部学友会
- 海王祭実行委員会
- 海鷹祭実行委員会
- サークル委員会

運動系クラブ・サークル

- 品川水産カッター部
- サッカー部
- ソフトテニス部
- ネットボール部
- バスケットボール部
- バドミントン部
- フットサル部
- ボードセーリング部
- 漕艇(ボート)部
- ヨット部
- ラグビー部
- 弓道部
- 空手道部
- 剣道部
- 品川硬式庭球部
- 越中島硬式テニス部
- 硬式野球部
- 合気道部
- 山岳部
- 柔道部
- 女子カッター部
- 男子カッター部
- 女子バレーボール部
- 軟式野球部
- 水泳部
- 卓球部
- 男子バレーボール部
- 木曜会
- 陸上競技部

文化系クラブ・サークル

- ESS
- Killer Whale lab. (シャチャラボ)
- うみがめ研究会
- オーケストラ部
- ギター部
- シティーミュージック部
- ダンス部
- ジャズ・オーケストラ部
- フォークソング部
- プラスバンド部
- ロボット研究会
- 海事普及会
- 海洋研究会
- 写真部
- 合唱部
- 国際交流サークル
- 越中島写真部
- 水産生物研究会
- 潜水部
- 茶道部
- 釣り研究同好会
- 動物物研究会
- 美術部
- 軽音楽部
- 天文地学部
- 深海魚同好会
- 料理研究部



ESS

私たちと一緒に英語のスピーキングを楽しみましょう！

学生支援・相談

【学生相談体制について(主なもの)】

※その他、相談内容に合わせた相談体制となっています。

● 学生支援教員制度

学生支援教員制度は、毎年新入生を対象として、学部学科ごとに複数名の教員が、入学から卒業するまでの4年間にわたり、修学支援を行う制度です。具体的には、勉学上・進路上の悩みをはじめ、学生生活全般にわたる相談事に対し担当教員から適切なアドバイスが受けられます。

● 学生相談 (カウンセリング)

施設紹介のページの「保健管理センター」でも、ご案内していますが、学生生活、進路、対人関係等で悩みがある場合は、各キャンパスの専門カウンセラーに相談することができます。

授業料等

入学に要する費用（予定）

- 入学料 282,000円
- 授業料 535,800円（年額）
- その他 テキスト代の費用

※入学時及び在学中に入学に要する費用の改定を行った場合は、改定した時から新入学料及び新授業料が適用されます。

入学料免除・授業料免除

下記日本学生支援機構の給付奨学金と連動した入学料・授業料免除を実施しています。
制度の詳細は以下の文部科学省特設 HP よりご確認ください。
<https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>



※入学料並びに授業料は申請すれば納付期限を一定期間猶予することが可能です。

奨学金

日本学生支援機構奨学生

経済的理由で修学が困難な優れた学生に学資の貸与を行い、また、経済・社会情勢等を踏まえ、学生等が安心して学べるよう、「貸与」または「給付」する制度です。

■奨学金には、「貸与型」の奨学金と「給付型」の奨学金があります。
制度の詳細は以下の日本学生支援機構 HP よりご確認ください。
<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/index.html>



修学支援事業基金による学資支給事業（給付型）

■日本学生支援機構給付型奨学金（と連動した授業料免除）について審査の結果、対象外となった学生（若干名）に対して、大学への寄付金を活用して、1人10万円を支給する奨学金制度です。

経済支援給付制度

学資負担者の経済状況の悪化により、家計が急変した学生への経済支援制度

各種保険

学生教育研究災害傷害保険（学研災）

教育研究活動中の事故による災害保障制度で、3,300円（4年間分）の保険料です。正課・学校行事・課外活動中・通学中に傷害を被った場合、約款の定めるところにより、死亡保険金、後遺傷害保険金および医療保険金が支払われます。

学生教育研究賠償責任保険（学研賠）

学生が、正課中、学校行事中およびその活動を行うための往復中で、学生の被る種々の賠償責任事故に対する被害救済の保険制度で、1,360円（4年間分）の保険料です。ただし、この保険に加入

するには上記の学生教育研究災害傷害保険に加入していなければなりません。 ※こちらの保険は、課外活動中での事故は補償の対象外です。

学研災付帯学生生活総合保険

左記の「学研災」と「学研賠」には全学生が必ず加入しますが、これらの保険の補償内容を更に充実させた制度として、この学研災付帯学生生活総合保険が新設されました。内容は、自主参加のインターンシップやボランティア・アルバイト活動など正課・学校行事以外の分野も含め24時間補償されます。保険料は4年間約35,000～70,000円です。

※大学に届け出たインターンシップは学研災及び学研賠で補償されます。

東京海洋大学校友会

東京海洋大学校友会

本学と卒業生や各種卒業生団体、大学の教職員、学部学生、大学院生、留学生さらには在学生の保護者の方々を含めた連携強化を目的として、「オール海洋大」で構成し、交流促進、相互支援、最新情報の共有化などの交流の場として本学の絆をつなぎます。（入会金、年会費無料）

校友会の主な事業

- 校友会システムを活用した校友同士の情報発信や卒業生OB、OGとの交流支援
- メルマガ・HP更新等情報発信・イベントの実施

学生寮

学生に生活と勉学の間を提供し、修学上の便宜を図るために、品川・越中島両キャンパス内に設置されています。どちらの学生寮とも、JR・京浜急行品川駅やJR 越中島駅の徒歩圏内と都心へのアクセスが便利です。



青鷹寮 (品川キャンパス)

海王寮 (越中島キャンパス)

施設及び設備の概要

	青鷹寮 (品川キャンパス)	海王寮 (越中島キャンパス)
住 所	〒108-0075 東京都港区港南 4-5-34 最寄駅：品川駅 (JR・京急線) 徒歩 15 分 天王洲アイル駅 (りんかい線・東京モノレール) 徒歩 10 分	〒135-0044 東京都江東区越中島 2-2-8 最寄駅：越中島駅 (JR 京葉線・武蔵野線) 徒歩 2 分 門前仲町駅 (地下鉄東西線・大江戸線) 徒歩 10 分 月島駅 (地下鉄有楽町線・大江戸線) 徒歩 10 分
建 物	鉄筋コンクリート造 地上 10 階建て	鉄筋コンクリート 4 階建 4 棟、2 階建 1 棟
居 室	学生用 326 室【洋室・個室】 A：48 室、B：278 室 (A は、共用のシャワー、トイレ、ダイニング、キッチン を 1 エリア 12 名でシェア)	334 室【洋室・準個室】 (1 室を 2 部屋に区切り 2 人で使用) 男子 129 室、女子 38 室
面 積	A：約 9㎡/居室、B：約 13㎡/居室 ※居室によって面積・形状等が異なる場合があります	男子寮、女子寮共：約 12.5㎡/1 人あたり
設 備	A・B 共通：ベッド、ベッドマット、引き出し収納付き机、椅子、エアコン等 A のみ：洗面台 B のみ：ミニキッチン、トイレ、シャワー (浴槽なし) ※毛布、ふとん等は各自準備してください。(レンタル可)	ベッド、机、椅子、本棚、ロッカー、テレビ端子、エアコン LAN ケーブル端子 ※毛布、ふとん・ベッドマット等は各自準備してください。
共用設備	●1階 …… 学内共用 交流ラウンジ、多目的室、多目的トイレ等 入居者専用 エレベーター、宅配ボックス、メール室等 ●2～10階 …… 交流スペース、ランドリールーム等 ※全館防犯カメラ設置、エントランスオートロック完備	●1～4 寮 …… 談話室 (ミニキッチン)、洗濯室、洗面所、トイレ、女子用シャワー室 (女子棟 2・4 階のみ)、自動販売機 (1 階のみ)、メールボックス (1 階のみ) ●5 寮 1 階 …… 男子用共同浴場・男子用シャワー室、会議室、多目的ホール、物品庫等 ●5 寮 2 階 …… 談話室 (ミニキッチン)、洗濯室、洗面所、トイレ、トランクルーム等 ※全館防犯カメラ設置、エントランスオートロック完備 ※エレベーターはありません

学生寮の経費

	青鷹寮 (品川キャンパス)	海王寮 (越中島キャンパス)
寄 宿 料	A：1 年間 480,000 円 (月額 40,000 円) B：1 年間 780,000 円 (月額 65,000 円)	1 年間 36,000 円 (月額 3,000 円) [タイプ I の場合]
光 熱 水 費	別途入居者負担	1 年間 約 54,000 円 (月額 約 4,500 円)
入寮時徴収金	寄宿料 1 ヶ月分相当額	30,000 円
諸 経 費	A・B 共通：ランドリー使用料 (使用の都度支払い 1 回 300 円) A のみ：共用のシャワー、トイレ、ダイニング、キッチン使用料。	海王寮寮務委員が別途徴収 ～ 7,000 円 (入寮のみ)
共 益 費	※徴収する予定はありません。	1 年間 / 38,400 円 (月額 3,200 円)

間 取 り		
-------	--	--

【青鷹寮】※寄宿料にインターネット通信料を含みます。

【海王寮】※入寮時には、寄宿料・諸経費・光熱水費・共益費を 6 ヶ月分まとめて徴収します。徴収方法等については入寮選考結果と共にお知らせします。

※経費負担については、全体的に見直しを検討しており、変更の可能性あります。変更の際は、大学 HP や入試募集要項にてお知らせします。

学生寮の選考方法

通学の困難度 (片道の通学時間が 2 時間以上のものを優先) 及び家庭の経済状況 (本学所定の選考基準により算出した「家計評価」による) を考慮し選考します。

※選考方法は変更の可能性あります。変更の際は、大学 HP や入試募集要項にてお知らせします。

学生寮の応募方法

詳細は、入試募集要項又は大学 HP 「学生寮」のページをご覧ください。

入寮についての問い合わせ先／学生サービス課学生生活係 TEL.03-5463-0433 / 0429

もっと詳しく知りたい方は大学 HP → 学生生活 → 学生寮

入試概要

2027 年度 募集人員

学部	学科	入学定員	募集人員										
			一般選抜		総合型選抜						学校推薦型選抜		私費外国人留学生
			前期日程	後期日程	A (一般)	B (専門学科・総合学科卒業生)	C-I型 (帰国生徒)	C-II型 (留学経験者)	D (商船教員養成コース)	E (社会人)	A (一般)	B (専門学科・総合学科卒業生)	
海洋生命科学部	海洋生物資源学科 (水産教員養成課程)	68	42	18	8	—	若干名	若干名	—	若干名	—	若干名	若干名
		③	③	—	若干名	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名
	食品生産科学科 (水産教員養成課程)	55	30	14	—	—	若干名	若干名	—	若干名	10	1	若干名
		③	②	—	—	—	—	—	—	—	—	①	若干名
海洋生命科学部	海洋政策文化学科 (水産教員養成課程)	40	21	12	5	若干名	若干名	若干名	—	若干名	2	—	若干名
		①	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	若干名
	小 計	170 (163+⑦)	93 ⑥	44	13	若干名	若干名	若干名	—	若干名	12	1 ①	若干名
海洋工学部	海事システム工学科	59	36	14	7	2	若干名	—	—	若干名	—	—	若干名
	海洋電子機械工学科	59	34	14	6	3	若干名	—	2	若干名	—	—	若干名
	流通情報工学科	42	20	14	7	1	若干名	—	—	若干名	—	—	若干名
	小 計	160	90	42	20	6	若干名	—	2	若干名	—	—	若干名
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	62	37 ※	14 ※	—	—	若干名	若干名	—	若干名	11	若干名	若干名
	海洋資源エネルギー学科	43	27 ※	11 ※	—	—	若干名	若干名	—	若干名	5	若干名	若干名
	小 計	105	64	25	—	—	若干名	若干名	—	若干名	16	若干名	若干名
	合 計	435 (428+⑦)	247 ⑥	111	33	6	若干名	若干名	2	若干名	28	1 ①	若干名

※海洋生命科学部及び海洋工学部の一般選抜は、第1志望学科のみ志願することができます。
海洋資源環境学部の一般選抜は、前期日程・後期日程とも海洋資源環境学部の2学科間で、第2志望を認めます。

- (注1) 総合型選抜 A は一般、総合型選抜 B は専門学科・総合学科卒業生、総合型選抜 E は社会人をそれぞれ対象とした選抜です。
(注2) 総合型選抜 C-I は帰国生徒を対象とした選抜です。
(注3) 総合型選抜 C-II は日本の高等学校在籍中に1年 (School Year) 以上の海外留学経験を有する者を対象とした選抜です。
(注4) 総合型選抜 D (商船教員養成コース) は水産・海洋系高等学校、または水産・海洋系の学科あるいはコースを持つ高等学校の教員を養成するコースです。
(注5) 学校推薦型選抜 A は公募制の選抜です。学校推薦型選抜 B は専門学科・総合学科卒業生 (水産・海洋系) を対象とした公募制の選抜です。
(注6) 海洋生命科学部の入学定員小計 170 人には、水産教員養成課程の 7 人を含みます。○印の数は、水産教員養成課程の募集人員で外数です。○印のつかない一般と区別します。
(注7) 海洋生命科学部海洋生物資源学科の前期日程の水産教員養成課程の募集人員には、総合型選抜 A、学校推薦型選抜 B の水産教員養成課程の募集人員を含みます。
(注8) 海洋生命科学部の前期日程の募集人員には、総合型選抜 B、総合型選抜 C-I、総合型選抜 C-II、総合型選抜 E、学校推薦型選抜 B (海洋生物資源学科) の募集人員を含みます。
(注9) 海洋生命科学部の総合型選抜 A、学校推薦型選抜 A、学校推薦型選抜 B (食品生産科学科) の合格者が募集人員に満たない場合は、その数を一般選抜前期日程の募集人員に加えて募集します。
(注10) 海洋工学部の前期日程の募集人員には、総合型選抜 C-I、総合型選抜 E の募集人員を含みます。
(注11) 海洋工学部の総合型選抜 A、総合型選抜 B、総合型選抜 D の合格者が募集人員に満たない場合は、その数を一般選抜前期日程の募集人員に加えて募集します。
(注12) 海洋資源環境学部の前期日程の募集人員には、総合型選抜 C-I、総合型選抜 C-II、総合型選抜 E、学校推薦型選抜 B の募集人員を含みます。
(注13) 海洋資源環境学部の学校推薦型選抜 A の合格者が募集人員に満たない場合は、その数を一般選抜前期日程の募集人員に加えて募集します。

令和8年度 入学者選抜データ

海洋生命科学部

令和8年4月1日現在

学科名	入学定員	区 分		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数	備 考
海洋生物資源学科	71名	総合型選抜	A 一般	8	97 (36)	12.1	23 (6)	9 (3)	9 (3)	
			C I 帰国	若干名	2 (1)	—	2 (1)	1 (0)	1 (0)	
			C II 留学	若干名	—	—	—	—	—	
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型選抜	B 専門	若干名	2 (1)	—	2 (1)	2 (1)	2 (1)	
			一般選抜	前期日程	45	205 (60)	4.6	195 (57)	43 (9)	43 (9)
				後期日程	18	173 (57)	9.6	84 (26)	19 (8)	18 (8)
				小 計	71	479 (155)	6.7	306 (91)	74 (21)	73 (21)
				私費外国人留学生	若干名	4 (4)	—	3 (3)	1 (1)	1 (1)
				合 計	71	483 (159)	6.8	309 (94)	75 (22)	74 (22)
食品生産科学科	58名	総合型選抜	C I 帰国	若干名	—	—	—	—	—	
			C II 留学	若干名	1 (1)	—	1 (1)	1 (1)	1 (1)	
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型選抜	A 一般	10	36 (25)	3.6	36 (25)	10 (6)	10 (6)	
			B 専門	2	—	—	—	—	—	
		一般選抜	前期日程	32	130 (85)	4.1	127 (83)	34 (25)	33 (24)	
			後期日程	14	95 (67)	6.8	54 (36)	16 (10)	15 (9)	
				小 計	58	262 (178)	4.5	218 (145)	61 (42)	59 (40)
				私費外国人留学生	若干名	—	—	—	—	—
				合 計	58	262 (178)	4.5	218 (145)	61 (42)	59 (40)
海洋政策文化学科	41名	総合型選抜	A 一般	5	18 (6)	3.6	13 (5)	5 (3)	5 (3)	
			B 専門	若干名	2 (1)	—	2 (1)	2 (1)	2 (1)	
			C I 帰国	若干名	1 (1)	—	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
			C II 留学	若干名	1 (0)	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型選抜	A 一般	2	4 (2)	2.0	4 (2)	3 (2)	3 (2)	
			一般選抜	前期日程	22	55 (25)	2.5	50 (24)	24 (10)	24 (10)
				後期日程	12	133 (61)	11.1	75 (37)	12 (5)	11 (5)
				小 計	41	214 (96)	5.2	145 (70)	46 (21)	45 (21)
				私費外国人留学生	若干名	2 (0)	—	1 (0)	0 (0)	0 (0)
		合 計	41	216 (96)	5.3	146 (70)	46 (21)	45 (21)		
合 計	170名	総合型選抜	A 一般	13	115 (42)	8.8	36 (11)	14 (6)	14 (6)	
			B 専門	若干名	2 (1)	—	2 (1)	2 (1)	2 (1)	
			C I 帰国	若干名	3 (2)	—	3 (2)	1 (0)	1 (0)	
			C II 留学	若干名	2 (1)	—	1 (1)	1 (1)	1 (1)	
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型選抜	A 一般	12	40 (27)	3.3	40 (27)	13 (8)	13 (8)	
			B 専門	2	2 (1)	1.0	2 (1)	2 (1)	2 (1)	
		一般選抜	前期日程	99	390 (170)	3.9	372 (164)	101 (44)	100 (43)	
			後期日程	44	401 (185)	9.1	213 (99)	47 (23)	44 (22)	
				小 計	170	955 (429)	5.6	669 (306)	181 (84)	177 (82)
		私費外国人留学生	若干名	6 (4)	—	4 (3)	1 (1)	1 (1)		
		合 計	170	961 (433)	5.7	673 (309)	182 (85)	178 (83)		

- 区分欄のうち、専門は専門学科・総合学科卒業生、帰国は帰国生徒、留学は留学経験者の略である。
- 海洋生物資源学科の総合型選抜A（一般）、学校推薦型選抜B（専門）、海洋政策文化学科の総合型選抜A（一般）、C I（帰国）、C II（留学）、E（社会人）の受験者数は、第2次選抜の受験者数である。
- () 内は女子学生を内数で示す。
- 水産教員養成課程の募集人員は、一般選抜前期日程の海洋生物資源学科に3名、食品生産科学科に2名、及び海洋政策文化学科に1名、学校推薦型選抜B（専門）の食品生産科学科に1名ずつ含まれている。
- 海洋生物資源学科の水産教員養成課程3名には、総合型選抜A（一般）の若干名、学校推薦型選抜B（専門）の若干名が含まれている。
- 「外国人留学生特別推薦選抜（日本台湾交流協会日本奨学金留学生）」で入学する留学生1名（食品生産科学科）は、この表に含まれていない。

海洋工学部

令和8年4月1日現在

学科名	入学定員	区 分		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数	備 考	
海事システム 工学科	59名	総合型選抜	A 一般	7	45 (10)	6.4	25 (8)	7 (4)	7 (4)		
			B 専門	2	2 (1)	1.0	1 (1)	0 (0)	0 (0)		
			C I 帰国	若干名	—	—	—	—	—		
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—		
		一般選抜	前期日程	36	134 (42)	3.7	130 (42)	40 (15)	39 (15)		
			後期日程	14	127 (35)	9.1	56 (12)	16 (5)	15 (5)		
		小 計			59	308 (88)	5.2	212 (63)	63 (24)	61 (24)	
		私費外国人留学生			若干名	2 (1)	—	2 (1)	1 (0)	1 (0)	
		合 計			59	310 (89)	5.3	214 (64)	64 (24)	62 (24)	
海洋電子機械 工学科	59名	総合型選抜	A 一般	6	11 (2)	1.8	9 (1)	3 (0)	3 (0)		
			B 専門	3	5 (0)	1.7	5 (0)	1 (0)	1 (0)		
			C I 帰国	若干名	1 (0)	—	1 (0)	0 (0)	0 (0)		
			D 商船	2	—	—	—	—	—		
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—		
		一般選抜	前期日程	34	132 (18)	3.9	128 (17)	46 (6)	41 (5)		
			後期日程	14	115 (14)	8.2	49 (6)	19 (2)	14 (1)		
		小 計			59	264 (34)	4.5	192 (24)	69 (8)	59 (6)	
		私費外国人留学生			若干名	2 (0)	—	2 (0)	0 (0)	0 (0)	
合 計			59	266 (34)	4.5	194 (24)	69 (8)	59 (6)			
流通情報工学科	42名	総合型選抜	A 一般	7	8 (2)	1.1	8 (2)	6 (2)	6 (2)		
			B 専門	1	1 (0)	1.0	1 (0)	0 (0)	0 (0)		
			C I 帰国	若干名	—	—	—	—	—		
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—		
		一般選抜	前期日程	20	56 (17)	2.8	55 (17)	24 (7)	20 (4)		
			後期日程	14	101 (31)	7.2	54 (18)	26 (11)	21 (8)		
		小 計			42	166 (50)	4.0	118 (37)	56 (20)	47 (14)	
		私費外国人留学生			若干名	2 (0)	—	2 (0)	2 (0)	1 (0)	
		合 計			42	168 (50)	4.0	120 (37)	58 (20)	48 (14)	
合 計	160名	総合型選抜	A 一般	20	64 (14)	3.2	42 (11)	16 (6)	16 (6)		
			B 専門	6	8 (1)	1.3	7 (1)	1 (0)	1 (0)		
			C I 帰国	若干名	1 (0)	—	1 (0)	0 (0)	0 (0)		
			D 商船	2	—	—	—	—	—		
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—		
		一般選抜	前期日程	90	322 (77)	3.6	313 (76)	110 (28)	100 (24)		
			後期日程	42	343 (80)	8.2	159 (36)	61 (18)	50 (14)		
		小 計			160	738 (172)	4.6	522 (124)	188 (52)	167 (44)	
		私費外国人留学生			若干名	6 (1)	—	6 (1)	3 (0)	2 (0)	
合 計			160	744 (173)	4.7	528 (125)	191 (52)	169 (44)			

- 区分欄のうち、専門は専門学科・総合学科卒業生、帰国は帰国生徒、商船は商船教員養成コースの略である。
- 総合型選抜の受験者数は、第2次選抜の受験者数である。
- () 内は女子学生を内数で示す。

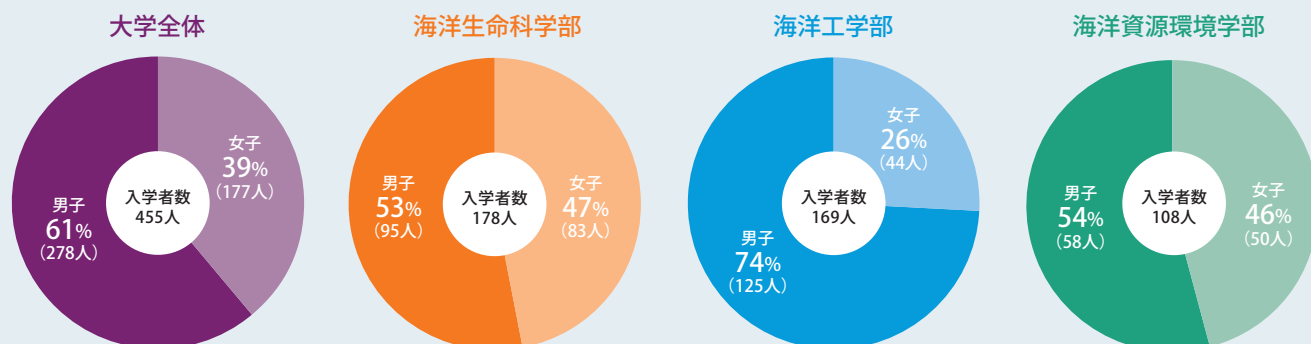
海洋資源環境学部

令和8年4月1日現在

学科名	入学定員	区分	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数	備考	
海洋環境科学科	62名	総合型選抜	C I 帰国	若干名	—	—	—	—	—	
			C II 留学	若干名	3 (2)	—	3 (2)	0 (0)	0 (0)	
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型選抜	A 一般	11	66 (40)	6.0	65 (39)	11 (7)	11 (7)	
			B 専門	若干名	—	—	—	—	—	
		一般選抜	前期日程	37	188 (89)	5.1	182 (85)	41 (19)	40 (18)	
			後期日程	14	104 (57)	7.4	64 (36)	15 (10)	13 (9)	
		小計		62	361 (188)	5.8	314 (162)	67 (36)	64 (34)	
		私費外国人留学生	若干名	3 (1)	—	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
		合計		62	364 (189)	5.9	314 (162)	67 (36)	64 (34)	
海洋資源エネルギー学科	43名	総合型選抜	C I 帰国	若干名	1 (0)	—	1 (0)	1 (0)	1 (0)	
			C II 留学	若干名	—	—	—	—	—	
			E 社会人	若干名	1 (0)	—	1 (0)	1 (0)	0 (0)	
		学校推薦型選抜	A 一般	5	23 (9)	4.6	23 (9)	5 (1)	5 (1)	
			B 専門	若干名	1 (0)	—	1 (0)	0 (0)	0 (0)	
		一般選抜	前期日程	27	80 (28)	3.0	76 (25)	30 (10)	28 (10)	
			後期日程	11	64 (20)	5.8	31 (13)	13 (7)	10 (5)	
		小計		43	170 (57)	4.0	133 (47)	50 (18)	44 (16)	
		私費外国人留学生	若干名	2 (0)	—	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
		合計		43	172 (57)	4.0	133 (47)	50 (18)	44 (16)	
合計	105名	総合型選抜	C I 帰国	若干名	1 (0)	—	1 (0)	1 (0)	1 (0)	
			C II 留学	若干名	3 (2)	—	3 (2)	0 (0)	0 (0)	
			E 社会人	若干名	1 (0)	—	1 (0)	1 (0)	0 (0)	
		学校推薦型選抜	A 一般	16	89 (49)	5.6	88 (48)	16 (8)	16 (8)	
			B 専門	若干名	1 (0)	—	1 (0)	0 (0)	0 (0)	
		一般選抜	前期日程	64	268 (117)	4.2	258 (110)	71 (29)	68 (28)	
			後期日程	25	168 (77)	6.7	95 (49)	28 (17)	23 (14)	
		小計		105	531 (245)	5.1	447 (209)	117 (54)	108 (50)	
		私費外国人留学生	若干名	5 (1)	—	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
		合計		105	536 (246)	5.1	447 (209)	117 (54)	108 (50)	

- 区分欄のうち、帰国は帰国生徒、留学は留学経験者、専門は専門学科・総合学科卒業生の略である。
- () 内は女子学生を内数で示す。
- 一般選抜（前期日程・後期日程）の志願者数及び受験者数は、第1志望の志願者数及び受験者数を示す。
- 「外国人留学生特別推薦選抜（国費）」で入学する留学生1名（海洋環境科学科）は、この表に含まれていない。

令和8年度入試男女別入学状況(%)



キャンパスガイド

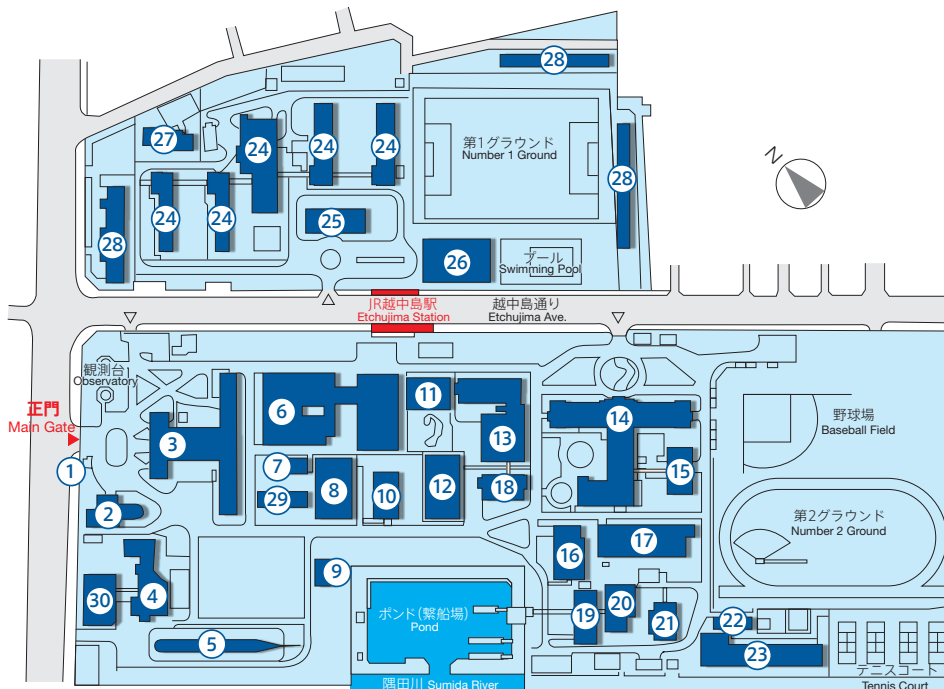
海洋生命科学部・海洋資源環境学部（品川キャンパス）



- ① 守衛所
- ② 保健管理センター
- ③ 職員集会所
- ④ 本部管理棟
- ⑤ 中部講堂
- ⑥ 回流水槽実験棟

- ⑦ 1号館
- ⑧ 2号館 / 水圏生物生産工学研究所
- ⑨ 飼育実験室
- ⑩ 3号館
- ⑪ 4号館
- ⑫ 6号館
- ⑬ 7号館 / 海の研究戦略マネジメント機構
- ⑭ 放射性同位元素管理センター
- ⑮ 水理模型実験棟
- ⑯ 廃水処理施設
- ⑰ 8号館
- ⑱ 9号館
- ⑲ 国際混住寮(青鷹寮)
- ⑳ 白鷹館
- ㉑ 楽水会館
- ㉒ マリンサイエンスミュージアム
- ㉓ 鯨ギャラリー
- ㉔ 附属図書館
- ㉕ 学生会館
- ㉖ 講義棟
- ㉗ 5号館
- ㉘ 武道館
- ㉙ 体育管理・合宿施設
- ㉚ 課外活動施設
- ㉛ 特殊実験棟 / 総合情報基盤センター
- ㉜ 体育館
- ㉝ 漁業機械学実験実習棟
- ㉞ 艇庫
- ㉟ 課外活動施設

海洋工学部（越中島キャンパス）



- ① 守衛所
- ② 海の研究戦略マネジメント機構 越中島オープンラボ棟
- ③ 1号館
- ④ 百周年記念資料館
- ⑤ 明治丸
- ⑥ 第1実験棟
- ⑦ ターボ動力実験棟
- ⑧ 第2実験棟
- ⑨ 職員会館
- ⑩ 第3実験棟
- ⑪ 海の研究戦略マネジメント機構
- ⑫ 附属図書館越中島分館
- ⑬ 2号館
- ⑭ 越中島会館 / NYK Group Lounge / 保健管理センター
- ⑮ ワールドマリン・カフェ（食堂）
- ⑯ 第4実験棟
- ⑰ 第5実験棟
- ⑱ 3号館
- ⑲ 第1艇庫
- ⑳ 第2艇庫
- ㉑ 課外活動棟
- ㉒ 体育管理棟
- ㉓ 船舶運航性能実験水槽棟
- ㉔ 学生寮（海王寮）
- ㉕ 八十五周年記念会館
- ㉖ 体育館
- ㉗ 国際交流会館
- ㉘ 職員宿舎
- ㉙ 船舶機関室シミュレータセンター棟
- ㉚ 明治丸記念館

交通案内



品川キャンパス

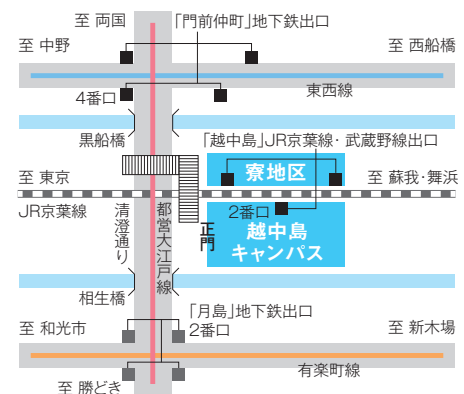


- JR線、東海道新幹線及び京浜急行線「品川駅」自由通路港南口（東口）を経て正門まで徒歩10分
 - 東京モノレール・りんかい線「天王洲アイランド」からふれあい橋を渡り正門まで徒歩20分
- 〒108-8477
東京都港区港南4-5-7
TEL.03-5463-0400（代表）



「品川キャンパス」から都心をのぞむ

越中島キャンパス



- JR京葉線・武蔵野線「越中島駅」（各駅停車のみ）2番出口徒歩2分
 - 地下鉄東西線、大江戸線「門前仲町駅」4番出口徒歩10分
 - 地下鉄有楽町線、大江戸線「月島駅」2番出口徒歩10分
- 〒135-8533
東京都江東区越中島2-1-6
TEL.03-5245-7300（代表）



「越中島キャンパス」から関東平野をのぞむ

2027(令和9)年度 学部入試日程

●学部入試の出願はインターネット出願で行います

www.kaiyodai.ac.jp/ から **入試情報** または **大学で学びたい方** をクリック！

入試区分		出願期間	入学試験日・面接日	合格発表日	備考	
総合型選抜	海洋生命科学部 海洋生物資源学科 食品生産科学科	2026年 11/2(月)～11/9(月)	第1次選抜	2026年11/19(木)	2026年12/11(金)	総合型選抜(C、E)は、第1次選抜で最終合格となります。
			第2次選抜	2026年12/18(金)	2027年1/19(火)	海洋生命科学部海洋生物資源学科の総合型選抜(A)のみ第2次選抜を実施します。
	海洋政策文化学科	2026年 9/1(火)～9/7(月)	第1次選抜	2026年9/25(金)	2026年10/9(金)	総合型選抜(B)は、第1次選抜で最終合格となります。
			第2次選抜	2026年11/19(木)	2026年12/11(金)	総合型選抜(A)の条件付合格者には、最終結果を2027年2月10日(水)以降に通知します。
	海洋工学部	2026年 9/1(火)～9/7(月)	第1次選抜	2026年 9/10(木)～9/16(水)	2026年10/9(金)	書類選考
			第2次選抜	2026年10/16(金)	2026年11/13(金)	
海洋資源環境学部	2026年 11/2(月)～11/9(月)	2026年11/19(木)	2026年12/11(金)			
学校推薦型選抜	海洋生命科学部 海洋生物資源学科 食品生産科学科	2026年 11/2(月)～11/9(月)	第1次選抜	2026年11/19(木)	2026年12/11(金)	
			第2次選抜	2026年12/18(金)	2027年1/19(火)	海洋生命科学部海洋生物資源学科の学校推薦型選抜(B)のみ第2次選抜を実施します。
	海洋資源環境学部		2026年11/19(木)	2026年12/11(金)		
	海洋生命科学部 海洋政策文化学科	2027年 1/25(月)～2/3(水)	書類選考	2027年2/10(水)		
一般選抜・私費外国人留学生特別入試	海洋生命科学部 海洋工学部 海洋資源環境学部	前期日程 2027年 1/25(月)～2/3(水)	2027年2/25(木)	2027年3/8(月)	※私費外国人留学生特別入試は前期日程の出願期間、試験日、合格発表日と同じ。	
		後期日程	2027年3/12(金)	2027年3/23(火)		

出願にあたっては、必ず本学ホームページにて最新の情報を確認してください。

OPEN CAMPUS


東京海洋大学で「1日大学生」してみよう。

オープンキャンパスを2回開催します！

大学・学部紹介、模擬講義、研究室紹介、入試相談など盛りだくさんのメニューでみなさまの参加をお待ちしています。

	学部	第1回	第2回
対面	海洋生命科学部	2026年8月2日(日)	2026年8月23日(日)
	海洋工学部	2026年7月20日(月・祝)	
	海洋資源環境学部	2026年8月1日(土)	2026年8月23日(日)

大学案内等の資料請求方法

 「テレメール」から請求


■ パソコン・スマートフォン・携帯電話

<https://telemail.jp/shingaku>



■ カスタマーセンター

TEL 050-8601-0102 (9:30～18:00)

 「モバっちょ」から請求

■ パソコン・スマートフォン・携帯電話

<https://djcm-b.jp/kaiyodai/>



■ カスタマーセンター

TEL 050-3540-5005 (平日10:00～18:00)

東京海洋大学の動画やコンテンツを
ホームページで見よう

「東京海洋大学 大学で学びたい方」
で検索！

- Scientist Profile (研究者紹介動画)
- 高校生向けミニ講義 Video (夢ナビ)
- 受験生サイト もっと知りたい！海洋大学
- 海洋工学部紹介ムービー
- バーチャルキャンパスツアー(品川キャンパス)
- バーチャルキャンパスツアー(越中島キャンパス) 等



東京海洋大学ホームページ



東京海洋大学 公式 X

